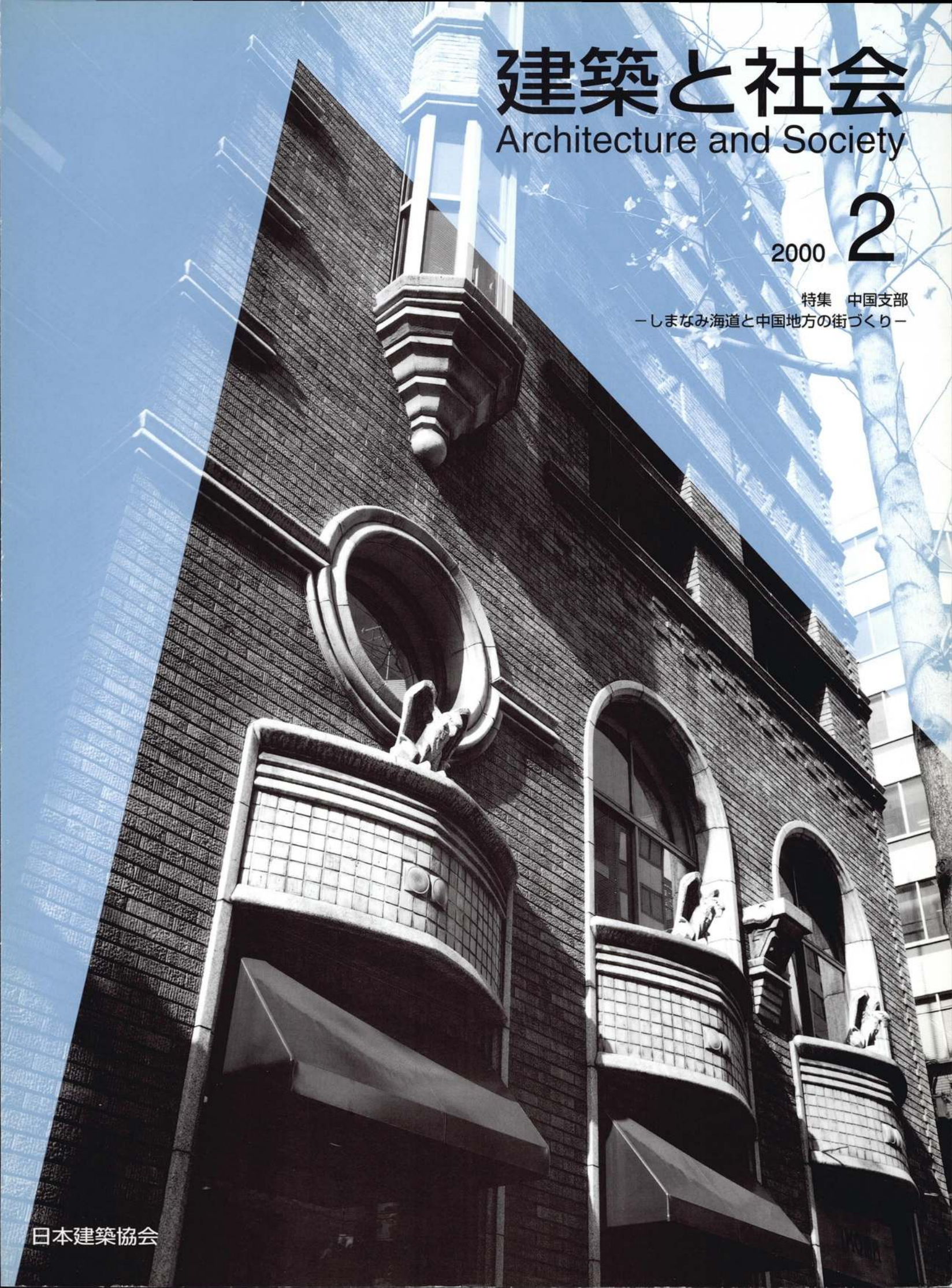
建築と社会
Architecture and Society

2000 2

特集　中国支部
－しまなみ海道と中国地方の街づくり－



日本建築協会

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈱日本建築協会事務局（TEL06－6348－0635、FAX06－6348－0634）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A5判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

1 茶室の話　岡田孝男
3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
5 すまいの語録　茶谷正洋
7 構造計画とやさしい力学1　須賀好富
8 建具の知識と意匠　山片三郎
9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
10 構造計画とやさしい力学2　須賀好富
13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越輝由
14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
16 石垣と石積壁　窪田祐
17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
21 住宅の家具　光藤俊夫
23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
28 建築金物の知識　立野一郎
30 住宅三備心得帳　平田純一
31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
32 建築塗装の手引き　児島修二
33 建築式典の実際　若林嘉津雄
34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
36 日本壁　山田幸一
37 身近な耐震設計法　前川陽一
38 住宅の照明　監修　大島博
39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会

特装本
火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判2色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

TQCから見た建設業　荒木隆彦
躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
現場マンのアイデア発想　合原一夫
建築基準法の実際　矢吹茂郎
ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
鉄骨工事の現場学　石田満裔
建築紛争の実際　岡本辰義
仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
木づくりの常識非常識　上村　武
建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B5判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

構造コストと経済設計　須賀好富
新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
建築設備の健康診断　牧野　茂
外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
建築デザインのための構造計画　須賀好富
場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
建築と緑　瀧　光夫
入門・建築積算　生島道春
水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集　## 話のはなし　1997年

B6判5分冊　企画:日本建築協会建築クラブ　1セット5,000円（消費税別）

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款　A4判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項
1部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A5判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

郵便はがき

料金受取人払

大阪中央局
承　認
305

差出有効期間
平成12年2月
23日まで

5308790

751

大阪市北区
梅田1-1-3-2100

社団法人　日本建築協会
御中

平成12年2月23日(水)　午後5時　通常総会

出席　　欠席　　(いずれかに○をして下さい。)

氏名

平成12年度　監事及び本部評議員投票用紙

社団法人　日本建築協会
会長　市川　宏

(1) 監事の選挙は正会員によって行います。
(2) 本部所属評議員の選挙は本部会員の投票によって行います。
監事の改選数1名、本部所属評議員の改選数は23名(うち、※印補選1名)ですが、それぞれ同数の推せん候補者は下記のとおりです。つきましては、信任投票を行いますので、不信任の候補者には×印をつけてご送付下さい。
(3) 各支部所属の正会員は監事のみご投票願います。なお、支部選出評議員の選任は、各支部総会で互選することになっています。

監事候補者　1名

	前田　隆司君

本部所属評議員候補者　23名（※印補選1名を含む）

	浅海　伸之君		田中　達夫君		松田　利男君
	上田　眞之君		髙木　嗣郎君		三木　敏男君
	植田　久夫君		立野　純三君		宗田　奎二君
	打垣内尚雄君		辻本　健君		村上幸三郎君
	大塚日出夫君		谷　哲司君		矢野　卓生君
	塩脇　昭司君		中川　徹君		柳澤　淳右君
	下村　健治君		平岡　博君		※沼本　宣勝君
	城口　俊雄君		前野　脩君		

注)支部会員は、本部所属評議員については投票しないで下さい。

日本建築協会

会告

通常総会開催

本年度通常総会を下記のとおり開催いたしますので出席下さるようご案内申し上げます。
なお、綴じ込みの監事・評議員の投票用紙は事前にご送付下さるようお願いいたします。

平成12年２月１日
社団法人　日本建築協会
会長　市　川　　宏

記

と　き　平成12年**２**月**23**日(水)
午後５時（時間厳守）
ところ　日本建築協会会議室
（大阪駅前第３ビル21階）
〒530-0001　大阪市北区梅田１丁目１番3-2100号
TEL（06）6348-0635

議　案　１．監事１名選挙の件
２．本部所属評議員23名
（内１名は補選）選挙の件
３．監事並びに評議員重任の件
４．名誉正会員推挙の件

※団体正会員については、表決件数の関係上、別途投票用紙等を送付しますので、綴じ込みの用紙は使用しないで下さい。
※支部所属の個人正会員は、監事についてのみ投票して下さい。

■監事および評議員の任務

監　事　常時会務および財産の状況を監査し、特別の事由あるときは、総会または評議員会を招集することができる。
理事会に出席して意見を述べることができる。

評議員　評議員会を組織してつぎの任務を行う。
会長、副会長および理事の選任、収支予算案の議決、その他重要会務を議決する。

会員の皆様には、ますますご清祥の段お慶び申し上げます。
さて、日本建築協会平成12年度役員選挙に際し、下記各位を推薦いたしたいと存じます。（各支部選出の評議員を除く）
つきましては、何卒ご賛同の上、ご投票下さるようお願い申し上げます。

（※印補選1名を含む）

監事候補者
□前田　隆司君（前田商会）
（以上１名）

□本部所属評議員候補者
●技術部門
下村　健治君（大阪青山短期大学）
中川　　徹君（清水建設）
平岡　　博君（大阪市）
三木　敏男君（サングローブ）
村上幸三郎君（村上デザイン事務所）
●総合部門
植田　久夫君（間組）
上田　眞之君（藤木工務店）
大塚日出夫君（淺沼組）
塩脇　昭司君（錢高組）
髙木　嗣郎君（大林組）
谷　　哲司君（奥村組）
松田　利男君（戸田建設）
宗田　奎二君（竹中工務店）
栁澤　淳右君（安藤建設）
辻本　　健君（辻本工務店）
前野　　脩君（あめりか屋）
※沼本　宣勝君（鉄建建設）
●電気部門
浅海　伸之君（浅海電気）
矢野　卓生君（中央電設）
●管工部門
城口　俊雄君（大阪城口研究所）
田中　達夫君（精研）
●建材部門
打垣内尚雄君（東洋シヤッター）
立野　純三君（ユニオン）
（以上23名）

■平成12年度留任監事・評議員

□監事
伊藤　俊夫君（松村組）

□本部所属評議員
●技術部門
鶴田　昭一君（建築工房和泉屋）
山形　政昭君（大阪芸術大学）
●総合部門
坂本　　佶君（松村組）
林　　憲三君（大日本土木）
宮崎　靖司君（鴻池組）
任田　　勉君（西松建設）
遠藤　裕造君（三井建設）
原　　眞一君（コーナン建設）
中道　正伸君（中道組）
●電気部門
成尾　克彦君（きんでん）
岩橋　貞雄君（八千代電設工業）
高岸　宗吾君（近畿工業）
●管工部門
藤井　　篤君（須賀工業）
川瀬甲子雄君（扶桑管工業）
福谷　守弘君（朝日工業社）
●建材部門
志田　　稔君（ゼネラル化成）
月城　則男君（新東洋合成）

□支部所属評議員
井上　弘美君（アオケン）
福永　敏男君（福永建設）
林　　金之君（愛知工業大学）
盛田　輝勇君（丸善深見建装）
森田富士男君（シード）
福田　泰造君（福田泰造建築事務所）
井村　眞哉君（井村建築設計事務所）
北山　泰秀君（北山組）

会員増強にご協力お願い

日本建築協会は大正６年の創立以来、間もなく85年の歴史を刻むことになります。この間、皆様方のご協力により各種事業を円滑に推進することができましたが、ご承知のごとく、経済の長期低迷により、私ども建築界は未曽有の厳しい時代を迎えております。やがて21世紀の幕開けとなりますが、この新しい世紀を明るいものとするためには、何としても現在の困難な時期を克服しなければなりません。幸い、本会は建築界のあらゆる分野の方々を会員とする建築総合団体でありますので、この特質を生かして、建築各部門の連繋を一層密にし、雑誌「建築と社会」刊行のほか各種事業を積極的に推進したいと考えます。
つきましては、引き続き皆様方の絶大なご協力により会員の増強に努め、会勢の発展を図りたいと考えておりますので、是非新入会員の勧誘にご協力下さいますようお願い申し上げます。なお、「協会の概要」および「入会申込書」が必要な場合は事務局（電話(06)6348-0635）までご一報下さい。折り返しお送りさせていただきます。

社団法人　日本建築協会
会長　市　川　　宏

講演会
設計者のための写真術 パートⅡ
吉村行雄
設計に役立つ写真の撮り方

前回の好評により再度、吉村行雄氏をお招きいたします。傑れた建築写真の「なぞ」の一端でも解けたら、こんなうれしいことはありません。多分「わたしも明日からさっそくそのテクニックを……」となることでしょう。多数のご参加をお待ちしております。

（事業委員・酒井重治）

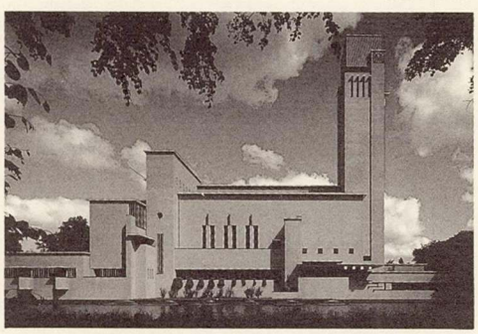
昨年９月の講演では、「写真の見方・撮り方・使い方」について、建築と写真の概論的なお話をさせていただきました。おかげ様で予想外の関心をお寄せいただき、感謝しております。

今回はパートⅡとして、最も反響が多く寄せられた「写真の撮り方」にポイントを絞り、設計者の皆さんに役に立つ撮影のヒント・ノウハウをお話したいと思います。国内外を旅行し、名建築に出会ったとき、その感動をどう撮るか、アングルは、必要な機材は、フィルムは、露出は、等々……。

また、設計資料にするための撮影のポイントや、プレゼンテーションに使える写真を普段から撮るための心がけなど、設計ツールとしての写真の効果的な活用法をお話したいと思います。

実例として、ヨーロッパの名建築や都市などのスライドをご覧いただく予定です。

（吉村行雄）





吉村行雄（よしむら　ゆきお）
1946年大阪市生まれ
1971　武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
　　竹中工務店入社（本店設計部）
現在　総本店広報課長
　　一級建築士、建築写真家
受賞
1968　新建築住宅設計競技二位
1994　全国のカタログポスター展で写真集が通産省生活産業局長賞
写真活動
1971年より設計業務に携わる傍ら、建築写真撮影を行う。1984年より総本店広報のPR誌・社報等にて建築写真活動。国内各地で個展・グループ展、1998年にニューヨークで写真展を開催。

日　時　2000年 3 月29日(水)
　　18:30―20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　吉村行雄
　　一級建築士、建築写真家
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般1,500円＊税込
申　込　３月22日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名
　　：講演会･設計者のための写真術
　　②氏名
　　③個人会員、団体会員、一般の別
　　④職場･学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を３月23日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会情報小委員会
　　担当主査：酒井重治

出版委員会企画
第22回<プロのノウハウ>講座

環境と共生する建築 25のキーワード



大西正宜氏（おおにし　まさのり）
1981年　大阪大学工学部建築工学科卒業
現　在　大阪府立今宮工業高等学校
　　定時制課程教諭
●主な著書
『初めての建築環境』
『一級建築士　合格ゼミ100ポイント』
（以上共著、学芸出版社）

地球環境問題に関する何らかの記事が連日業界新聞に報道されています。

一口に地球環境と言ってもその扱う題材はダイオキシンや産業廃棄物等産業活動の副産物にかかわる話題から、クリーンエネルギーのようなエネルギー問題に至るまで大変幅広い裾野を持ってきていますが、いずれを採り上げてもわれわれの生活や健康と結びついている、あるいは結びつくであろうという点では共通しています。

産業界では環境管理の国際規格ISO14001の認証取得も急速に進み、われわれ建設業も例外ではなくなってきています。建築は人が暮らす環境を決定してしまう大きな影響力を持っており、中に住む人々はもちろんのこと、建築物が周辺に与える影響も大きいものがあります。なかでも、建物建設中に排出される廃棄物、建物使用期間中に消費するエネルギーや排出するCO_2は代表的な環境負荷であり、環境負荷を低減させる活動は全産業の中でも最も効果が大きいものと言えましょう。いかに省エネを図り、建物の長寿命化を図るか等という環境負荷問題の帰するところは、建築計画、構造、設備、施工、改修、解体等建築物のライフサイクル全体に及ぶ話であることに気が付きます。

今回発刊された「環境と共生する建築25のキーワード」はそういった幅広い問題を収集し、それぞれについてどこに着眼すれば良いかを簡潔に指摘しています。入門書として活用できるのはもちろんのこと、具体的な問題解決に直面しても、その糸口を見つけるガイドブックとして十分活用できる絶好の書物です。この機会にぜひ講習会にご参加いただき、限られた資源の中でどのような技術を強くしていったら良いのか、今出来ることは何なのか、建築にかかわる環境問題を共に考えていく糸口を掴んでいただきたいと願っています。

出版委員会委員　中川　徹

日　時　2000年 3 月24日(金)
　　18:00―20:00
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　大西正宜／大阪府立今宮工業高等学校定時制課程教諭
定　員　30人
受講料　会員 1,800円、一般 2,000円
　　（消費税を含む）
テキスト　『環境と共生する建築25のキーワード』
　　テキスト代　特価 2,400円
　　（消費税を含む）
　　＊当日、持参される方は不要。
申　込　本会事業課へハガキ、FAX、電話でお願いします。
　　①催し名（「プロのノウハウ講座22」）
　　②氏名
　　③個人･団体会員、一般の別
　　④職場名･学校名
　　⑤受講票の送付先・電話番号
　　をお知らせ下さい。
　　先着順で受講票をお送りします。
申込先　〒530-0001
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　㈳日本建築協会事業課
　　TEL.06-348-0633
　　FAX.06-348-0634

読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』

読者アンケートにご回答下さい

日本建築協会誌「建築と社会」では、新世紀の幕開けとなる2001年初頭より、本誌掲載の建築作品、論文、記事を対象に本会会員の投票による顕彰制度、読者と選ぶ『建築と社会賞』を実施しております。

本賞は、「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい、社会性、環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文、記事などを顕彰するものです。なお、その選考方法は、会員参加を考え、会員読者の投票による第一次選考及び、編集委員会で定めた選考委員会での第二次選考を経て決定いたします。

〔選考対象〕

読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』は、2000年1月号～12月号の本誌「建築と社会」の「作品作風頁」「本会支部作品頁及びそれに準ずる作品頁」に掲載された建築作品及び、「特集頁」「シリーズ頁」「実務の頁」「投稿欄」・その他頁に掲載された論文、記事の中から選考する。

〔選考・スケジュール〕

●第一次選考

「建築と社会」2000年1月号～12月号の各号に読者アンケート用紙(FAX送付用)を掲載し、会員読者から送付いただく。また、2000年12月号には会員読者の投票用ハガキを綴じ込み、双方に準拠し第一次選考を行う。12月号には、選考要項、選考委員名などを掲載する。

●第二次選考

「建築と社会」編集委員会で定めた本賞選考委員会で、第一次選考を通過した作品、論文、記事などを該当者より提出された審査資料に基づいて選考する。

●発表

入賞者は、本人に通知するとともに、「建築と社会」2001年4月号で発表。同年4月に開催される編集委員会総会で表彰予定。

〔表彰内容〕

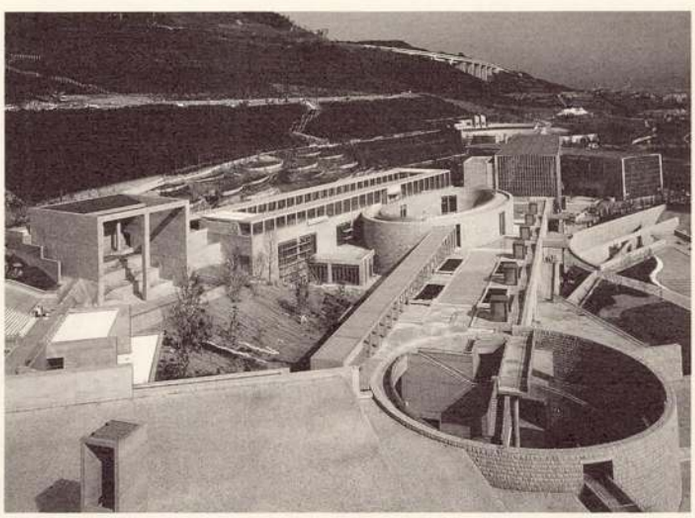
作品　　1～3点
論文・記事　1～3点

各入選作品・論文・記事に対し、賞状、記念品を贈呈する。

2月号読者アンケート用紙は、p71に掲載しています

淡路夢舞台を訪ねる

――バスツアー見学会――



淡路夢舞台

左下:TOTOセミナーハウス
右下:真言宗本福寺水御堂





兵庫県では「淡路島国際公園都市」整備構想の中核施設として、「淡路夢舞台」の建設を進めており、2000年3月にオープンする予定です。この施設は、広大な土砂採取跡地を緑化することにより自然を回復し、その中に国際会議場やホテル、温室などの施設群を散在させ、自然との共生を図ることを意図したものです。

また隣接地では、2000年3月18日から半年間にわたり、国際園芸・造園博「ジャパン・フローラ2000」が開催される予定です。

今回、兵庫県企業庁並びに㈱夢舞台関係者の格別のご協力により、見学会開催の運びとなり、安藤忠雄建築研究所の担当者より本計画の設計説明をしていただけることになりました。

また、夢舞台敷地の近くにある同研究所設計の本福寺水御堂やTOTOセミナーハウス等を合わせてバスで一巡する見学会を企画しました。

寒さ厳しき時節ではありますが、多数の方々のご参加をお待ちしています。

日　時　2000年 2 月19日(土)
　　8:30―18:00
見学先　淡路夢舞台
　　真言宗本福寺水御堂
　　TOTOセミナーハウス
講　師　長谷川浩三／兵庫県企業庁
　　淡路建設局局長
　　安藤忠雄建築研究所担当者
　　秦　力／竹中工務店総括作業所長
交　通　貸切バスツアー／大型バス2台
集　合　三宮駅前
定　員　80人／申込多数の場合は抽選
参加費　会員 6,000円、一般 7,000円
　　学生1,000円引
　　＊昼食・税込
申　込　2月7日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名：淡路夢舞台を訪ねる
　　②氏名
　　③個人会員・団体会員・一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証と参加費振込先を2月8日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　TEL.06-6348-0633
　　FAX.06-6348-0634
　　〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
　　事業委員会見学会小委員会
　　主査：森田芳次／安井建築設計事務所

平成11年度 建築工事実務講習会

主催 ㈳日本建築協会

■趣旨と内容

- 官公庁・設計事務所・建設業をはじめ、設備・営繕など幅広い分野の有能な技術者を養成する目的をもって、講習会を開催します。
- とくに取りつきにくい施工計画と仮設見積、現場実務の基礎である積算業務に重点をおき講義します。
- また、都市環境の変化に伴う法令・規準の改正なども加え、技術の進歩に即応した知識の習得をはかります。
- 「積算業務」では建築数量積算基準にのっとり、また「仮設見積」ではS造・地下1階・地上13階建事務所ビルをとり上げ、わかりやすく解説します。

■申込要領

下記受講申込書の受講希望科目を線で囲み（両科目とも受講される場合は、両方を線で囲んで下さい）、必要事項をご記入の上、受講料を添えて本会事業課までお申し込み下さい。（受講料は銀行振込・郵便振替でも可。但し、その場合お払込みいただく前に、必ず受講申込書を郵便かFAXでお送りください。）引換えに受講券をお送りいたします。

※定員に達し次第締切ります。

■申込先

㈳日本建築協会

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3-2100
（大阪駅前第3ビル21階）

TEL.（06）6348-0633 FAX.（06）6348-0634

- 受付時間　毎日、午前9時半～午後5時半。但し、土・日・祝日を除く。
- 詳細は、事務局事業課へお問い合わせください。

■科目・講師

施工計画

- 施工計画Ⅰ　関川　詞之氏
  大成建設㈱関西支店建築部工事計画室次長
- 施工計画Ⅱ　佐貫　久氏
  鹿島建設㈱関西支店建築部生産計画室長

施工計画はその良否が、いかに能率よく、品質を確保し、安全で、経済的に本体工事を施工するかの鍵をにぎっています。仮設から仕上げ、設備にいたる工事全般について、適切な施工計画をいかに立案するか、その要点をわかりやすく説明します。

＊

と　き　平成12年3月1日(水)
　　午前9時～午後5時
ところ　大阪府建築健保会館・6階ホール
　　（大阪市中央区和泉町2-1-11）
定　員　100名
受講料　10,000円（テキスト代、消費税を含む）

積算・仮設見積

- 仮設見積　金澤　稔氏
  ㈱大林組本店建築生産技術部副部長
- 積算業務　高熊　満氏
  ㈱竹中工務店大阪本店見積部見積担当課長

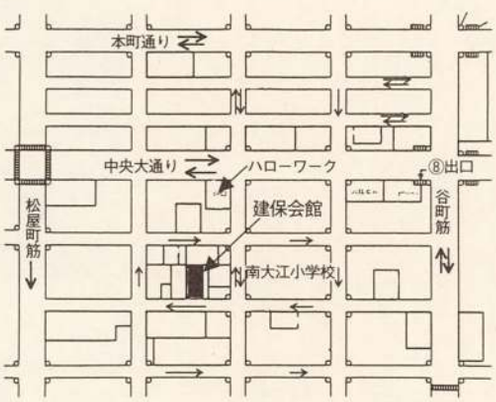
コスト算出の基盤は正しい数量積算です。建築技術者として合理的な数量算出が出来るように、積算基準、手順並びに管理に重要な数量のチェックポイントを解説します。また、仮設工事費は、全体工事費に対して大きな比率を占めているにもかかわらず、単に床面積当たりとか請負金比率といった概算で見積されている場合も多いのが現状です。施工計画に基づいた合理的で迅速な見積方法を解説します。

＊

と　き　平成12年3月8日(水)
　　午前9時～午後5時
ところ　大阪府建築健保会館・6階ホール
　　（大阪市中央区和泉町2-1-11）
定　員　100名
受講料　10,000円（テキスト代、消費税を含む）

■受講料振込口座番号

- 取引銀行
  住友銀行高麗橋支店
  （普通No.860034）
  三和銀行瓦町支店
  （普通No.210054）
  大和銀行北浜支店
  （普通No.272234）
- 郵便振替
  00910-9-39975



大阪府建築健保会館付近見取図

キ リ ト リ 線

平成11年度建築工事実務講習会 受講申込書

No.＿＿＿＿

社団法人 日本建築協会 御中

平成12年　　月　　日

郵便番号	受講者氏名	年齢	受講希望科目 ※両科目とも受講される場合は、両方を線で囲んで下さい。	
所在地			施工計画	積算・仮設見積
事業所名（または氏名）			施工計画	積算・仮設見積
担当責任者			施工計画	積算・仮設見積
電話番号			施工計画	積算・仮設見積
受講料支払方法　•事務局へ持参　•現金送金　•銀行振込　•郵便振替　いずれかに○印を付して下さい。				

※受講申込書が足りない場合は、複写して下さい。

今月の表紙

表紙デザイン／笹村欽也
建築写真／河合止揚

●生駒時計店
設計／宗建築事務所　施工／大林組
1930年　大阪市中央区平野町

■さまざまな様式をちりばめた独特のデザインが、強烈な個性を放っている。昭和初期の華やかなりし堺筋と平野町の面影を残し、色あせぬそのデザインは、時を刻むランドマークとしての役割を今も果たしている。この作品を超える個性は、この堺筋にはまだ存在しないように思える。街並みと建物のあり方を考え直させてくれる名建築。

（笹村）

■特集予告

3月号／東海支部会員作品
　越中・富山―地域文化の形成と施設づくり
4月号／こころを癒す環境デザイン
5月号／測定

編集委員会（平成11年度）

■副会長
金多　潔
薬袋　公明
■編集理事
荒巻　恭士
井上　豊
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
立野　一郎
真塚　達夫
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松川　敏正
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
上杉　秀隆
江副　敏史
大村　昌聡
※荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
桜井　則雄
塚本　史郎
服部　光宏
山本　匡
★インテリア・住宅系
※石川　佳子
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
中田　誠
中村　孝之
中村　雅人
西田　和子
畑　康之
ベリー史子
水谷　美香
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
楠本　隆
佐治　明志
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫

□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
堀内　一夫
桝井　貴廣
村上幸三郎
※谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
植田　実
※小椎八重猛
太刀川丈爾
十倉　毅
能美　敏男
野口　幸忠
福井　茂和
□法令分科会
池口　和雄
亀谷　周二
黒木　省二
椎名　辰之
田村　俊郎
※浜野　幸雄
■作品作風小委員会
赤木　隆
朝倉　一晃
川上比奈子
倉澗奈千子
杉本　浩
寺岡　宏治
中村　文紀
藤城　義丈
△前川　治彦
牧野　雅一
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
吉田　健二
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
高岡　伸一
髙田　光雄
高橋　麗子
△塚口　明洋
辻川ひとみ
土田　伸二
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
△岩井　武夫
小幡　義明
加納伸太郎
家森　康彰
勝　一弘
小山　昭
斉藤　治久
武田　修示
平松　勉
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印　刷　2000年1月25日
発　行　2000年2月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　電　話　06-6348-0635
　振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
　日本データーネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕

建築と社会 2000 2

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第81集／通巻935号

CONTENTS

特集● 中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―

［会員作品］
尾道駅前地区再開発ビル　尾道駅前第一種市街地再開発事業 ―― 26
エールエールA館　広島駅南口Aブロック第一種市街地再開発事業施設建築物 ―― 27
秋吉台国際芸術村本館 ―― 28
島根県立中央病院 ―― 29
米子コンベンションセンター「ビッグシップ」 ―― 30
山口県工業技術センター ―― 31
広島県大柿合同庁舎 ―― 32
広島国際大学1号館 ―― 33
広島護国神社本殿・拝殿 ―― 34
福山大学新1号館 ―― 35
岡山市平和町5番地区第1種市街地再開発事業 ―― 36
広島パークヒル病院 ―― 37
金龍禅寺 ―― 38
ベイシティ宇品 ―― 39
ふくやま文学館 ―― 40

［しまなみ海道に寄せて］
ヒューマンポート・尾道―国際芸術文化都市を目指して―●相原　満 ―― 42
しまなみ海道開通で変わる瀬戸田町の観光●柴田大三郎 ―― 44
平山郁夫美術館●井上道稔 ―― 46

［トピックス］
路面電車からLRTへ―超低床電車で街が変わる?―●中尾正俊 ―― 48

［スケッチブック］
中国支部会員スケッチブック ―― 50

会告
通常総会開催.設計者のための写真術パートⅡ吉村行雄―設計に役立つ写真の撮り方―.第22回＜プロのノウハウ講座＞環境と共生する建築25のキーワード.読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』読者アンケートにご回答下さい.淡路夢舞台を訪ねる―バスツアー見学会―.平成11年度建築工事実務講習会. 1

作品作風
JR舞鶴線　西舞鶴駅・西駅交流センター 6
ジークレフ西宮武庫川館 8

九州の作品
小倉競馬場―スタンド改築、正入場門改築、モノレール入場門増改修― 10
筑紫女学園大学新学科棟 16
大分キヤノンマテリアル97A 18
西部ガスグループ・第一火災グループ研修保養所「ゆふトピア」 20

gallery
「光の中を歩く」―桜井市立図書館石彫モニュメント（北野正治）●川上比奈子 22

建築の眼
京の幾何学・江戸の幾何学●宮崎興二　葉っぱのフレディ●中山詳三
コンピュータ2～3年問題●遠藤秀平　表象A●桑田和明 24

Book Station
短評4編●稲木裕子・大谷由紀子 53

being
歴史的景観保全運動家（多田道夫）●北村恭一 54

法令コーナー
建築基準法改正と建築物安全安心推進計画●浜野幸雄 56

設備の頁
大丸神戸店の復興●金田満実 57

構造の頁
台湾地震の現地調査報告から●大野義照／岸本一蔵 58

REPORT
台湾百年大震災―九二一集集烈震の教訓●陳　宗禮 61

REPORT
集住体で街をデザインする―東部新都心HAT神戸・灘の浜デザインフォーラム●小笹光彦 64

基礎講座A
技術書はイラスト・写真に特徴をだす●山田　修 66

基礎講座B
厨房用自動消火装置●由上雅章 67

新建材の頁
4フッ化系フッ素塗料用樹脂 68

information
大坂の町家が蘇る―町家復元工事見学会―.講座《黄金の17世紀オランダ美術》.ATC関西学生卒業作品展Vol.5.HASS218制定に向けて.福祉住環境コーディネーター講座.セメント系固化材セミナー.第2回国際デザイン史フォーラム「日英デザイン交流史」.宅地擁壁技術講習会開催『知られざる建築家光安義光』限定頒布の予約受け付け（月報欄掲載） 70

月間の動き
平成11年11月分 72



西棟正面



東棟正面

作品
作風

設計■
ジェイアール西日本コンサルタンツ
現代計画研究所

監理■
西日本旅客鉄道

施工■
大鉄工業

JR舞鶴線　西舞鶴駅・西駅交流センター

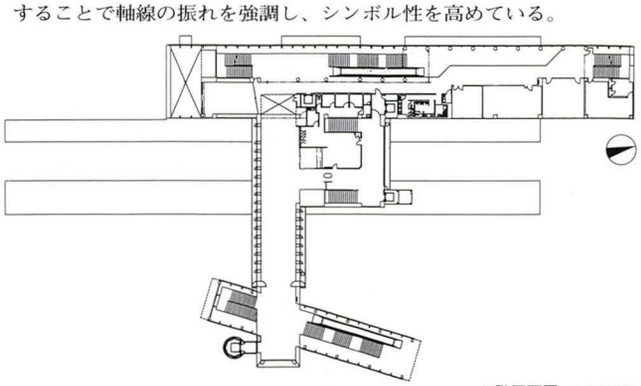
従来の駅舎は、西側のみに位置し、築造60年を過ぎた地平駅であったため、市民の長年の期待であった電化事業と合わせて、駅東西の交流を図るため、駅舎を橋上化し、線路上空に東西をつなぐ自由通路を設けた。

現代の駅舎は、鉄道利用の拠点としてはもちろんのこと、地域の顔・人々の出会いの場として、豊かなアイデンティティあふれる空間の創出が求められている中で、線路の西側には、自由通路の階段室を兼ねた都市施設を配し、東側は自由通路階段室とした。

都市施設は、線路に沿った細長長方形３階建のボリュームとし、地域随一のまとまった広さを持つ大きなスケールのファサードを駅前広場に面し形成させた。それは、幅88m高さ15mの全面ガラスのカーテンウォールとし、施設の内外をつなぐとともに、四季折々の街の姿を映し込む。また、駅前緑地のモニュメントとも呼応し、象徴的な駅前空間を形成する。ガラスは透明ガラスを基本とし、部分的に設けられたハーフミラーのストライプが単調なファサードとなるのを回避している。吹き抜けに面した透明ガラスの奥は、バックマリオンのみの無柱空間とし、さらに透明感を高めている。

東側階段室についても、線路跡地を利用した駅前広場の整備が計画されているため、ある程度のスケールボリュームとし、将来のランドマークとなることを考慮している。

また、軸線を北北西にある五老岳の方向に振ることによって、それを見ながら、階段を歩くことができるように計画している。これは全面透明ガラスのカーテンウォールであり、自由通路の箱体が管入することで軸線の振れを強調し、シンボル性を高めている。



２階平面図　1：1200

所 在 地 ―― 京都府舞鶴市字伊佐津小字コモイケ西213-1
敷地面積 ――9,101㎡
建築面積 ――1,948㎡
延床面積 ――3,790㎡
構造規模 ――S、3F
工　　期 ――1998年８月～1999年11月
最 寄 駅 ――JR舞鶴線・西舞鶴駅
撮　　影 ――島　修一・若狭プロカラー



駅舎北面



全景



▼西棟エントランス


ザ・ブレス
西宮
武庫川館

作品風作

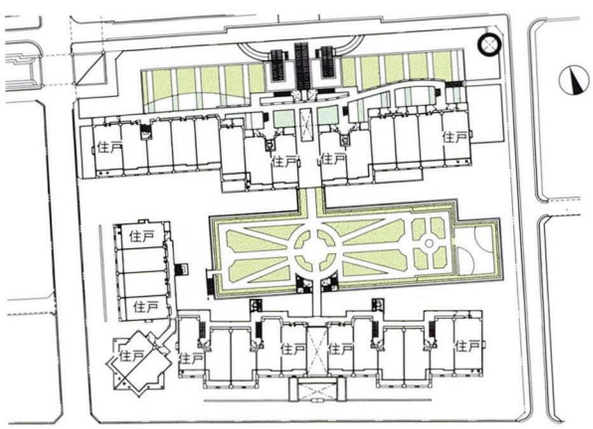
設計監理■
竹中工務店一級建築士事務所

施工■
竹中工務店

ジークレフ西宮武庫川館

建築地は阪神間、武庫川西側のサバーバンエリアに位置し、一戸建てと共同住宅との混在した四方道路の立地である。周辺に対して表裏の無い表現となるような住棟の配置とデザインとし、街路に対して正面性を持った西洋的街路型住宅の景観計画としている。
外壁は低層部を石目調吹付、中間部に50二丁磁器モザイクタイル、上部は瓦棒葺の勾配屋根とし、各接点にはコーニスを設けた３層の構成としている。主開口面は柱・梁を外壁側に設けたフレームデザインとし、廊下側も屋外階段のないバッテリータイプと空中廊下を採用し、主開口側のデザインを踏襲した。スカイラインにも変化をつけ、ヒューマンスケールのデザインと落ち着いた色調による洗練された都市的な外観となっている。南棟・北棟とも中間にはスリットを設け、北側住棟や近隣への日照確保とともに住棟間の開放性にも考慮している。ランドスケープデザインは武庫川公園軸を考慮した、緑の演出と駐車場棟の屋上に設けた建築と対等なバランスをもった庭園によって都市的なレベルから住棟まで快い緑視環境を創造している。これは幾何学模様で西洋的な庭園とし、住棟と一貫したデザインイメージとしている。また小さな広場を敷地外周に効果的に配置し、周辺と連続した緑地を形成して住民の憩いの場を提供している。エントランスゲート、列柱廊と共に個性的で変化に富んだ景観を構成している。既成市街地の住宅地における良好な修景の再形成と、高層集合住宅の疎外感・威圧感の低減に努めている。

（小谷美知夫／竹中工務店）



２階平面図（基準階）　１：2000

所 在 地 ――兵庫県西宮市東鳴尾町2-9
敷地面積 ――11,057.52㎡
建築面積 ――　6,538.17㎡
延床面積 ――26,307.69㎡
構造規模 ――RC、B1F、10F、P1
工　　期 ――1997年４月～1999年７月
最 寄 駅 ――阪神電鉄武庫川線・洲先駅
撮　　影 ――松村芳治

◀外観南面



外観南東面



外観内庭



外観北面

内観リビングダイニング





馬場側全景

小倉競馬場スタンド改築

設計監理　日本競馬施設・東畑建築事務所
施　　工　（第Ⅰ工区スタンド棟）フジタ・間組・淺沼組共同企業体
　　（第Ⅱ工区下見所棟）大成建設・安藤建設・錢高組共同企業体）

所 在 地　福岡県北九州市小倉南区北方4-5-1
敷地面積　130,554.50㎡
建築面積　24,948.45㎡
延床面積　81,143.45㎡
構造規模　SRC、S、B1F、7F
工　　期　1997年９月～1999年６月
最 寄 駅　北九州都市モノレール競馬場前
撮　　影　エスエス九州

▼メインエントランス側全景



作品
作風
九州の作品

□多彩な場のある競馬場

快適なレジャー空間の確保、多様化したファン層への対応、競馬本来の魅力の創出をコンセプトに計画された日本中央競馬会の競馬場である。

小倉競馬場が地域の公園としても定着していることから、多様なファン層にとって、適切なアメニティを持ち、なおかつ本来競馬場が持っている“馬を中心としたテーマパーク”としての空間を提供できる、多彩な場のある競馬場づくりを目指し、下記の８ゾーンで構成している。

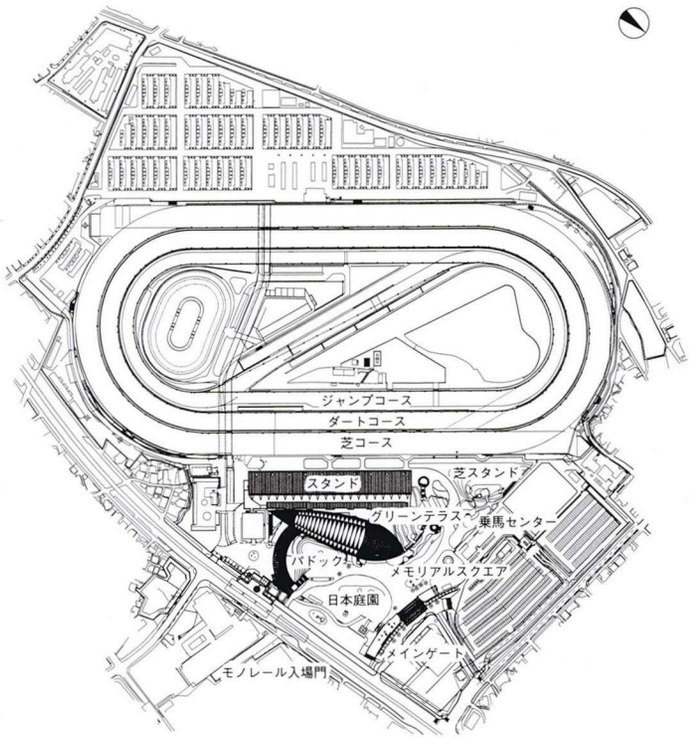
１．中型映像のあるアトリウム“プラザ99”
２．屋外席・屋内席・ロビー席などバラエティ豊かな観客席
３．周辺の緑地と一体化した緑豊かなグリーンテラスとイベントステージ
４．じゃぶじゃぶ池と芝スタンドからなる庭園ゾーン
５．ハレの場としてのパドック
６．馬の様子が間近に見える乗馬センター
７．旧コース・スタンドのゴール板・時計などを設けたメモリアルスクエア
８．古くから地域の人々に親しまれてきた日本庭園

□周辺環境との一体化

今回の小倉競馬場の大きなテーマは、周辺環境との一体化である。

物理的に巨大にならざるを得ないスタンドを、どのようにして周辺になじませることができるか？街に対しての顔となるべきパドック側に、コリドールや大屋根で構成された半屋外空間を設け透明感のあるガラスのスクリーンで覆うことで競馬場の華やかな雰囲気を伝えるとともに、外部の豊かな緑を取り込み、さらにアトリウム空間まで引き込むことで内外空間の一体化を図るとともに、緑という媒体により巨大なスタンドの表情を和らげようとしている。色彩的には、緑と相性のよいサンドベージュ色を基調色とすることで、全体としてリゾートの雰囲気を演出し、週末に訪れるファンにリラックスして一日を過ごしてもらうことを意図している。

（池田哲郎／日本競馬施設・三迫靖史／東畑建築事務所）



配置図　１：10,000



プラザ99全景



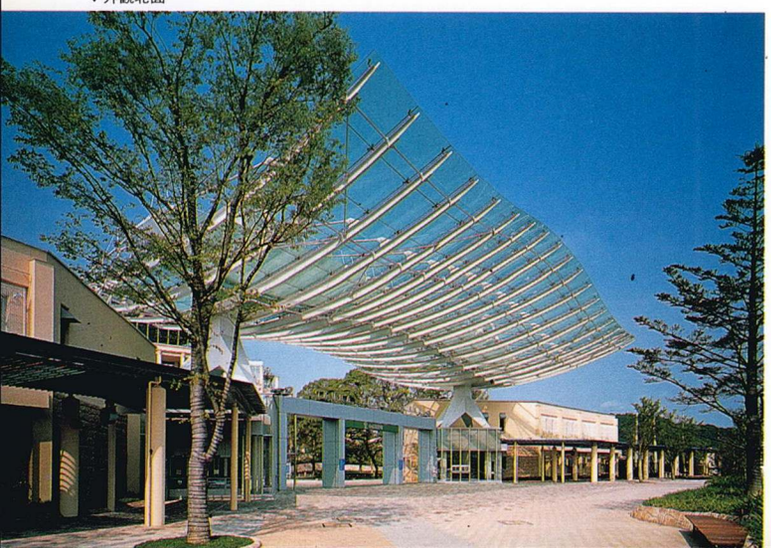
３階客留
▼４階指定席



航空写真



外観北面全景
▼外観北面



小倉競馬場正入場門改築

設計監理　日本競馬施設・東畑建築事務所
施　　工　三井建設・新日本製鐵共同企業体

競馬場に２カ所ある入場門のうちメインとなる施設の顔としてのゲートである。
機能としては入退場の他に、外部周りの従業員の詰所・非常用発電気室・特別高圧受変電設備室など、多用途で長大な施設を、建築的に全体のバランスをとりながら一つのゲートとしてまとめている。
両サイドの諸室からなるマッシブな棟の中央に、軽やかに舞う“クリスタルウェーブ”。これを通して見えるスタンドの外観とともに、今から始まるドラマチックなひとときを予感させる空間である。

（池田哲郎／日本競馬施設・三迫靖史／東畑建築事務所）

所 在 地　福岡県北九州市小倉南区北方4-5-1
敷地面積　130,554.50㎡
建築面積　2,265.61㎡
延床面積　1,700.90㎡
構造規模　RC、2F、一部S
工　　期　1998年５月～1999年６月
最 寄 駅　北九州都市モノレール競馬場前
撮　　影　エスエス九州

南面夕景

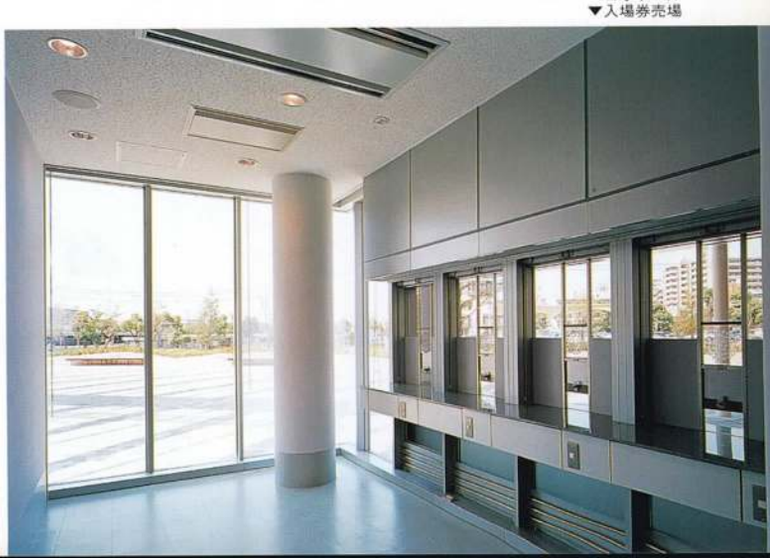


ゲートディテール
▼東棟南面外観



コリドール
▼入場券売場





外観全景
▼南面外観ディテール



小倉競馬場
モノレール入場門増改修

設計監理　日本競馬施設・東畑建築事務所
施　　工　西松建設・松尾建設共同企業体

モノレール駅に直結した入退場ゲートであるこの建物は、ゲート機能の他にモノレールコンコース・プラットホームおよび競馬場全体の警備本部・防災センターと、メインゲート同様多機能な施設である。工事の主目的はモノレール入場者の増加に備えた、プラットホームの拡張と、新改札口の設置であるが、公道上での工事となるため関係各所との調整、交通規制など、難問の連続であったが無事に竣工し、約６ヶ月の運用の中で特に大きな問題もなく、ピーク時のモノレールの乗降もスムーズに行われている様である。

（池田哲郎／日本競馬施設・三迫靖史／東畑建築事務所）

所 在 地　福岡県北九州市小倉南区北方4-5-1
敷地面積　130,554.50㎡
建築面積　920.95㎡
延床面積　1,887.88㎡
構造規模　S、3F
工　　期　1998年５月～1999年６月
最 寄 駅　北九州都市モノレール競馬場前
撮　　影　エスエス九州



エントランスゲート



スタンドとの連絡デッキ



2階エントランスホール



既存駅舎との2階連絡通路



3階プラットホーム待合



3階プラットホーム



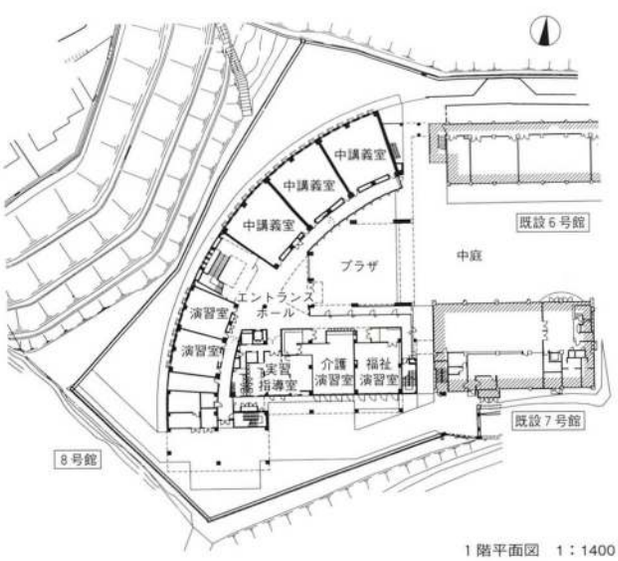
設計監理　日建設計九州支社
施　　工　竹中工務店九州支店、三建設備工業、きんでん

筑紫女学園大学新学科棟
〔大学校舎８号館〕

新学科棟の敷地は大学キャンパスの西端に位置し、古代文化の拠点であった太宰府を見下ろす緑豊かな台地が選ばれた。西側から北側に広がる素晴らしい眺望を生かしながら、近接する住宅地への圧迫感を和らげる形態――敷地形状に合わせ緩やかな曲面を描く外観は計画当初から抱いたイメージであった。

新学科棟のプログラムは、新設される［アジア文化学科］、［人間福祉学科］対応の講義室、図書館機能の再編成、そして研究室の増設を計画の柱とし、各種講義室、パソコン教室などの機能を盛り込んだ複合性の高い構成となっている。

外観の緩やかな円弧は、学生・教職員のアプローチとなる既存の中庭に連続したプラザ空間とエントランス空間を柔らかくつないでいる。そのエントランス上部にはステンドグラスが設置された。学園の建学精神である「自律・和平・感恩」を現代的な解釈によりデザインされたものである。図書館は既設７号館の３階にある施設と平面的に連続したフロアに設けた。中央サービス機能を移設し、インターネット、CD-ROM、AVなどの情報コーナー、参考図書、新聞コーナー及びパソコン対応のできる閲覧席から構成される。図書館家具は他の講義室と趣を変えマホガニー調とすることで、落ち着きのあるアカデミックなインテリア空間を目指した。(森田一哉／日建設計)



１階平面図　１：1400

所 在 地 ――福岡県太宰府市石坂2-12-1
敷地面積 ――78,441.32㎡
建築面積 ――　2,163.74㎡
延床面積 ――　6,408.75㎡
構造規模 ――SRC、一部S、4F、P1
工　　期 ――1998年４月～1999年２月
最 寄 駅 ――西鉄太宰府線・五条駅
撮　　影 ――岡本公二



空撮



東面外観



プラザ夜景　ステンドグラス製作：八田雅博

▼図書館



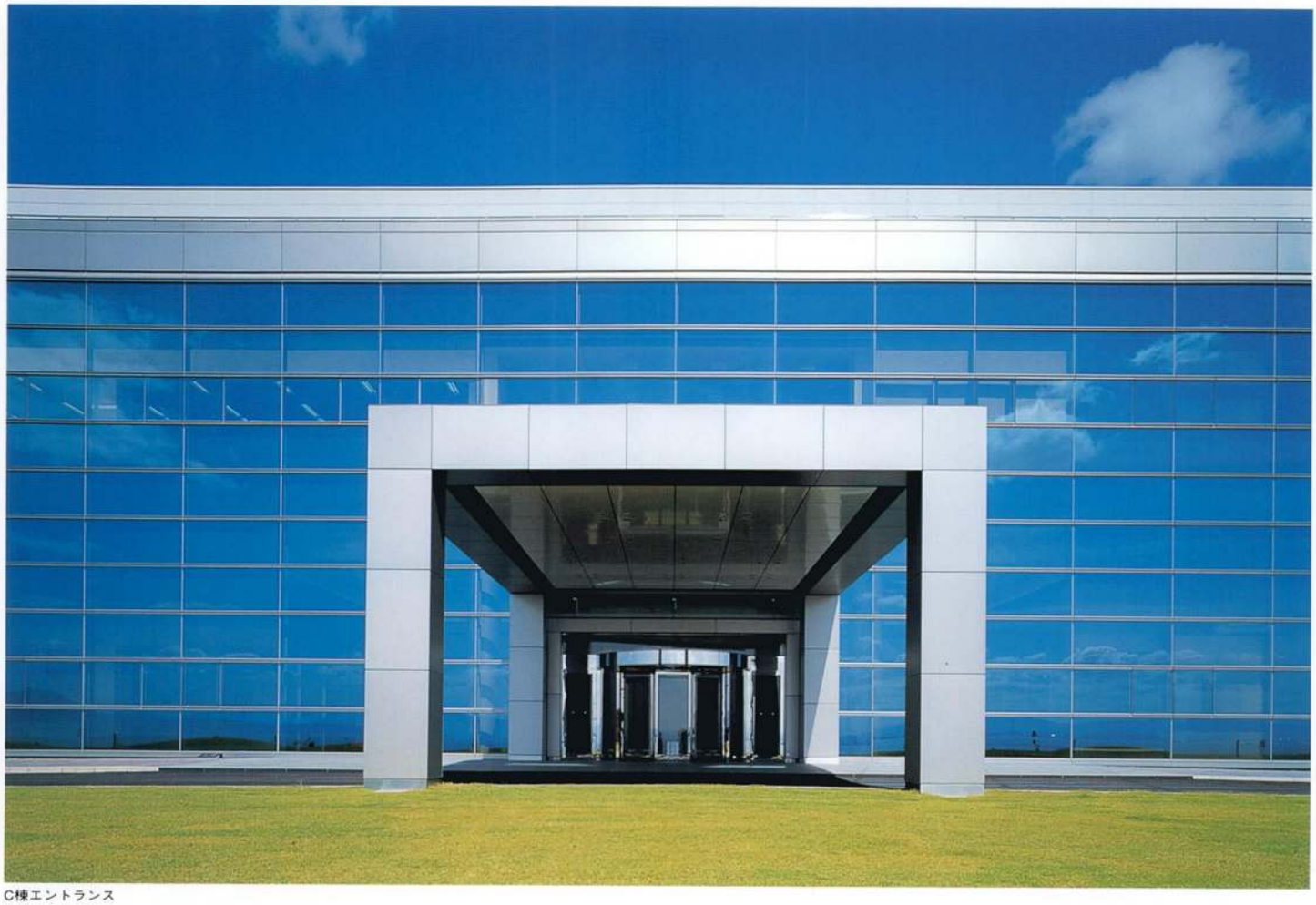


C棟南面

大分キヤノンマテリアル97A

設計監理　大林組九州支店一級建築士事務所
施　　工　大林組九州支店

所 在 地　大分県杵築市熊野1-111
敷地面積　204,859㎡
建築面積　38,408㎡
延床面積　108,145㎡
構造規模　S、7F
工　　期　1998年4月～1999年8月
最 寄 駅　JR日豊本線杵築駅
撮　　影　西日本写房福岡



C棟エントランス

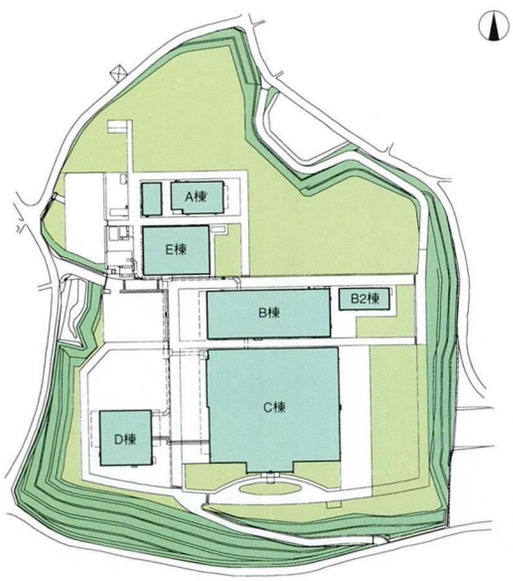
国東半島の南側に位置する杵築市は、カブトガニが生息する静かな城下町である。杵築市の南側、20.5haの広大な敷地からは別府湾をはさんで大分市、別府市がパノラマで一望できる。この自然に囲まれた敷地に21世紀に向けた化成品の新工場が完成した。

生産されるのは複写機やプリンターの消耗品であるカートリッジ。トナー、ドラム製造からカートリッジ組立てまで一貫生産できる工場は世界初であり、世界へ向けた将来の生産拠点として位置づけられている。

設計目標を、機能性・対応性・生産性に優れた総合力の高いプラントの実現とし、自然に囲まれたうるおいのある快適工場、省エネ・省力化を追求したクリーンな工場を目指して計画を進めた。また、塩害対策、地下共同溝等で地域特性に対応した長寿命の施設となるよう考慮している。

施設の特性として現模、形状の違う建屋が機能的に配置される。その中で、海に面するC棟は工場全体の中枢施設であり、カーテンウォールと外壁の対比による力強くシンボリックなファサードとなっている。晴れた日にエントランスに立つと、緑の芝生の先に別府湾が広がり、振返るとカーテンウォールに青空と海がひとつに溶け合って映り込む。

（中山二郎／大林組）



配置図　1：8000



C棟カーテンウォール

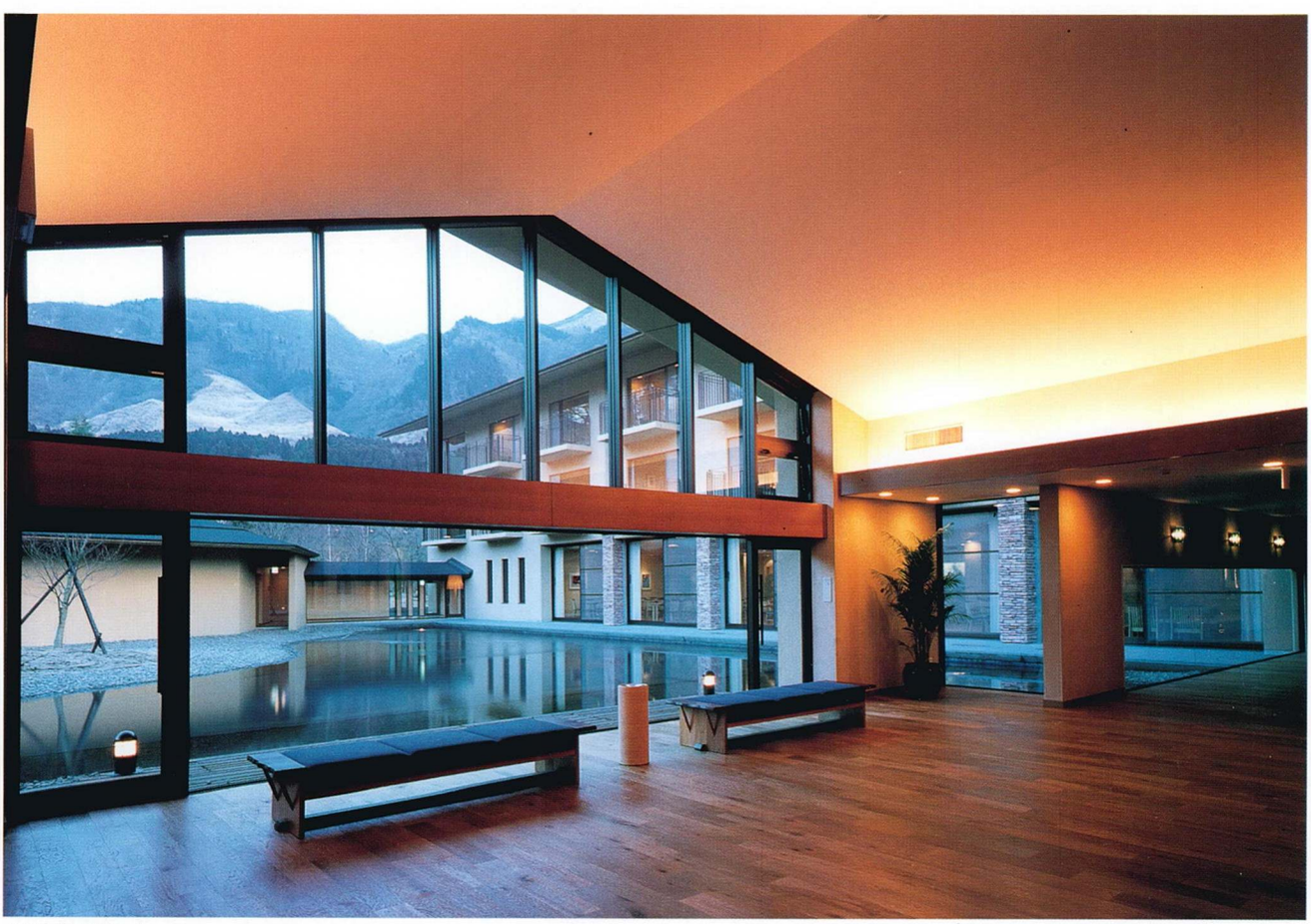


C棟エントランスホール



全景

正面外観



エントランスホール

設計監理　竹中工務店九州支店
施　　工　竹中工務店九州支店

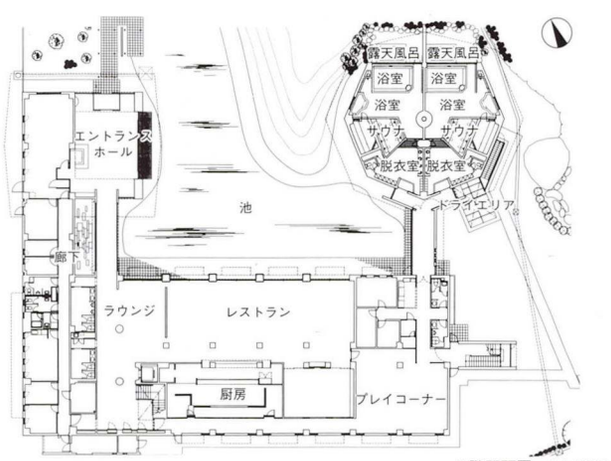
西部ガスグループ・第一火災グループ 研修保養所「ゆふトピア」

湯布院は四季折々の美しい自然に囲まれ、個性豊かな文化や芸術の盛んな古くからの温泉保養地である。そして由布岳は多くの人々に愛され親しまれてきたこの山里の町の象徴である。

当研修保養所はその由布岳の麓に位置し、岩肌の荒い秀峰の雄姿を間近に望むことが出来る。この地には、かつて西部ガス保養所と第一火災研修所が隣接して建っていたが、両者とも老朽化が進み、土地の有効利用をはかるため共同の研修保養所として今回建て替えられたものである。

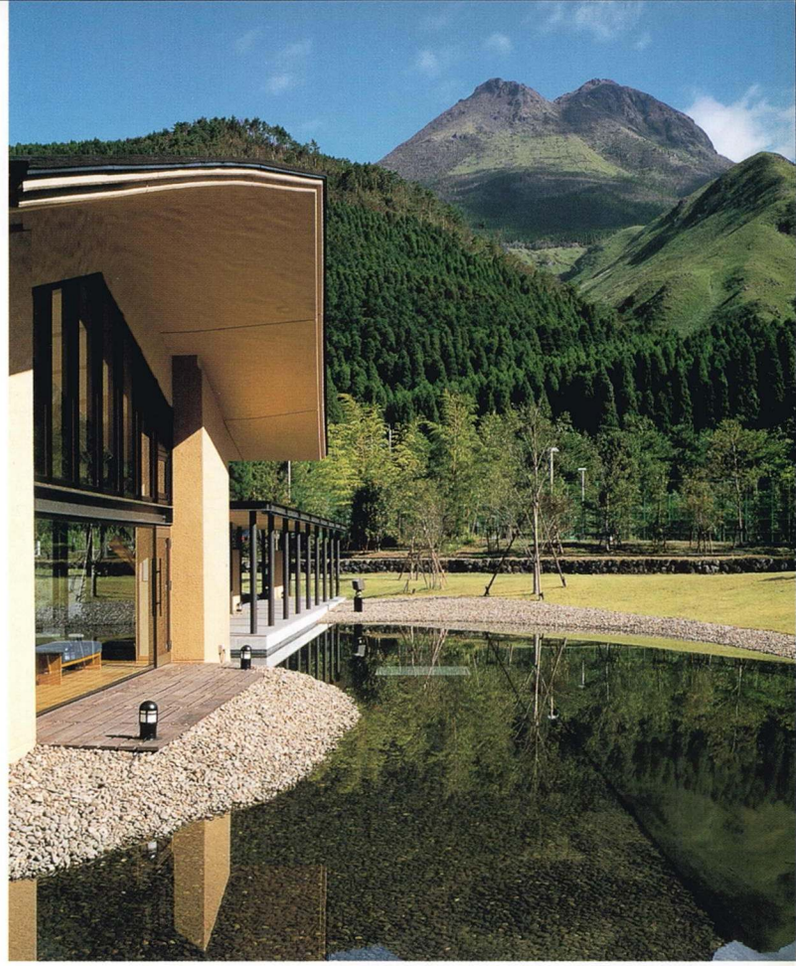
由布岳の雄大な景観を最大限活かし、かつボリュームを押さえて周辺の豊かな自然との調和をはかるために、施設は由布岳の方向を意識した３棟からなる分棟配置とし、外観は素朴で落ち着きある形態でまとめた。平屋のエントランス棟は中庭に向かって大きな開口をとり、来訪者のリゾート気分を高める。宿泊棟の１階はレストランを配し、由布岳の雄大な景観を正面に望みながらの食事を提供し、２階の一部に湯布院の街を望むことのできる研修室、そして宿泊室を２階・３階に配置した。浴室棟は由布岳に向かって配置し、その景観を満喫できるよう計画した。また３棟に囲まれる中庭は大きな水面とし、季節の移ろう姿をより身近に感じることが出来るようにした。

（平田文広／竹中工務店）



１階平面図　１：1000

所 在 地　大分県湯布院町大字川上1947-38
敷地面積　14,354.62㎡
建築面積　1,989.21㎡
延床面積　3,311.35㎡
構造規模　RC、B1F、3F
工　　期　1998年４月～1999年１月
最 寄 駅　JR由布院駅より車で6分
撮　　影　イトープロフォート



レストランよりエントランス棟・中庭・由布岳を望む



レストラン



▼玄関アプローチより宿泊棟を見る（夜景）

gallery

光の中を歩く

桜井市立図書館　石彫モニュメント

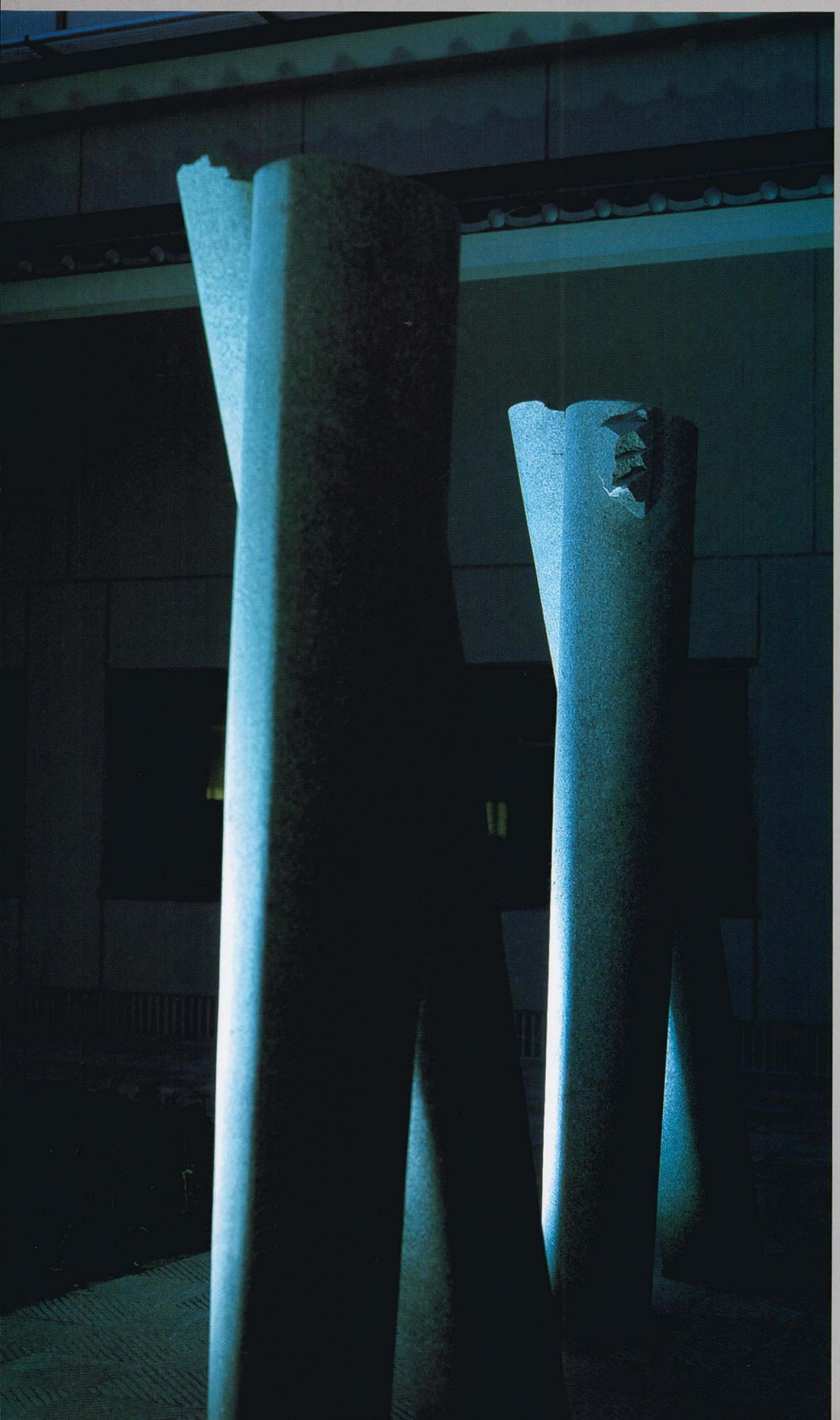
彫刻家
北野正治

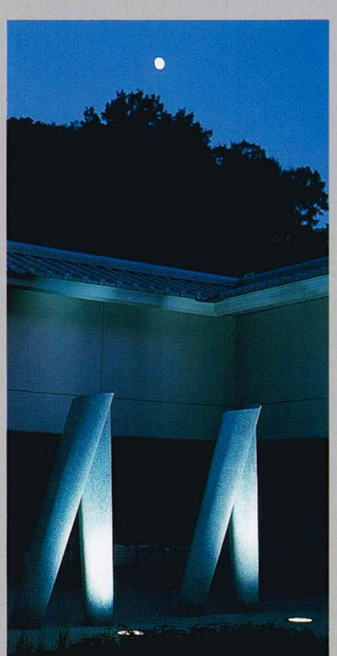
そこには現象世界を存在の隠喩と感じ
てきた長い時間があった
その幻想からも遠く離れてしまった
あまりにも人間的な今の感情
信じていたことを悔やむものではない
むしろ喜ばしい諦観
不全に受信し発信する身体
再び青い欲望

大和、山に囲まれた桜井市は古代の道
山辺の道の起点

きたの　まさはる
北野正治
1948　大阪府堺市生まれ
1971　京都市芸術大学美術学部卒業
1972～　個展・グループ展出品、受賞多数
現在、夙川学院短期大学美術科教授

最近の活動
1990　パークヒルズ田原彫刻シンポジウム（奈良）
西宮市選抜展
アートヒル三好ヶ丘'90彫刻フェスタ（名古屋市）
1991　石の道・池田石彫シンポジウム'91（池田市）
1994　宝塚石彫シンポジウム（宝塚市）
1995　ABCギャラリー個展（大阪）
1998　信濃橋画廊個展（大阪）など





撮　影―花城辰男（昼景）
北野正治（夜景）
企画編集―川上比奈子（作品作風小委員会）







京の幾何学・江戸の幾何学

宮崎　興二

筆者の趣味の一つに「京の幾何学」というのを調べることがある。昔から京都に残る、○△□といった幾何学図形の跡を訪ねては、その謎解きをするのである。そのあげく、では「江戸の幾何学」はどうか、という問い合わせがあった。

そんなことをいわれても江戸との関係薄い筆者には調べようがない、と残念に思っていたところ、「京の幾何学」の成果をほとんどそのまま逆にすれば「江戸の幾何学」になることに気づいた。京で○なら江戸では□、京で右なら江戸では左、京で白なら江戸では黒、京で裏なら江戸では表、京で陰なら江戸では陽、京で上なら江戸では下、といったぐあいで、その対比はあまりに明快で、ものすごい。

今の建築や都市でみても、京都は小高い山の中にあって四角い碁盤目状、東京は低い海辺にあって丸い同心円状、それに、なぜか京都タワーは丸く、東京タワーは四角い。エレベーターに乗るとき京都では右に立って未来志向の東京の悪口をいい、東京では左に立って過去志向の京都の悪口をいうなど当然である。

狭い日本で、こんなに違った首都を平然と持ってきたところには、ルース・ベネディクトのいう、平和な菊と危険な刀を平気で左右に持ってそのどちらを前に出すか予想もできないあやしげな日本人気質が、丸出しになっている。

京都大学人間・環境学研究科教授

葉っぱのフレディ

中山　詳三

通勤途中の今出川通りに銀杏並木がある。昨年末までは穏やかな冬の陽に散り残った黄葉がさざめき合っていたが、今はすっかり落ちてしまって寂しい限りである。その黄葉を思い出すとともに、昨年話題となった童話「葉っぱのフレディ」を思い出した。森繁久弥さん朗読のCDもヒットした。新聞でCDの発売を知りさっそく聴いてみた。と、大袈裟ではなく例えようのない感動に大きく心を揺さぶられた。『42年間朗読の仕事をしてきたが、こんなに心を打たれた作品は初めてだ。せがれを亡くして落胆していたが、もう一度生きようと思い直した』との森繁さんの話にも心からうなずけた。

この童話は、フレディという名の一枚の葉っぱに託して命の大切さや命の繋がりについて気付かせてくれる。そして人間もまた一人ひとりが掛け替えのない存在であり、その人にしか出来ない役割を担って生きていて、その違いや役割をお互いに認め合うことの大切さが、真っ直ぐに心の中に飛び込んで来る。

この“フレディ”との出会いは、高度経済成長の流れの中でそれらの大切さを忘れそうになっていた自分を反省する良い機会となった。頭ではなしに心で感じ分かり合い、そして行動していけるような今年でありたいと思う。

まだお聴きでない方、是非ご一聴を‼

京都府土木建築部営繕課長

コンピュータ２～３年問題

遠藤　秀平

１月を迎えどうやら2000年問題は特に大事には至らなかったようだ。事前のふれこみの騒ぎを考えると拍子ぬけの感さえあるが、無事に越したことはない。我が事務所のデータも過剰にコピーされミレニアムのイベントに参加していたが、多くの設計事務所にとっても重大な関心事であったに違いない。

しかし、これにもまさる大きな問題が進行中である。それは、コンピュータ２～３年問題である。笑い話のようだが設計行為の日常に関わる問題として頭が痛い。小さな事務所であるが、いつの間にやら一人一台以上となってしまった。また、使用するソフトももはや把握できなくなりつつあり、とりあえず誰かが何かのソフトのことを知っている程度である。そして、このハードとソフト相互が２～３年で大きく変化するのである。より早い処理能力を体験した途端に、もはや従来の機種が前時代の遺物になりはてるのである。メーカーではアップグレードカードなる魔法の杖を用意してくれるのであるがこれとて高価である。かといって、役に立たないゴミとして廃棄に至れば環境に負荷を与えることになってしまう。そこで、エコロジーを標榜しつつ高速化する設計環境を選択するのであるが、設計行為に投入されるエネルギーが軽減されず、むしろ増えていくのは何ともアイロニカルである。

遠藤秀平建築研究所

表象A

桑田　和明

資源問題との係わりの中で、「建築の長寿化」という対策が試みられている。寿命には、ハードな側面と機能のサイクルというソフトの側面があるが、スケルトンを耐100年設計とし、インフィルを互換性ある扱いで長寿化を図る「SI住宅」はその例である。これは、量的に充足してきた日本の住宅事情において、広さや個性対応といった質の面での遅れを取り戻すための、集合住宅供給に関する次世代への提案である。

これらの建築の表象は、どうなっていくのだろうか。

ユニバーサルスペースや可変住宅へのニーズ、そして、とりわけ玄関や外装面に自分の顔を現すといった権利者の欲求は実現の可能性を増しており、当初からそうした構想の住宅の出現もあり得ない話ではない。ここでの専門家の係わりは戸建て住宅と同様のもので、建築全体と将来に向けての表象のルールをも構想することになる。

住施設以外でも、すでに専門家の手によらない建築の表象が出始めているが、コミュニケーションツールの目覚ましい発展と「仮想建築」「仮想建設」の追求によって、不特定多数の人びとの建築参加を実現させる日は近いのだろう。

松村組品質環境管理本部長









中国支部特集

しまなみ海道と中国地方の街づくり

作品

尾道駅前地区再開発ビル―尾道駅前第一種市街地再開発事業

エールエールA館―広島駅南口Aブロック第一種市街地再開発事業施設建築物

秋吉台国際芸術村本館

島根県立中央病院

米子コンベンションセンター「ビッグシップ」

山口県工業技術センター

広島県大柿合同庁舎

広島国際大学１号館

広島護国神社本殿・拝殿

福山大学新１号館

岡山市平和町５番地区第一種市街地再開発事業

広島パークヒル病院

金龍禅寺

ベイシティ宇品

ふくやま文学館

支部特集号企画　森畑　武
作品＆記事収集　森畑　武　横田昇三　柴田修身　辻　誠治

多々羅大橋
写真提供　本州四国連絡橋公団

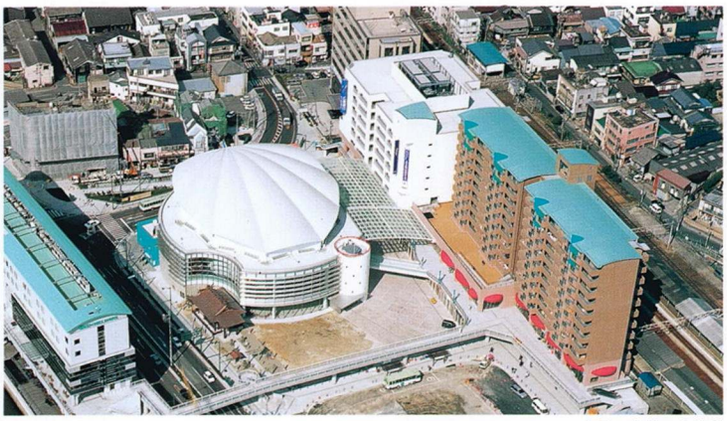
尾道駅前地区再開発ビル

尾道駅前第一種市街地再開発事業

設計監理　アール・アイ・エー
施　　工　（尾道駅前地区再開発ビル）鹿島・日産・堀田共同企業体
　　（しまなみ交流館）五洋建設・三和鉄構建設建設工事共同企業体



プロムナード



全景　東南から俯瞰



テアトロ・シェ・ルネ

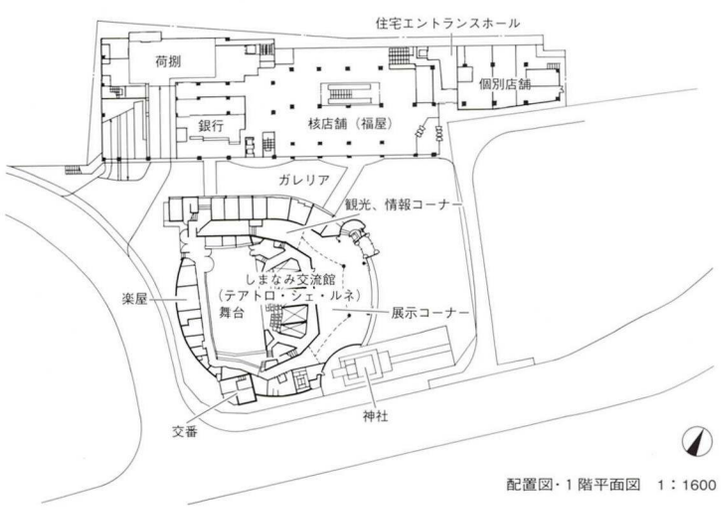
尾道市は、古くから港町、商都としての賑わいを見せ、昨今では「お寺・文学のまち、映画ロケ地のまち」等として、観光客の賑わうまちです。このたびの再開発地区は、鉄道と国道・旅客港の結節点として、昭和40年代中頃まで瀬戸内海屈指の賑わいのある地区でしたが、四国への新ルートの確保等でその役割が急速に低下し、市の基幹産業である造船業の合理化とあいまって、駅前周辺の賑わいが急速に失われ、中心市街地として、都市機能の再整備が望まれることとなりました。またこの地区が平成11年開通のしまなみ海道の本土側拠点会場として位置づけられたことも追い風となり、美しい港「ベル・ポール」として再生したものです。

設計にあたっては尾道市の財産である景観の保全、及び形式という視点から建築物の巨大感を和らげるために、大きく二棟に分節配置し、両棟間の広場空間にはオーニングをかけ、2階レベルでデッキで結び、人の行きかう賑わいを再生する配置計画としました。北棟（再開発ビル）は、地下１階から地上２階に、商業、業務施設を設置し、３階からは、住宅と駐車場を配置しました。外観については、圧迫感を和らげるため、３階から上を４つに分節し、住宅屋根部で海の波、潮風、帆のイメージを取り入れ、尾道の海辺空間らしさを表現しました。南棟（しまなみ交流感テアトロ・シェ・ルネ）は、ホールをメインとする、公益施設、交番・神社・権利者店舗からなる複合施設です。この建物は、再開発地区のほぼ中心に位置し、形状は円形の側壁、屋根は海の貝殻をイメージしたシェル状の建物としました。また両棟間の広場空間には、それぞれに商業施設を配置し、床は尾道の人にはなじみある石畳の舗装としました。このように再生した「ベル・ポール」が、出会いふれあいの場となり、皆様に愛される空間となることを願います。

（浅野和幸／アール・アイ・エー広島支社長）

尾道駅前地区再開発ビル
所 在 地　広島県尾道市東御所町173-3
敷地面積　5,560.00㎡
建築面積　4,121.22㎡
延床面積　26,262.28㎡
構造規模　SRC、一部S、B1F～11F
工　　期　1997年8月～1999年３月
最 寄 駅　JR尾道駅
撮　　影　エスエス九州

しまなみ交流館（テアトロ・シェ・ルネ）
所 在 地　広島県尾道市東御所町173-3
敷地面積　4,280.00㎡
建築面積　2,728.22㎡
延床面積　5,780.09㎡
構造規模　SRC、一部S、RC
工　　期　1997年10月～1999年３月
最 寄 駅　JR尾道駅
撮　　影　エスエス九州



配置図・１階平面図　１：1600

エールエールA館

広島駅南口Aブロック第一種市街地再開発事業施設建築物

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　大林組・竹中工務店・広成建設建設工事共同企業体

所 在 地　広島市南区松原町9番1号
敷地面積　7,086.00㎡
建築面積　6,375.91㎡
延床面積　63,748.04㎡（十駐車場・駐輪場12,559.59㎡）
構造規模　SRC、B2F、13F、P1F
工　　期　1996年10月～1999年３月
最 寄 駅　JR広島駅
撮　　影　西日本写房



外観北東面

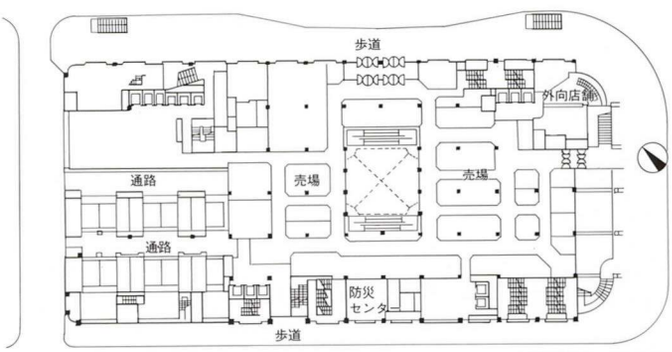
JR広島駅南口地区は戦後いち早くバラック建ての住宅、商店が復興し、JR広島駅のターミナル機能とあいまって経済発展をしたが、その後、紙屋町、八丁堀地区が土地の高度利用化と商業、業務の集積等により広島都市圏の拠点として発展した反面、当地区は経済的に沈下していった。しかしJR広島駅という広域交通の結節点に隣接した、都市機能の重要な拠点として長年その整備が求められてきた。昭和56年３月に広島駅表口周辺の再開発基本計画が策定され、当地区は一体的な再開発を行い、都市機能形成の新たな広域拠点として位置づけられた。準備組合が設立され、高度利用地区、市街地再開発事業の都市計画が決定され、平成８年10月に着工し、平成11年３月に竣工した。

敷地は北にJR広島駅、南に河川敷公園を持つ猿候川に面し、東側は市中心部に通じる主要幹線道路に接した街区である。建物は地下２階地上12階建ての高層商業ビルで、商業ビルの特性として窓の少ない巨大な箱体となっている。このため高層部の外装材は明るいベージュ色のタイルとし、長辺の南、北壁面には柱スパン（８m）毎に大きなウェーブを付けて壁面にリズムを与えると共に陰影を持たせ、東面はカーテンウォールとし、スカイラインを揃えて駅前立地にふさわしいファーサードとしている。低層部の１、２階は濃いベージュ色の花崗石を張り、ショーウインドーを設けて商業ビルとしての品格と賑わいを出している。

商業計画のコンセプトを、ゆとりある快適空間、回遊性が高く視認性のよい売り場造りとした。店舗中央部にエスカレータを取り込んだ石張りのアトリウムを設け、フロア構成に応じて１～５階、６～９階に分けて夫々の雰囲気に合わせてグリーンと光の演出を行い、出会いと賑わいの場とし、これを中心に店舗展開をしている。10、11階は集客力の高い大型書籍売り場、レストランフロアーとしている。ビルへのもう一つの重要な客導線として駅から市中心部へ続く地下広場があり、地下２階の専門店街に接している。ここを外光の入る明るいサンクンガーデンとして地下でのエントランスとし、地下、地上共に特色を持たせて魅力ある商業ビルを創出している。（安井建築設計事務所）



航空写真南東面



１階平面図　１：1500

秋吉台国際芸術村本館

設計　磯崎新アトリエ
監理　山口県、磯崎新アトリエ
施工　鹿島建設・旭建設工業共同企業体

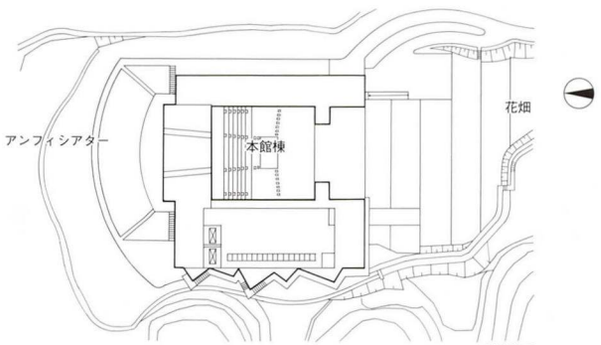
所在地　山口県美祢郡秋芳町秋吉中山田50番地
敷地面積　330,000㎡
建築面積　2,882.25㎡
延床面積　5,164.83㎡
構造規模　RC、一部S、B1F～4F
工　期　1997年1月～1998年5月
最寄駅　山陽新幹線小郡駅
撮　影　矢野勝偉



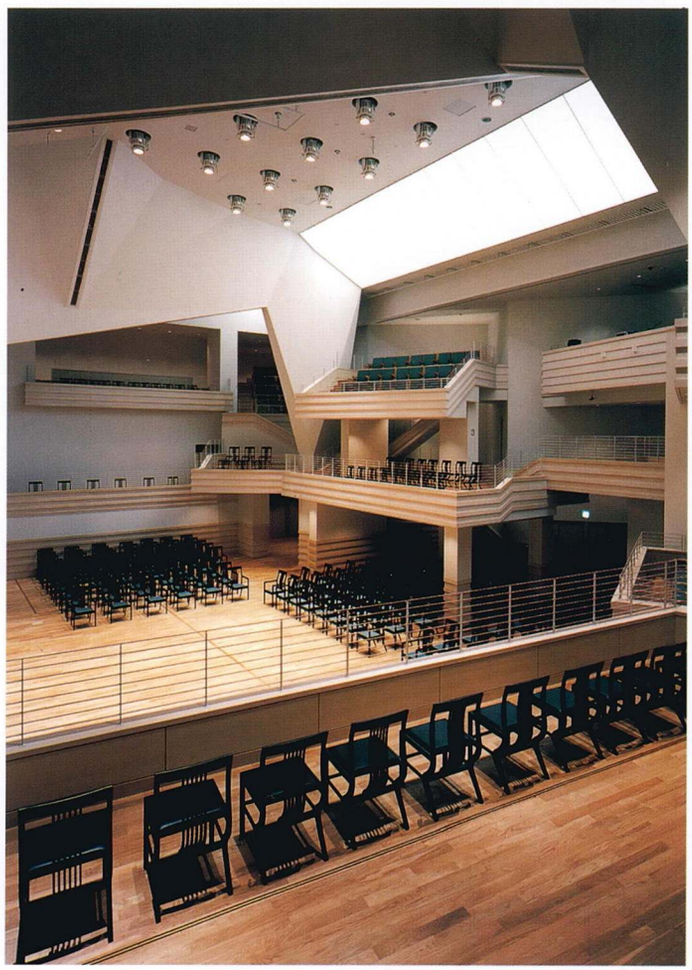
外観南面

秋吉台国際芸術村は、1989年に始まった地元の作曲家たちによる「秋吉台国際20世紀音楽セミナー＆フェスティバル」という活動を母体として始まった計画である。一定期間、アーティスト及び受講者が滞在し、ワークショップ、レッスン等を行い、またコンサートを開くなどの、日本では初めてといっていい本格的なアーティスト・イン・レジデンス型の文化施設である。敷地はカルスト台地で知られる秋吉台に隣接し、入り口部分がすぼまった袋状の沢地で、周囲の環境から半ば独立した独自の空間を形成している。本館は、ここでの様々な活動の拠点となる施設として、300～500人収容のコンサートホール、大・中の研修室、個室のスタジオ群を中心として構成され、これらが中庭を中心として相互に密接に関連を持って配置されている。ホールは、当初からオープニングに現代音楽を代表するイタリアの作曲家ルイジアーノの「プロメテオ」の上演が予定され、ホールの構成もそれに呼応する形で、客席にも演奏場所になるプラットフォーム（島）を空間内に分散配置し、それを鍾乳洞のメタフォアである垂壁状の天井が覆う多焦点の空間構成になっている。同時に中庭もまたホールと連続し、演奏・パフォーマンスの場ともなり、研修室も連続してその背後に野外劇場がつながり、ホールだけではなく宿泊施設も含めた施設全体が様々な形で活動の場として利用できるよう意図されている。

（磯崎新アトリエ）



配置図



ホール2階プラットホーム

島根県立中央病院

設計監理　島根県土木部営繕課、日建設計
施　　工　清水建設・多田建設・中筋組・内藤組特別共同企業体

所 在 地　島根県出雲市姫原町地内
敷地面積　66,917㎡
建築面積　13,400㎡
延床面積　52,000㎡
構造規模　SRC、一部RC、S、10F、P1F
工　　期　1995年11月～1999年３月
最 寄 駅　JR山陰本線出雲市駅
撮　　影　エスエス大阪



全景

国道９号バイパスに面する交通要衝の地に移転新築された新病院は、日本でも先駆の電子カルテやPACS化など高度な情報設備を備えた、県下唯一の総合医療サービスセンターである。

看護動線の短縮や見通しを考えたW型の病棟と、屋上のルーバー屋根を特徴とする外観は、淡いアースカラーの外壁タイルと、銅鐸の青銅色をイメージした屋根やサッシの色の対比により、背景となる北山山系の緑との調和を図った。

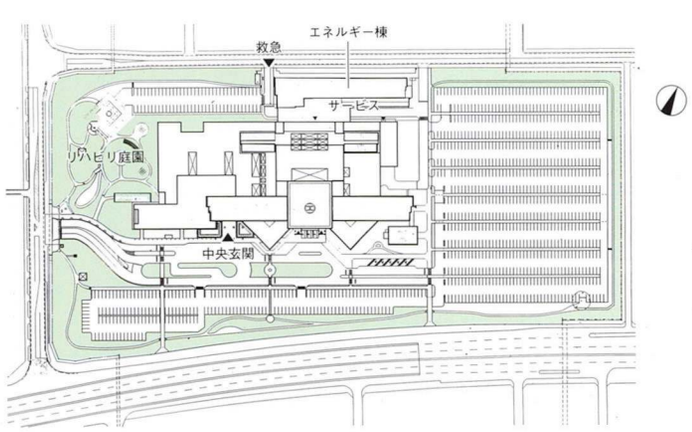
敷地外周には道路騒音と冬の季節風を防ぐスモールヒルを築き、病院周りに散策路、休憩所を設け、緑豊かな「公園の中の病院」を目指した。

外来・診療部は、医療サービスを支える機能的な廊下と患者さんのためのアメニティ性の高い廊下により動線分離を図り、わかりやすさと機能性を図った。

待合ホールはエントランス・外来・アメニティの３つのホールに分散させ、ヒューマンスケールの親しみやすいものとした。寝台・スタッフエレベータを取り込んだ病棟センターによる新しい看護運営の病棟は、機能的で効率的な看護が行えるとともに、分散デイルームや出雲市内を一望する食堂、屋上広場、木質系のインテリア、ブラケット照明など、快適な療養環境に努めた。

また、全ての供給部門を２階に集約することにより地下のない建物とし、快適性と経済性を求めた他、全方向への増築が可能な将来対応、備蓄や雨水の再利用、シャトルエレベータのあるヘリポートなど災害時対応にも配慮した。

（奥長隆敏／日建設計）



配置図　1：5000



エントランスホール



水庭のあるアプローチ

米子コンベンションセンター「ビッグシップ」

設計　佐藤総合計画
監理　鳥取県、佐藤総合計画
施工　大林組、大松建設（米子）、荒濱建築工務店（米子）

所在地　鳥取県米子市末広町
敷地面積　17,661㎡
建築面積　7,923㎡
延床面積　18,595㎡
構造規模　S、RC、SRC、6F
工　期　1995年9月～1998年1月
最寄駅　JR米子駅



航空写真　大山を望む



エントランスロビー



多目的ホール（講演会形式）

交流の船を創る

古くから交通の要所として発展してきた、米子市を中心とする鳥取県西部地域に、環日本海交流の拠点として計画されたコンベンションセンター。川に沿った敷地を活かし、船をイメージさせる大きな楕円のデザインにより親しみやすいシンボルを意図した。

日本初の可変機構

2004席の多目的ホールは、木製の段床と客席を床下に収納することで、平土間の展示場（1879㎡）に可変する機構を備えており、グレードの高い雰囲気の中でコンサートや国際会議と展示会、見本市の開催が可能な空間とした。開館後も、国際的ソリストからの音響上の評価や、可変機構による稼働率の向上などの評価を得ている。

市民ユースの小ホール

300席の小ホールは、室内楽や講演会、発表会など市民の身近な文化交流の場として計画。桜の木の壁面に包まれた温かみのある雰囲気を意図した。

バナキュラーモダン

国際会議室は同時通訳部ブースやハイビジョン対応の映像装置を備え、国際会議やレセプション、展示会のための空間。壁面は米子の重要文化財「後藤家住宅」をイメージさせる墨染めの木格子をモチーフとした。

何時でも情報と出会える場

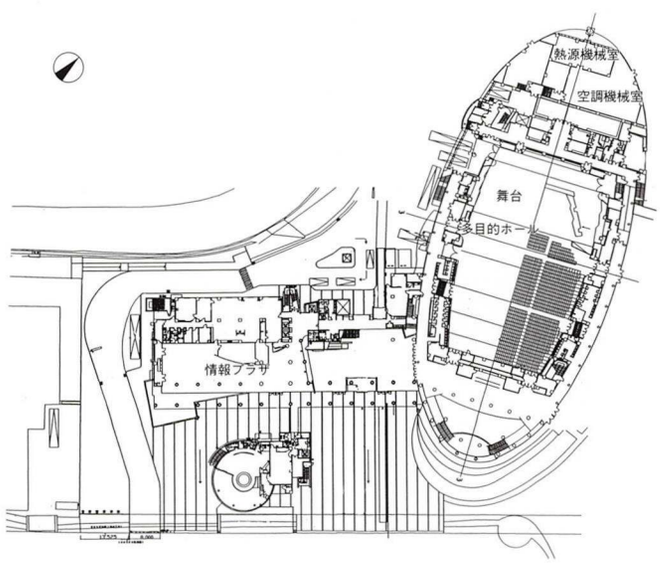
情報プラザやパスポートセンター、消費生活センターを設置した。

地域性の表現

国際交流の舞台として地域の伝統をアピールするとともに、市民に愛着のある施設とするために地場産の素材や形を現代性と融合させてデザインした。

弓ヶ浜絣のパターン：外壁タイルやEV扉
大山赤松：会議室の壁面
因州産の手漉き和紙：会議室の壁面、情報プラザの天井照明シェード

（室殿一哉／佐藤総合計画九州事務所設計部長）



1階平面図　1：600

山口県工業技術センター

設計監理　佐藤総合計画
施　　工　五洋建設・長沢建設共同企業体

所 在 地　山口県宇部市あすとぴあ4-1-1
敷地面積　49,568.76㎡
建築面積　 8,166.22㎡
延床面積　16,444.88㎡
構造規模　RC、一部S、B1F、3F、P1F
工　　期　1997年３月～1999年１月

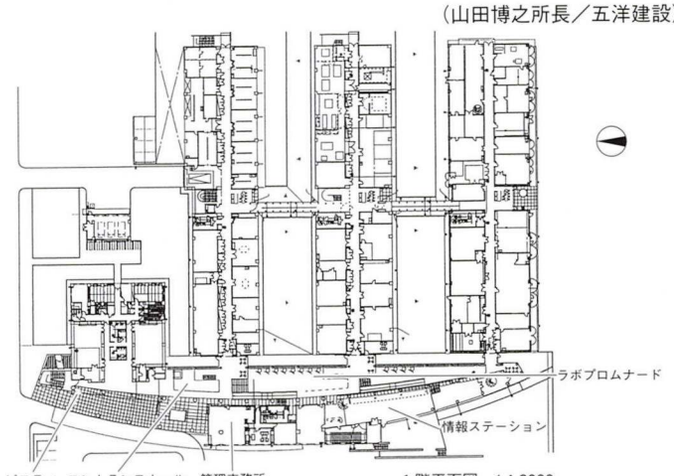


外観正面

本工事では、施工段階の検討により懸念された、多目的ホールの残響過多について、VEにより対策手法を検討した。対策前後の効果について、本社に依頼し、技術研究所で開発された音響シュミレーター（ハーモニー）によりシュミレーションを行った。ホール仕上げにおいては、当初、壁・天井仕上げが、PB厚さ12㎜であったが、RB厚さ15㎜に改善する事により、満席時の残響音は、0.9秒前後となり最適残響時間に近い値となった。実際の音を使用したシュミレーションにより、設計監理者にプレゼンテーションを行い、検討結果の効果について理解を得る事が出来たことは、大いに評価出来ると思われる。また、検討結果からアトリウム内の残響対策も行い、建物全体の品質を確保することが出来た。このシステムを使用することにより、原設計と設計変更後の違いが数値だけでなく、実際の音で表現されるので、高度の知識が無くても良く判ると、設計監理者から高い評価を得た。

共用棟においては壁面及び屋根面について曲面が多用されており、芯線図の段階でポイントを的確にとらえて検討し、鉄骨メーカー、サッシメーカー、及び屋根メーカーと共に、曲面における座標を協議し、Eメール等でやり取りを行い連絡を密に取りあった。その結果、２次元スチールカーテンウォール、３次元金属屋根及び、フリーズソレイユ（アルミパンチングメタルの日除けパネル）取り合いに於いて、十分な成果を達成出来たと考える。また実験棟に於いては、クリーンルーム、無響室、電波暗室といった特殊な用途の部屋も含め、最新の技術を駆使した仕様となっており、研究室の先生方との数十回に及ぶ打ち合せの結果の末、満足のいく施設となり十分に評価して頂いた。

（山田博之所長／五洋建設）



１階平面図　１：2000



エントランスホール



南面より見る

広島県大柿合同庁舎

設計監理　広島県土木建築部都市局営繕課
　　車田建築設計事務所
施　　工　日　興

所 在 地　広島県佐伯郡大柿町大原字浜の内
敷地面積　4,210.59㎡
建築面積　（庁舎）　875.125㎡（車庫）477.750㎡
延床面積　（庁舎）3,513.148㎡（車庫）588.985㎡
構造規模　（庁舎）SRC、4F（車庫）RC、1F
工　　期　1997年10月～1999年１月
撮　　影　カルダンプロ



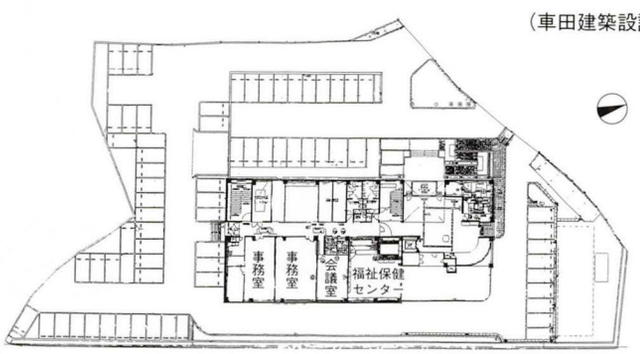
外観全景

広島県大柿合同庁舎は現在の大柿土木事務所、大柿地域福祉センター庁舎が業務拡張及びOA化の進展に追従出来なくなったこと、また老朽化も進んでいることから、快適な執務空間の整備、福利厚生施設拡充、利用者の利便性を目的とし、合同庁舎として計画されました。

外観は、管内の江田島第１術科学校校内に残る文化遺産としても重要な西洋館をイメージし、現代的なアレンジを加え庁舎として風格のある格調高いシンボリックなデザインとしました。しかし、威圧的にならないように曲面を要所に利用し、柔らかさを出し、緩衝させています。また、壁面にリズム感よく柱を並べ、単調になりがちな壁面に変化を与えています。南側の広くとった開口部は明るい執務空間を確保しています。

内部は大スパンによる無柱空間を作り、今後も予想される業務の拡張、変化にフレキシブルに対応できる形態としています。もちろん高齢者や身障者に対しても安心して利用できる施設となるよう、十分な考慮がなされています。ホール吹抜の壁面には、タイルの色を変えて管内、江能四町を表現し、中央の円柱を囲むようにふれあいコーナーを設置しています。円柱は大木の幹、ふれあいコーナーはその木影をイメージしており、親しみやすい空間を提供しています。

（車田建築設計事務所）



配置図・１階平面図　１：1000



正面外観



エントランスホール

広島国際大学１号館

設計監理　中電技術コンサルタント
施　　工　フジタ広島支店

所 在 地　広島県賀茂郡黒瀬町学園台555-36
敷地面積　202,039.72㎡
建築面積　4,034.24㎡
延床面積　25,576.50㎡
構造規模　SRC、8F、P2F
工　　期　1997年３月～1998年３月
最 寄 駅　JR山陽本線西条駅下車バス、国際大学行



外観正面

「広島国際大学」は、21世紀の高齢社会に向けて、新しい保健・医療・福祉のニーズにこたえるため、こうした分野の専門教育と人材育成を目的とする４年制の大学として、平成10年４月に開学した。敷地は、賀茂郡黒瀬町市街地の近郊に位置する緑豊かな丘陵地にある。周辺環境は、一部都市化の様相を呈しているが、大部分はアカマツの植生を主とする、なだらかな山地の連なる山並が望まれ、その間には赤瓦（石州瓦）を葺いた民家が点在する田園風景が広がっている。この恵まれた自然環境の中に位置する大学の設計課題として、自然地形を保存した造成・地形・自然・眺望を生かした有機的な施設配置計画、敷地が有している自然環境や地域性を大切にしながら、新しい大学のイメージや現代性の創出をテーマとし郊外型キャンパスのあり方を追求した。設計を進めていく過程で大学側より特に要望されたのは、①完結した大学のマスタープランよりも将来の大学の成長・発展に対して柔軟に対応できるプログラムを重視する、②75年の歴史を持つ学校法人大阪工大摂南大学の設置学校に共通している様式建築のモチーフを生かし、調和のとれた品格を持つキャンパス像の伝統を継承する、といった建設方針であった。これらを踏まえて検討を重ね、以下のようなキャンパスの計画の輪郭が形づくられた。

１号館は、２学部がより緊密な連携が取れるように、教育・研究施設に、事務部門、図書館、食堂を合築した複合建築として計画し、分棟配置型ではなく合築高層型とする。大学へのアクセス道となる県道矢野～安浦線とクロスし、北側に向かって、大学の正門→１号館の玄関→エントランスロビー→北の大階段→体育館前広場、を貫く軸線を設定し、各施設を連結する骨組とした。これはキャンパスの動線軸でもあり、大通り広場として、学生たちの出会いやコミュニケーションの場となることが意図されている。また、この軸線は将来大学が成長・発展する場合の基本軸ともなる。１号館は、中央にエレベーター機械室、電気室、高架水槽置場の機能を持たせた塔状のシンボルタワーをつくり、シンメトリーを基調としたアカデミックなスタイルの形式を持つ形態とした。また各棟は、共通のデザインコードとしてレンガ造様式を取り入れ、２丁掛タイル、石、吹付仕上げ、コンクリート打放しを組み合わせた外観のデザインとした。内部空間は、建学の基本精神である、保健・医療、福祉の対象となる人々を身心共にケアー出来る豊かな人間性を持つ人材育成の場にふさわしく、人工的で無機質な材料ではなく、自然の素材であるものを選定し、温かみのある天然木や、コンクリートの生のテクスチャーを生かしたインテリアを計画した。

設備的な特徴として省エネ、管理の容易化を図り、個別空調方式や空調・照明の消し忘れ防止制御を採用している。また設備用配管スペースを廊下の両側にリニアーに配置して、将来の教育施設の変化に対応して、配管類の増設・更新が容易に行えるよう配慮している。　（中電技術コンサルタント）



図書館



レストラン龍王

広島護国神社本殿・拝殿

設計監理　河内義就設計事務所
施　　工　松本建設・増岡組共同企業体

所　在　地　広島市中区基町21-2
敷地面積　4,957.68㎡
本殿拝殿床面積　207.34㎡
構造規模　S、RC、1F
工　　期　1992年4月～1993年4月
撮　　影　国際写真



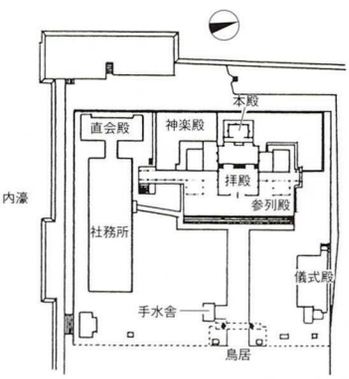
外観正面

明治元年を起源とするこの神社は、原子爆弾で焼失してから、昭和31年に現在の広島城内に移転し、主体を鉄筋コンクリート造、仕上は屋根が銅板、軒下棰木は桧、梁（桁、貫など）は漆喰、柱は人造石研出しをメインにして再建されました。

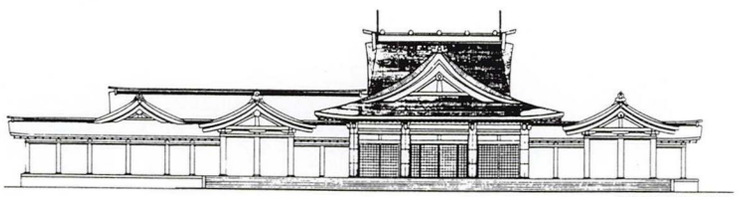
しかし時がたつにつれて、少しづつ老朽化が進み、加えて各施設の古さ、スケールの狭さが日追いに感じられる様になり、一方年々増加する参拝客、近代化し多様化する式典への対応が難しくなり、改装、改築、増築、建替えへと必然的な過程の中にありましたが、平成3年の社務所増改築に始まったこの一連の工事は「御大典記念事業」として、先ずRC造の鳥居を純石造に、参道の石畳の巾を広げ、更に拝殿前の広場の拡張と儀式殿の立替えに続き「本殿・拝殿の建替」の工事が平成5年4月に完成いたしました。

主要材料は、当初全てを木材でとも考えましたが、桧の内地産は無く、台湾産は少なく、北米に求めるのが昨今の現状ですが、地球的規模で呼ばれる環境問題を無視することになるので、昭和31年の再生時に合わせ、更に耐震性と耐火性を十二分に配慮して、鉄骨造りを主体に外部は鉄筋コンクリートで被覆する理想的な骨組みにしました。

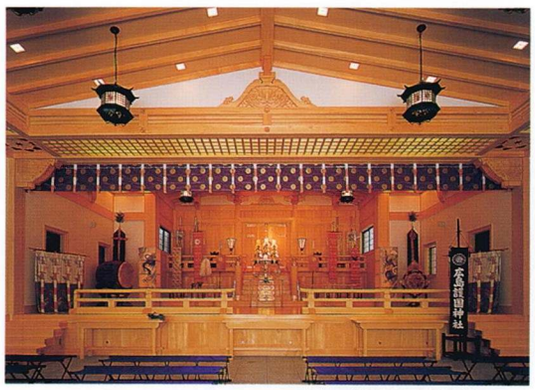
外観は、拝殿両側の参列殿を既設のまま残しているので、やや中央拝殿の高くなる部分だけが今まで見慣れたバランスと違う感がありますが、これまでよりややダイナミックさを持つ新しい姿が参拝者に目新しさを感じさせます。　（河内義就設計事務所）



配置図1：2000



東側立面図1：500



内部　拝殿より本殿を望む

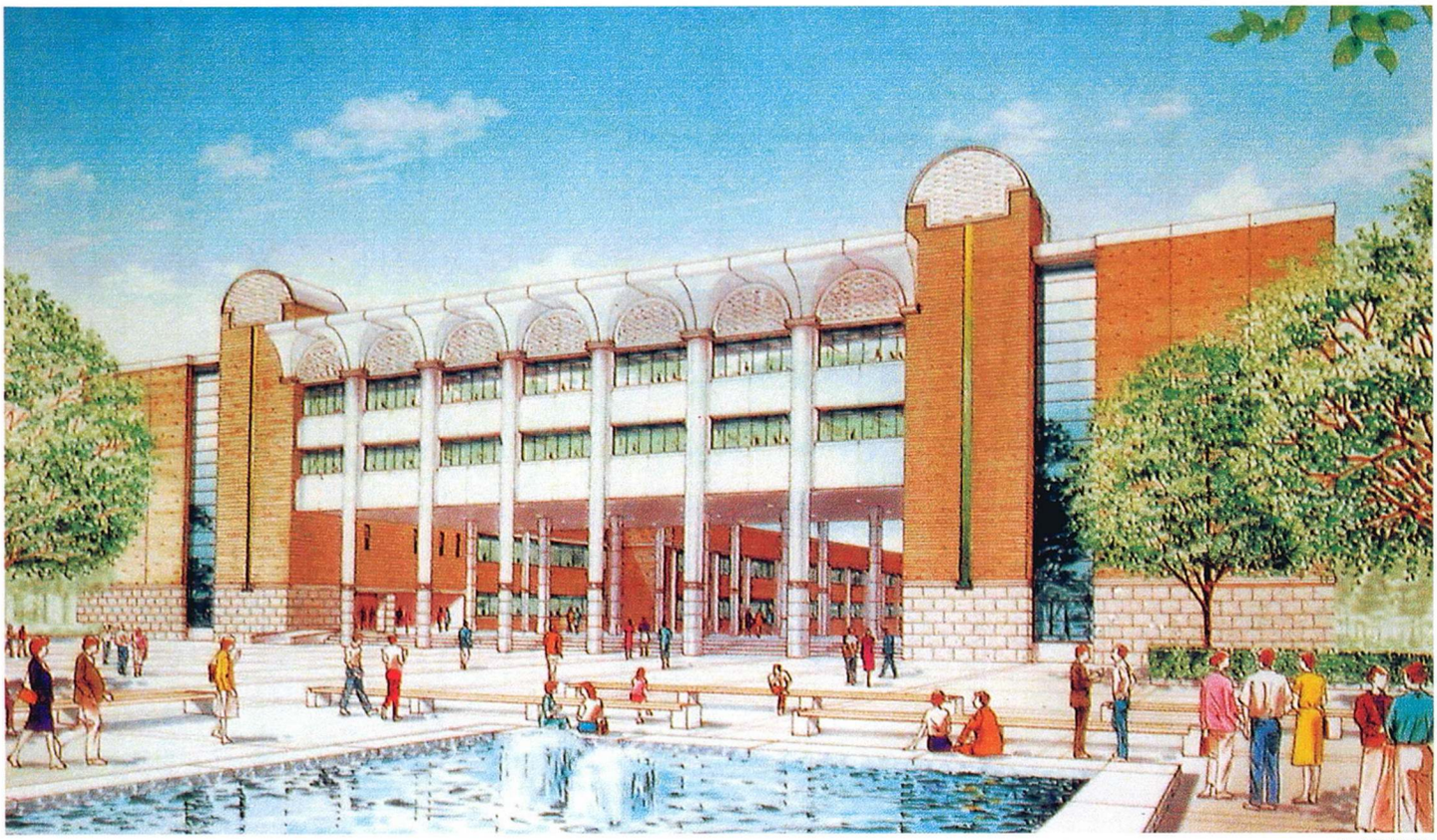


背面より本殿を望む

福山大学新１号館

設計監理　旺建設計一級建築士事務所
施　　工　安藤・竹中・大本福山大学新１号館新築工事共同企業体

所 在 地　広島県福山市東村町字三蔵985
敷地面積　277,149.88㎡
建築面積　7,313.57㎡
延床面積　16,434.05㎡
構造規模　RC、5F、P1F
工　　期　1998年12月～2000年３月



完成予想写真

本計画は、昭和50年に大学設立必要最小限の全機能を装備して誕生した記念的な一号館を取壊し、事務管理部門、講義室、実習室、研究室の各部門の充実と、仮設的に分散されていた福利厚生施設の新築を加えた、新一号館の建設である。

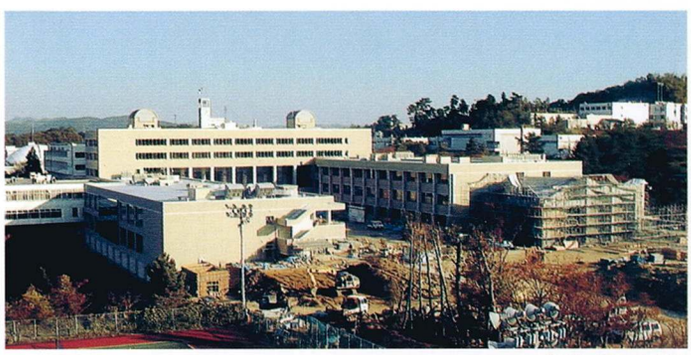
計画当初は、解体後に新築という工程であったが、逆にする提案が受け入れられ、本計画の基盤となっている。また機能的に多岐にわたる事から分棟案が主流であったが一号館の設計者としての思い入れもあり、一棟複合化にこだわりをもっていた。

それは５年前に担当した20周年記念の大学会館との対峙も考え、旧館跡地を切下げ可能な限り広い広場が必要であった。21世紀を迎える新一号館のモニュメンタルな表現を「大学の門」のイメージで表現し、その門にあたる、三層吹抜けのピロティーから、本大学の花形学部ではあるが、奥まった立地にある薬学部を身近に見せ、大学会館から広場、新一号館を通して薬学部へ通ずる主軸の形成を期したものである。

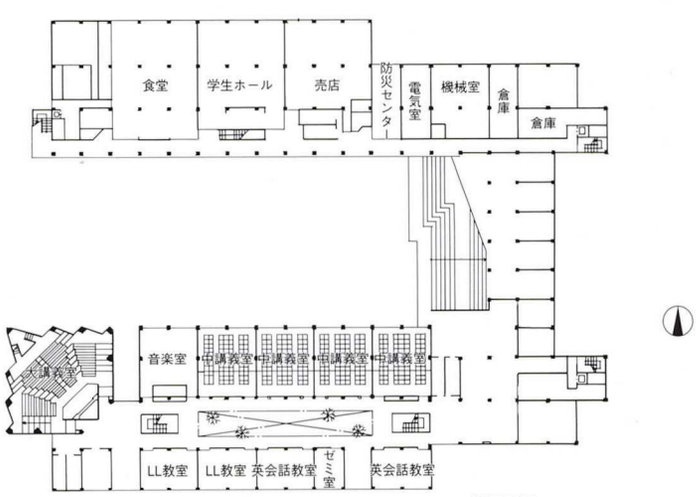
これまで分散していたキャンパスが、この緑豊かなメインロードの完成により中心軸と一体感のあるキャンパスへ大きく表現する事を意図したものである。また旧一号館を最後まで使用しながら工事した事で、工事費の大幅な圧縮と工期の短縮、施設全体のグレードアップにもつながった。

これまで福山大学の要塞のように聳え、大学を支えてきた一号館、その役割を終え、再生した一号館に満足しているであろう。

（滝沢竜昭／旺建設計）



施工中のキャンパス



１階平面図　１：1600

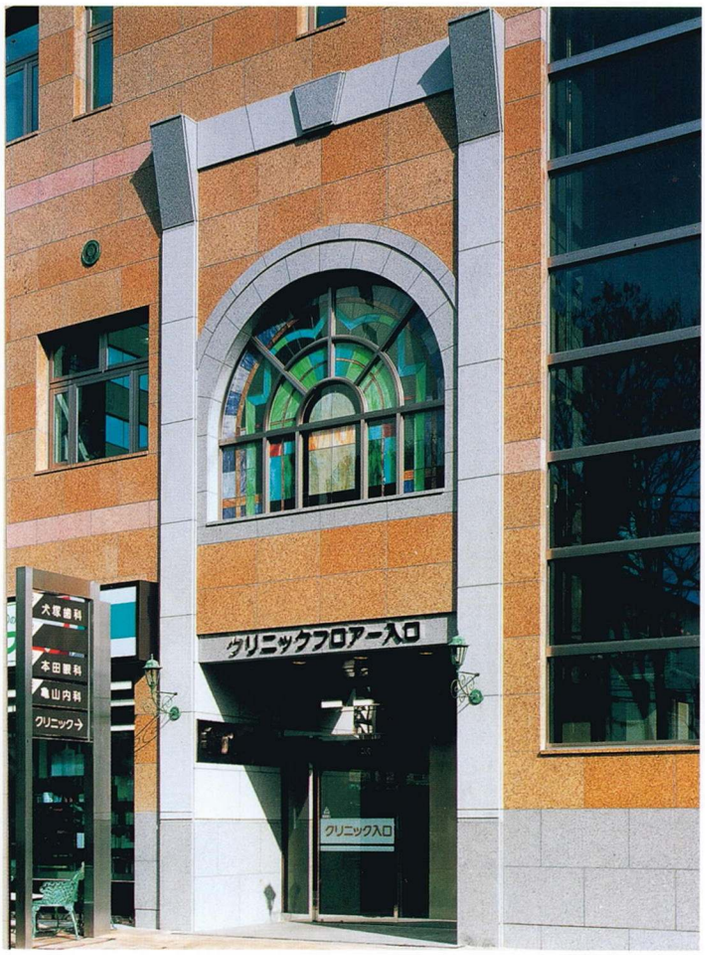
岡山市平和町５番地区第一種市街地再開発事業

設計監理　都市生活研究所
施　　工　熊谷組・広成建設共同企業体

所 在 地　岡山市平和町5-1
敷地面積　1,827.10㎡
建築面積　1,096.18㎡
延床面積　12,208.71㎡
構造規模　SRC、B1F、13F
工　　期　1997年5月～1998年10月
最 寄 駅　JR山陽本線岡山駅



全景西面より



西面クリニック入口



1階ホテルロビー

当地区はJR岡山駅の東、約450mに位置し、西川緑道公園に面するなど交通利便性や自然景観に恵まれています。

市街地再開発事業により、西川緑道公園を基軸とした『まちの社交ゾーン』にふさわしい商業、サービス、宿泊施設を建設することで、地区の活性化に寄与し、併せて周辺地区の再開発事業の先導役となることを期したものです。

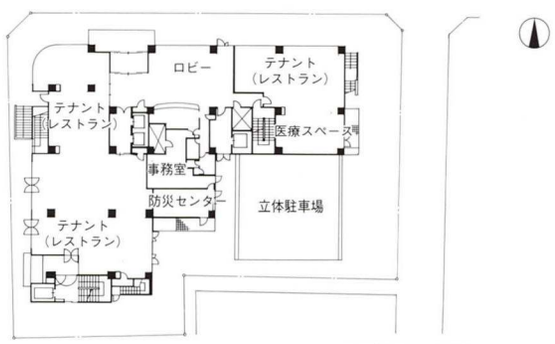
施設建築物の概要は、SRC造で地上13階・地下１階、機械式立体駐車場（144台）からなり、宿泊・医療・商業等の複合機能を備えたビルとなっており、建物の外観は、『クラシカルヨーロッパ』をコンセプトに、落ち着いた色調であり、かつ地域のランドマークとなるデザインを採用した。

核となるホテルは客室212室のほか、ビジネス層をターゲットにしたOAルームや、会議室・多目的ホールを備えており、また朝食サービス等に対応するため２階にレストランを導入し、小宴会にも対応可能としている。

２・３階には内科を中心にクリニックモールを導入し、周辺地区だけでなく宿泊客に対しても医療サービスを提供している。また、１階には薬局併用のコンビニエンスストアをテナントとして導入し、クリニックモールと同様に物販面でのサービスを提供している。

施設のオープンスペースには植栽を施し、ベンチを設置するなどして、歩行者空間と施設の一体化を計り、お洒落でゆとりのある空間構成を行い、利便性の高い都市機能を十分に備えた施設としました。

（都市生活研究所）



１階平面図　１：800

広島パークヒル病院

設計監理　大旗連合建築設計
施　　工　奥村組

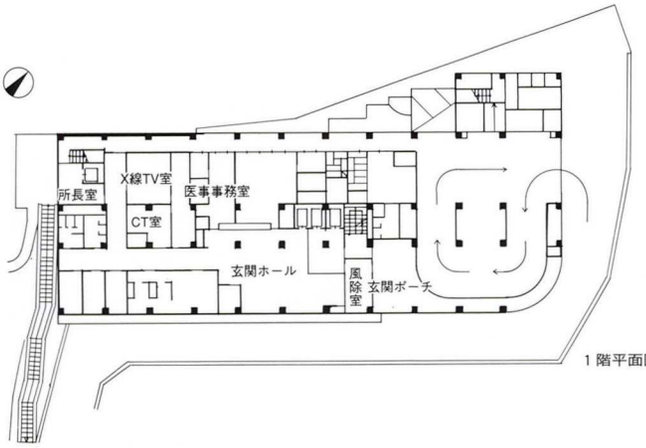
所 在 地　広島市西区田方2丁目954-2
敷地面積　13,156.57㎡
建築面積　 2,138.76㎡
延床面積　14,854.67㎡
構造規模　SRC、B1F、9F
工　　期　1996年12月～1998年３月
最 寄 駅　山陽本線西広島駅
撮　　影　宇和写真広島



南面外観

高齢化が世界に類をみないほど急速に進行するなかで、保健、医療、福祉、在宅サービスの統合化、無境界化、地域化など、新しい方向を模索すべき社会状況の中、この施設は病院(療養型病床群)と老人保健施設の複合施設として建設されました。これらの施設は慢性期の治療、介護を必要とする老人が対象であり、治療に加えて介護機能の強化が必要とされています。その結果として長期入院の患者が多く、従来の病院の延長線上の施設ではなく、住環境を重視した施設作りが必要となります。計画にあたり、この施設は様々な職種を持った方々や患者さん達が寄り集まる一つの都市であると共に患者さん達や入所されている人々にとっては、生活の場です。私達はこの建物を様々な色や形がある一つの都市としてとらえる事にしました。
この建物の外観は、全体的に落ち着いたアースカラーのタイル貼りと日影によりセットバックしたバルコニーにアルミパネルを使用する事により、複合体としての建築的な表情を与えました。内部空間は、基準より広いゆったりとしたスペースを確保し、廊下は回廊式でオープンスペースと組み合わせる事により、生活の場としての空間作りをしました。

（亀竹弘之／大旗連合建築設計設計部）



１階平面図　１：1000


１階待合ホール


３階食堂コーナー

金龍禅寺

設計監理　大成建設広島支店
施　　工　大成建設広島支店

所 在 地　広島市中区小町9-28,29
敷地面積　1,714.00㎡
建築面積　337.38㎡
延床面積　439.37㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　　期　1998年７月～1999年７月
最 寄 駅　JR山陽本線広島駅
撮　　影　ヒヤマフォート



外観（本堂、書院、庫裏）

広島市の中央を走る平和大通りから、一歩入った市街地の一角に位置し、周囲にはお寺の点在する街の中心には珍しい、緑に囲まれた環境にあります。当寺は、臨済宗妙心寺派に属する古刹で、寛永年間に建立、再建以来、檀信徒に崇敬され受け継がれて来ましたが、昭和20年８月の原爆により、一切を焼失し、応急、再々建され今日に至りました。

境内の配置にあたっては、建物を前面道路に正対し、後退させて墓地と一体化した大きな空間を確保しました。建物はRC造で、銅板屋根の本堂と書院、庫裏との構成になっています。本堂40帖と書院24帖を接続する事により法要のほか多目的に利用できるよう考慮されています。また、参拝者の高齢化に伴い、バリアフリー設計にも配慮しています。本堂に天井画が描かれ荘厳な雰囲気を醸し出しています。特に中央の「寶珠雲龍」の画は、総代の作品ですが、５メートル四方の大きさで圧巻です。

境内の緑の中に、永代供養、寿蔵、水子地蔵、六地蔵などが安置され、また、安芸西国札所十七番にあたることから、参詣、墓参、春秋の祭りのほか、参拝も多く都会の中のオアシスの役割を果たしてくれれば幸いにと思っています。

（倉田利昭／大成建設）



本堂



書院

配置図・1階平面図　1：800

ベイシティ宇品

設計監理　下岸建設１級建築士事務所
施　　工　下岸建設

所 在 地　広島市南区宇品２丁目1334-2～5、1333-3
敷地面積　12,471.00㎡
建築面積　 8,727.63㎡
延床面積　21,604.46㎡
構造規模　S、3F
工　　期　1998年５月～1998年10月



正面外観

弊社では、将来の住宅・交通体系を考慮し、広島市南区宇品地区に大型店舗を設置しようと考え、地権者のご理解のもと、浜本工芸株式会社の本社・工場跡地にショッピングゾーンを計画させて頂くことができました。
計画地は、今後、広島南道路のインターチェンジと広島市中心部とを結ぶ幹線道路に面し広域からの集客が期待できると共に、地域活性化の一翼を担う将来性のある好立地であります。そのためにも種々の営業品目と品揃えの幅と深さを補う大型専門量販店で構成されるパワーストアー化が重要と考えました。計画にあたり地元の家電総合販売店で、お客様の買物の利便及び消費生活の向上並びにアフターサービスの充実を図られている㈱デオデオが趣旨にご賛同され建物設置者として、またデベロッパーとしての出店をされることになりました。またスポーツ用品の㈱メガスポーツ（ザ・スポーツオーソリティー）、玩具用品の日本トイザラス㈱、地元の食品スーパーの㈱フレスタ、とんかつの㈱浜勝の４社も趣旨にご賛同され、平成10年10月17日のオープンの運びになりました。　（下岸建設）



全景（航空写真）



１階店舗（デオデオ）

ふくやま文学館

設計　日建設計
監理　福山市建築部
施工　鈴木工務店・大宗建設

所 在 地　広島県福山市丸之内1-9-9
敷地面積　4,537.32㎡
建築面積　974.75㎡
延床面積　1,540.61㎡
構造規模　RC、S、B1F、2F
工　　期　1997年10月～1998年11月



全景

井伏鱒二をはじめ、小山祐二、木下夕爾ら広島県東部・福山地方が生みだした文筆家を顕彰する文学資料館である。福山城公園文化ゾーンの中にあって、景観に調和した落ち着いた風合いの建物とした。郷土性を尊重して民家造の表現を取り入れ、福山市・加茂の井伏鱒二生家を参考に、地元産の石積み壁、色漆喰壁、瓦屋根を基調とした親しみやすくあたたかみのある外観とした。内装まで木質系、しっくい調でまとめ、落ち着いた空間とした。屋根の形状にあわせた部屋の構成、エントランスの坪庭などに、住宅的なスケールを保つよう心がけている。

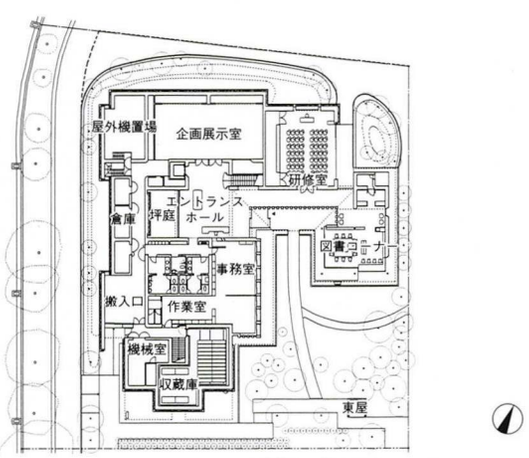
1階にはエントランスを中心に企画展示室、研修室の他、図書コーナーを設け、市民や公園利用者が立ち寄りやすい構成とした。常設展示室は2階ワンフロアに、内容に応じて部屋に分け、回遊動線状に配置した。休憩コーナーからは福山城天守閣を望むことが出来る。

「福山市および近隣市町村ゆかりの文学者たち」と「井伏鱒二の世界」のふたつのテーマからなる常設展示は、直筆原稿、遺品等の展示のほか、東京・荻窪の井伏鱒二の書斎を復元展示している。

（寺本敏則／日建設計）



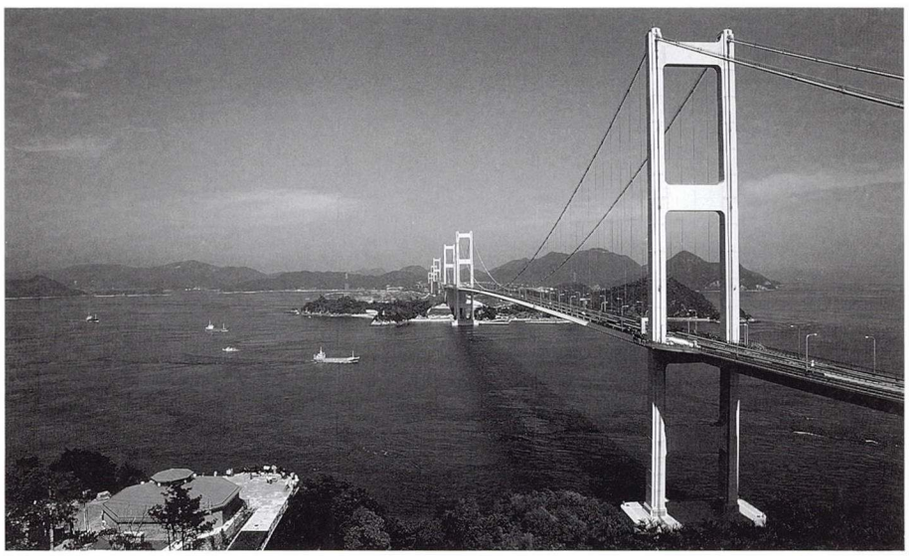
南東側外観



配置図・1階平面図　1：1000



2階展示ロビーから福山城を望む



中国支部特集

しまなみ海道と中国地方の街づくり

記　事

□しまなみ海道に寄せて

ヒューマンポート・尾道―国際芸術文化都市を目指して―

相原　満

しまなみ海道開通で変わる瀬戸田町の観光

柴田大三郎

平山郁夫美術館

井上道稔

□トピックス―便利になる広島の交通機関

路面電車から LRT へ―超低床電車で街が変わる？―

中尾正俊

□中国支部会員スケッチブック

支部特集号企画　森畑　武
作品＆記事収集　森畑　武　横田昇三　柴田修身　辻　誠治

来島海峡大橋
写真提供　本州四国連絡橋公団

しまなみ海道に寄せて

ヒューマンポート・尾道——国際芸術文化都市を目指して——

相原　満
尾道市広域振興課係長

歴史と芸術・文化のまち

尾道市は、瀬戸内海のほぼ中央、広島県の東南部に位置する人口約９万4000人、面積110.94㎢の都市です。

平安時代の1169年（嘉応元年）備後大田庄公認の倉敷地として荘園米の積み出し港となって以来、対明貿易や北前船、内海航行船の寄港地として繁栄し、その後も瀬戸内海の代表的な商港都市として発展してきました。

瀬戸内海の穏やかな自然のなか、渡船が行き交う尾道水道、坂道沿いに点在する寺院、迷路のような石畳の小路、開港830年の歴史が凝縮した街並など、抜群の景観に恵まれ、四季の眺めと相まって独特の情緒を醸し出しています。

また、古来よりこの地を訪れた多くの文人墨客の足跡を留め、優れた芸術・文化を育んできました。最近では、大林宣彦監督作品を代表とする映画のロケ地としても全国に知られ、多くの人を魅了しています。

1898年（明治31年）広島県内で２番目に市制を施行、尾道市として新たな歴史を刻むなかで、1998年（平成10年）には市制施行100周年という節目の年を迎えました。

「瀬戸内の十字路」として

昨年５月１日、長年の夢であった“瀬戸内しまなみ海道”（本州四国連絡道路尾道・今治ルート）が全橋開通しました。

本市は、山陽新幹線新尾道駅や近接する広島空港、瀬戸内しまなみ海道、山陽自動車道、整備が進む中国横断自動車道尾道松江線が交差する「瀬戸内の十字路」として、拠点性が高まるなか、新たな一歩を踏み出しています。

瀬戸内しまなみ海道
～新たな交流のはじまり～

瀬戸内しまなみ海道は、沿線周辺地域住民の生活橋であると同時に、文化・経済・観光等の新たな交流を生み出しています。

昨年、瀬戸内しまなみ海道完成記念イベント「しまなみ海道'99」（5/1～10/17）において、魅力ある多様なイベントを開催、多くの来訪者で賑わい、地域活性化の契機となりました。

そのなかで、瀬戸内しまなみ海道沿線の豊かな歴史、文化・風土を背景に、瀬戸内海の風景そのものをキャンパスに見立てた体験型イベント「瀬戸内しまなみ大学」は、沿線周辺地域の連携により、イベント終了後も引き続き展開しております。

国際芸術文化都市を目指して

「ヒューマンポート・尾道―国際芸術文化都市を目指して―」をキャッチフレーズ・テーマとする総合計画に基づき、尾道の個性としての芸術・文化、海・陸・空の「みなと」となる「瀬戸内の十字路」としての拠点性、これらを活かし交流を深めることにより、世界に開かれた創造的で心豊かな「みなと」を目指し、まちづくりを進めています。

小さくてもキラリと光るまちづくり

尾道市の顔となる尾道駅前地区周辺は、完了間近の市街地再開発

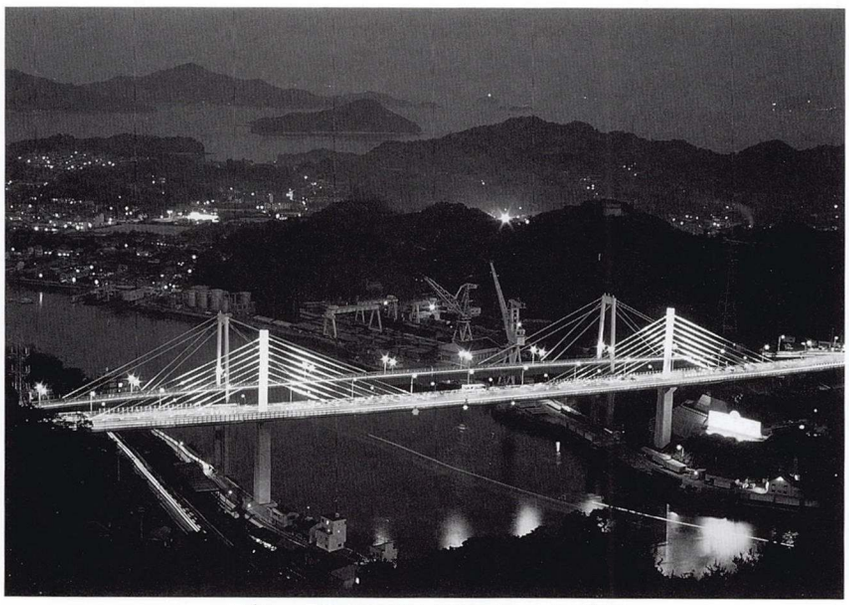


写真１　尾道水道に架かる瀬戸内しまなみ海道

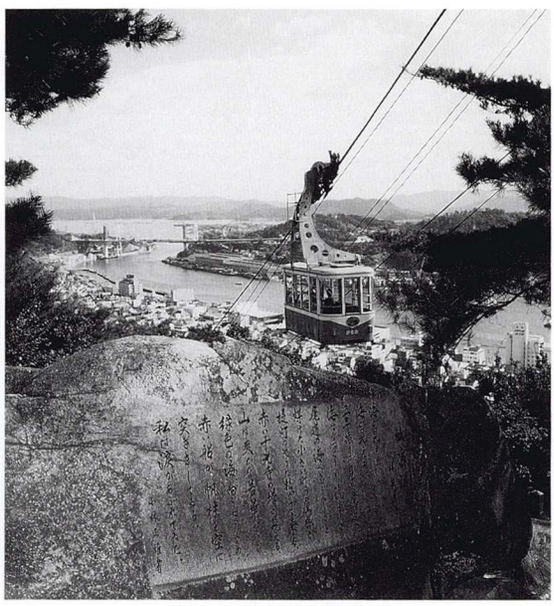


写真２　林芙美子の文学碑



写真３　尾道駅前市街地再開発ビル全景

事業とシーサイドライン整備事業の一体的な推進により、賑わいと潤いがあり、尾道らしさを象徴する親水性の高い複合的な交流拠点として生まれ変わりつつあります。

尾道駅前再開発地区（ベル・ポール）において昨年５月に開館した「しまなみ交流館（テアトロシェルネ）」は、劇場型ホール、情報発信コーナーを備えた広域交流施設として、国際芸術・文化の交流拠点となっています。

さらに本市では、中国横断自動車道尾道松江線の整備促進をはじめ、高速交通体系の整備効果を活かす道路網の有機的な整備促進、広域流通拠点の形成を目指した尾道流通団地の整備促進、美術学科を含め短期大学の４年制大学への改組転換を図る尾道大学（仮称）設置事業、保健・医療・福祉の一貫サービス体制の確立を目指した尾道ふくしむら整備事業、中心市街地の活性化につながる映像資料館の整備など、積極的に事業を推進しています。

本市は、魅力ある個性的な歴史・芸術・文化的資産に磨きをかけながら、小さくてもキラリと光る宝石のような価値のあるまちづくりを進めています。

（あいはら　みつる）



文学記念室

おのみち文学の館施設案内

●文学記念室／林芙美子記念室、高垣　眸・横山美智子・行友李風記念室、中村憲吉・山下陸奥記念室、短詩型文学記念室、尾道ゆかりの作家たち記念室

●志賀直哉旧居／大正元（1912）年、文豪志賀直哉が尾道に移り住んだ棟割長家

●文学公園／文学碑／休憩所

●中村憲吉旧居／アララギ派の歌人、中村憲吉が晩年を送った旧居

●問合せ先

文学記念室／尾道市東土堂町13-28　電話（0848）22-4102

志賀直哉旧居／尾道市東土堂町8-28　電話（0848）23-6243

尾道市教育委員会文化振興課／尾道市久保一丁目15-1　電話(0848)25-7366

しまなみ海道開通で変わる瀬戸田町の観光

柴田　大三郎
瀬戸田町町長

すばらしい歴史文化や自然の景観を有する瀬戸内海域にあって、更に多島美を誇れる芸予諸島の島々を、10橋で結ぶ「しまなみ海道」が、昨年５月１日に開通しました。開通時の大型連休は、宣伝効果もあって交通量も多く、混雑を極めました。若干、入り込みは右肩下がりではありますが、当初の予想は大幅に上回りました。芸予諸島域の観光の基軸、西の日光耕三寺をはじめ、多くの観光資源がルート上にはあります。

瀬戸田町の観光施設

ここで、瀬戸田町の代表的な観光施設を紹介させていただきます。

□耕三寺（耕三寺博物館）

母の菩提を弔う寺として周知されて久しいお寺です。境内には、京都南禅寺山門、奈良宝生寺五重塔、大阪四天王寺金堂、栃木日光東照宮陽明門、宇治平等院本堂、奈良法隆寺夢堂（八角堂）、近江石山寺多宝塔など全国の代表的な22の建造物を再築した名所です。春には桜の花を、秋には紅葉狩りを、たくさんの方に楽しんでいただいています。博物館には、国宝、重要文化財の仏像を展示しています。

加えて、大理石を用いた「未来心の丘」が、著名な石彫刻家により造成されています。来年秋の公開と聞いています。

□ベル・カントホール（町民会館）

質の高い町づくりを目指すに、ふさわしいホールです。音響を最重視したクラシック専用ホールです。有名なアーチストのコンサートを重ねてきましたが、皆さん絶賛してくださいます。客席数は、646席です。

□サンセットビーチ

人口海浜の海水浴場です。砂浜を豊富に有し、背後地には雇用促進事業団のスポーツ施設を整備しています。野外ステージ（ロックコンサートなど可能）や多目的なグラウンド、テニスコート、ゲートボールコートなどがあり、年間を通して利用されています。今年は、しまなみ海道の特徴である自転車歩行者専用道路の利用促進を行うため、サイクリング施設の建設を行います。

□平山郁夫美術館

日本画家で文化勲章受章者の平山郁夫画伯は、瀬戸田町の出身であります。代表作「仏教伝来」をはじめ、東西文化交流を果たしたシルクロードをテーマにし、さらに平和への祈りを込めた制作を続けられています。また、世界の文化遺跡、文化遺産の保存修復にも多大な貢献をされています。そうした画伯の成長のあらましを含め、テーマごとに展示を行っています。年間を通して、特別展と常設展示を行っています。



写真１　しまなみ海道開通セレモニー


写真２　耕三寺


写真３　サンセットビーチ

□シトラスパーク瀬戸田

本町の基幹産業の柑橘をテーマにした農業公園です。国内品種のみならず、外国の品種系統600種類の展示栽培を行っています。柑橘の特徴である香りを楽しんでいただく「香りの館」は、資生堂の協力を得ているもので、人気スポットになっています。地場産業と連携をして、安全でおいしい柑橘類の直販もシトラスパーク瀬戸田ならではであります。秋になると、みかん狩りなども楽しめます。

□野外彫刻の設置

生口島と高根島からなる瀬戸田町。島全体を美術館に見立て、今現在17作品の野外彫刻が設置されています。瀬戸田の自然の美しさの中に、自然美と調和する人工の美の創出。名付けて『せとだビエンナーレ』。時間をたっぷりかけて、アートウォッチングはいかがですか。この作品を用いて写真コンテストや絵画コンテスト創作大会などを行っています。ぜひ、ご参加ください。楽しいですよ！

先に記した、各施設は、耕三寺（耕三寺博物館）単一の観光地から、滞在時間の増大を図る町の観光振興策として、しまなみ海道開通に合わせて取り組んできたものです。約10年余の時をかけた投資総額は、120億円余り（事業費ベース）であります。幸いに各施設の利用客数は、予想をはるかに上回る状況です。本物志向の町づくり、文化・芸術の薫る町づくりが評価を得ていると理解しています。

園芸ベルト地帯構想

しまなみ周辺地域が、全通という絶対的チャンスを生かすために、向島町、因島市、瀬戸田町では県の支援を受けて、園芸ベルト地帯構想（橋でつながる道路をベルトに見立てて計画したもの）を実施してきました。向島は洋ランセンター、因島はフラワーセンター、瀬戸田はシトラスパークと広域で施設整備をして参りました。広域で多角的に振興策に取り組むことで、一層、周辺地域の魅力が増大すると堅く信じています。広島県内のみならず、愛媛県側の行政や民間レベルでも積極的に行うべきだと考えます。１例として、しまなみ海道の特徴である「自転車でも歩いてでも渡れる」、この事を利用者の立場に立って考えてみますと、利便性の改善などから取り組んでみる必要性を感じています。

瀬戸田町では、コンサート終了後に出演者と聴衆者がいっしょに交流会を行って親睦を深めています。町づくりのテーマに、交流を早くから取り入れている町です。参加者には、たいへん好評です。機会を作って、ぜひ参加してください。

今後の観光振興

国のレベルからみると、運輸省が国際観光ゾーンとして広島、愛媛、大分、山口を指定しています。いずれの県にも、諸外国にアピールできるものがあります。広島県では、広島空港の滑走路3,000メートル化が着工されています。この滑走路延長は、観光の国際化を一躍伸ばすものでなくてはなりません。広域連携へと結び付け、振興を図るべきだと考えます。広島空港を軸とした場合、高根島から三原市須波への架橋建設を実現し、高規格道路で空港と結ぶ必要があります。そして、一層の利便性を向上させるべく、努力していかなければなりません。関係機関に要望を重ねているところです。



写真４　平山郁夫美術館

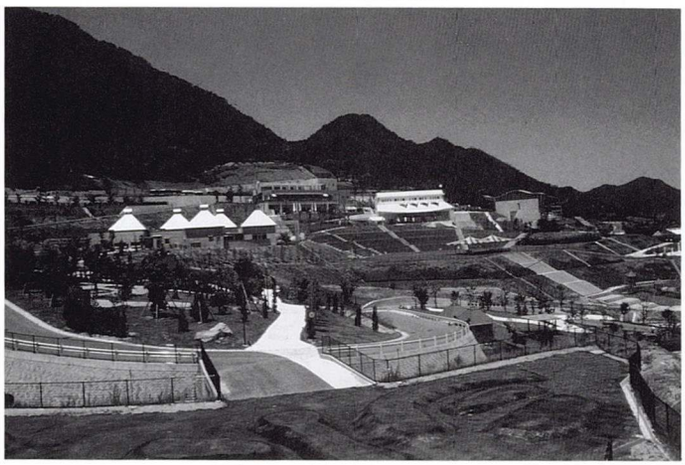


写真５　シトラスパーク瀬戸田



写真６　せとだビエンナーレ「波の翼」

町の観光振興は、日本人が特に好む「お湯」（温泉）の開発と「宿泊施設」の拡充が急を要すると考えています。しかし、この種の事業は民間のノウハウでないと難しいと思います。たとえば、「○○社が町内に…」と話があるとすれば、行政のできる協力は大いにしていくべきと判断します。官民の総合力で一層発展させる必要性があると思います。そして、訪れた人の心を「癒(いやす)」「充(みたす)」「蘇（よみがえる)」の３点に気くばりができるサービスの提供が、今後、大きく影響するでしょう。そのための学習や教育が求められています。最終的には、人の育成であります。

おわりに、陽光キラメク紺碧の海、緑豊かな島々、自然をたいせつにした町づくりを推進して参りたいと考えています。

（しばた　だいざぶろう）

しまなみ海道に寄せて

平山郁夫美術館

井上　道稔
平山郁夫美術館次長

設立趣旨

平山郁夫美術館は、新しい時代を担う青少年はもとより来館されたすべての人々に美術を通して豊かな人間性を育てる教育の場として機能することを目的に設置されました。

平山画伯は常々「瀬戸田で育ったからこそ今日の絵がある」といわれています。潮の流れ、美しい自然、内海の陽光などから得難い感性が育ったことが今日の平山画伯の原点です。画伯の幼年期・青春時代、日本は激動の最中でした。そして被爆の体験、生死の境を乗り越え平和を希求し、平和への祈りを描き続けられておられます。そして東西文化交流に思いを馳せ、シルクロードの取材を続けられているのも、こうした背景があってのことです。こうした平山画伯の歩んできた軌跡を通して、入館者にさまざまなことを考えていただくことで、青少年が将来どんな分野に進もうとも、豊かな感性と真の意味で創造的な個性を持ち、社会に寄与する人が生まれ出てほしい、そのための教育の場であることを当美術館は目指しています。

展示作品については、本画、素描、スケッチ、大下図など合せてご鑑賞いただけます。また、画伯のテーマ「平和の祈り」を求めて歩んだ足跡、シルクロードの紹介、また、視覚で研修できるようハイビジョン映像、絵画の画像対応ができます。

平成９年４月６日開館しました当美術館は、平成11年11月２日、２年７ヶ月間で入館者百万人を達成することができました。

今後の役割

今後も、社会的・文化的に重要な役目を果たす美術館として教育組織を支援し、また現実的な意味で人々の生活の質を高めることができるものと考えます。一方、経済的利益として耕三寺博物館・ベルカントホール・シトラスパーク・サンセットビーチと連携し、効果的な活動によって観光の新しい経済戦略につながるものと思います。さらに瀬戸田町が架橋によって島でありながら島でなくなっている状況を鑑み、全国の美術館と提携・交流して文化の発展に寄与し、企画展を積極的に実施することで、当美術館が文化の発信基地としての役割を果たしていきたいと考えます。そのためにも当美術館運営に従事する職員が来館される皆様に誠意をもってお迎えすることが何よりも大切と考えます。

概要

□事業の目的

瀬戸田町では、地域の個性化を進めていくうえで、地域活性化のテーマを「文化の香り豊かなまちづくり」に置き、町づくりを推進しており、これまでにベルカントホールの建設やクラシックコンサート、瀬戸田ビエンナーレ（現代彫刻の設置）などの事業に取り組んでまいりました。これらの文化事業の蓄積のうえに立ち、さらに地域の個性化を進めていくため、本町出身である平山郁夫画伯の美



写真１　展示室（大）

術館を建設することにより、地域文化の向上と芸術文化の情報発信を図り、西瀬戸自動車道の全線開通のインパクトを活用して地域の活性化をめざしております。当館は、平山郁夫画伯の功績を称えるとともに、絵画展やハイビジョンなどでその活動や絵画の世界等を様々な角度から表現するものです。そして質の高い芸術に親しむことにより地域のイメージアップを図ることができ、本町のまちづくりに幅広く貢献するものです。

□立地条件

瀬戸田町は平成11年５月１日に開通した、しまなみ海道の丁度中間にある生口島にあり、西日光耕三寺がある観光の島・みかんの島・造船の島、などで知られております。近年では、「芸術・文化の薫るリゾートアイランド」を目指して、文化事業にも力を入れております。

□美術館の施設

敷地面積は６千47平方メートルで、建築面積は約２千380平方メートルです。総工費は約17億円、両国国技館を設計した今里隆先生の設計で、薄茶色の塀に囲まれた、瓦と銅板葺きの切り妻屋根を持つ鉄骨コンクリート造りの、日本風建築であります。館内はナラ材総板張りで、延べ床面積は約２千平方メートルで、大小３つの展示室のほか、平山郁夫画伯の歩みを紹介するハイビジョン番組やビデオ番組を110インチの大型画面で上映するハイビジョン室など設置されております。

□「仏教伝来」原寸大の陶板画

当館の玄関を入ると右手奥のロビーに見えるのが、平山郁夫画伯の出世作「仏教伝来」の原寸大の陶板画です。制作には、実物に忠実な色を出すため、数度も焼き直した立派なこの作品が目を引くようです。

□瀬戸内海の風景を日本庭園に

玄関ロビーから、眺望を得る、この日本庭園は元東京農業大学教授・中島健先生の設計による瀬戸内の島々を取り入れた日本庭園です。四季折々に草花が咲き誇る庭園の中央に見えるのは、生口島の沖合に浮かぶひょうたん島です。

以上、簡単ではありますが当美術館の説明とさせていただきます。

（いのうえ　みちとし）

設計趣旨

日本画家平山郁夫先生の自然観、芸術観を育んだ故郷瀬戸田町に建つ平山芸術の原点を表現する美術館というコンセプトのもと、第一に重視したのは、屋根の形および全体のプロポーションと周囲の景観との融和である。切妻の大屋根に柔らかな反りを加え大型の日本瓦をのせ、下屋根は黒銅板で構成し、両屋根のバランスにより安定感あるプロポーションをつくり出した。穏やかな青い海、緩やかな緑の山並み、優しい陽光といった瀬戸内の自然に溶け込む落ち着きある作品となった。

細長い敷地を活かして、正面門より玄関まで長いアプローチを配する。日常から芸術空間への橋渡しの役割を担うアプローチは、期待感が徐々に高まる効果を生む。玄関を入り右手ロビーに至ると、庭園が目に飛び込む。生口島から瀬戸内海を眺めた景色をモチーフとした中島健氏デザインの庭園である。青色砂利を近海に、緑のディゴンドラを遠景の海にそれぞれ見立て、中間に瓢箪島を配し、四季折々に咲く花が華やかさを添える。造園の常識にあまりない縦長の空間が巧みに演出されている。庭園は、ロビー横に設けた喫茶室からも望むことができ、鑑賞後の余韻を楽しむ場としての空間づくりの一要素となっている。大中小の展示室は、廊下より見渡せる配置とする。美術館、博物館の展示室の配置には、明快さが重要である。展示スペースがどのくらいあるのか見当がつかない配置では、不安で疲れを感じてしまう。全体の把握がなされることにより鑑賞スペースの配分が可能となり、一層有意義な鑑賞となる。内部仕上げにナラ材を多用し、開口部に障子を使用。平山芸術のテーマである「平和への祈り」に通ずる暖かみのある空間をつくり出せたと思う。

豊かな自然の中で芸術性の高い作品にふれることができるこの美術館が、人びとの心の安らぎの場として、また未来を担う子供たちの情報教育の場として、その役割を存分に果たすことを大いに期待している。

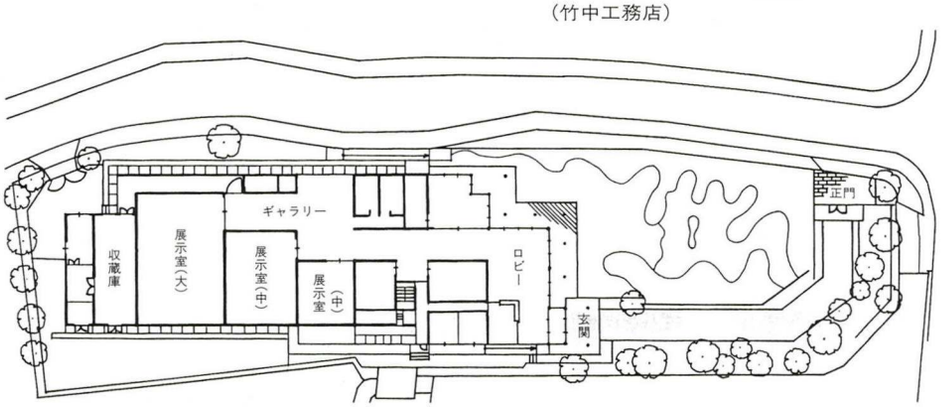
（竹中工務店）



写真２　全景



写真３　外観ディテール



平山郁夫美術館
設計監理　杉山隆建築設計事務所
施　　工　竹中工務店広島支店
所 在 地　広島県豊田郡瀬戸田町大字沢200-2
敷地面積　6,047.00㎡
建築面積　2,380.28㎡
延床面積　2,180.30㎡
構造規模　RC、一部 SRC、２Ｆ
工　　期　1995年４月～1996年４月
撮　　影　GA photographers

路面電車からLRTへ ――超低床電車で街が変わる？――

中尾　正俊
広島電鉄株式会社取締役電車カンパニープレジデント

1．はじめに

日本の路面電車は明治28年２月１日（1895年）京都市において運行されて以来、104年の歴史を持つ路面公共交通機関です。

我国では昭和30年代後半からモータリゼーションの発展に伴い、自動車の発達が著しく中でもマイカーの急速な発展振りには目を見張るものがあり、その利便性はまたたく間に日本全土に拡がり、路面交通手段として路面電車やバスをアッという間に追いやってしまいました。

広島の路面電車も昭和38年から軌道敷内自動車乗り入れ可の交通規制を機に速達性が失なわれ、昭和42年度の電車利用者は年間600万人も減少しました。軌道内に自動車が通行し路面電車も交通渋滞に巻き込まれて定時性が失なわれ、利用者離れがピークに達したのです。

昭和30～40年代は同様のケースから東京、大阪、神戸、京都等大都市の路面電車が撤去され他の交通へと変わっていった時代でした。そういう中で広島の路面電車が生き残った最大の要因は、昭和38年６月から軌道敷内通行可にした規制を、昭和46年12月１日から軌道敷内諸車乗入れ禁止への見直し交通規制措置を広島県公安委員会が決定したことによります。元々道路交通法第21条で諸車は軌道敷内通行禁止にはなっているものの自動車一辺倒の時代で路面電車は交通渋滞の元凶のように言われ交通の邪魔者扱いにされていた最中のこの措置は広島県公安委員会の大英断だったことと思います。それから後、軌道敷内諸車乗入れ禁止措置が全国の路面軌道に適用されるようになってからは廃止にブレーキがかかり、現在は公営５局、民営14社の計19局社が地域の路面公共交通機関として一生懸命頑張っています。（写真１）

2．LRTとLRV

LRVはライトレールビークル（Light Rail Vehicle）といわれ、いわゆるノンステップ車両で床面までの高さが16㎝～33㎝位の超低床車両を言い、LRTはライトレールトランジット（Light Rail Trangit）といわれ、LRVをまちづくりの道具（都市の装置）として使うことによってトランジットモールを都心に作ることができ、都心の交通渋滞や排気ガス公害を緩和させたり、車椅子やベビーカーやお年寄りが乗降りし易い人や環境にやさしいバリアフリーなまちづくりとか、中心市街地の活性化をはかったり、芝生軌道にして都市景観や環境を向上させることができるようになるのです。日本ではLRVとLRTが混同されて超低床電車を導入すればそれがLRTと解釈されているようですが、正しく理解される分かりやすいネーミングが欲しいような気もいたします。しかし、「LRT」が一人歩きして超低床電車の代名詞のように扱われている現在では、それはそれでそう解釈していただければいいのかなと思ったりもしています。それは無責任ではないかとのご叱責が飛んできそうですが、例えば国鉄からＪＲに名称変更になった時、最初はなかなかなじめませんでしたが今ではすっかり定着しています。ＪＲの語源がどうだこうだという議論は全く聞かれません。またフランスのTGVも語源は分からずともフランスの新幹線と解釈され理解されていますので、LRTもそういう風に理解され定着すればいいのではないかとも思ったりしています。（写真２）

3．路面電車からLRTへ

広島の路面電車は「動く交通博物館」といわれるくらい車種が豊富です。これは昭和30年代後半から40年代にかけて経営合理化のためワンマン化を推進するためには、それ迄の40人乗りの単車から80人乗りの大型ボギー車両へと大型化が必要でありましたが、当時新車をつくる体力もなく思案していたところ、大阪、神戸、京都で相次いで路面電車が廃止されるということであったので、これを安く譲り受けてワンマン化という経営合理化が実施出来て難局を乗り切ってきました。その時、車体塗色を塗りかえれば１両当たり20～30万円の費用がかかるので塗りかえずご当地そのままの塗色で走らせていたところ、昭和50年代いつの間にか「動く交通博物館」と言われるようになり、それはそれで、当時路面電車の存在をアピールする恰好の材料となりました。

しかし、昭和60年代から平成へと時代は変わり、街のビルや電線類地中化という都市景観整備事業がスタートし、一様にきれいな街づくりへと時代が変わっていき、各地からきていた「動く交通博物館」のスター達も次第に色あせてきて、時代遅れの乗り物と見られるようになってきました。

時あたかも平成９年、広島市においては広島の街の基幹交通として路面電車では速達性や輸送力に限界があるとして、新交通システムのアストラムラインの市内延伸案を市議会に提案されました。我々既存交通事業者としては、路面電車を時代遅れな乗り物呼ばわりされないよう車両の近代化を最優先に取組むこととして、平成10年度ドイツより超低床車両「グリーンムーバー」を１編成、国や県・市等地方自治体より近代化補助金を得て導入しました。平成11年度も同じく近代化補助金を得て３編成導入いたしました。また速達性の向上対策として平和大通り（通称百米道路）への路線つけ替え（西観音町電停～白神社前交差点まで1800m）を含む全体のリニューアルをして路面電車の有効活用をはかるべきだとして広島市にお願い

をしてきました。

その結果、平成11年11月上旬、広島市長から第四次の将来の公共交通体系のマスタープランが発表されましたが、それにはアストラムラインの３段階的整備と路面電車の改善対策案が盛り込まれていました。まず、交通拠点から都心への路面電車のアクセス改善施策として平和大通りへの路線新設は西観音町電停～江波線までの一部ではありますが、900ｍの新設と広島駅前大橋へのルート変更が挙げられます。

またこの他、交通結節点の改善のため乗り継ぎ利便性の向上施策として、路面電車のJR横川駅前乗入れや輸送力強化のための西広島駅構内の改良、広島港フェリー発着場の移設に伴う路線の延伸（280m）等や既存交通のバリアフリー化施策として超低床電車導入の推進をはかるなど、路面電車のリニューアル対策が色々と盛り込まれる結果となりました。また広島県の総合交通計画案の中にも、超低床電車導入促進やドイツのカールスルーエ方式と同様に路面電車のLRT化とＪＲ在来線との相互乗り入れ等、郊外から都心へ直接乗入れする交通結節点の機能強化がうたわれ、シームレスネットワークの形成を目指した将来の在り方が示されるなど、21世紀は路面電車からLRT化への方向性がはっきりしてきたように思います。（写真３）

４．日本製のLRVを

平成10年度運輸省の近代化補助金制度の中に初めて超低床車両が対象となり、ドイツのシーメンス社製のLRVをアルナ工機を窓口として導入しました。車両諸元は長さ30.52m、３台車５車体連接車、幅員2.45m、定員153名、価格3.4億円／編成。前頭部のデザインはアルナ工機。（写真４）

導入に至るまでは日本の車両メーカー数社と色々打合わせをしたが、結局は車体については自社製造できるものの技術的には特許にかかわるノウハウがあって簡単にできなかったり、台車についてはほとんどが特許にかかわるものばかりで、日本の超低床車両開発の遅れというか技術の差がこんなにあるとは思いませんでした。台車についても今から研究開発をしていたり、日本の路面電車の市場（需要）を見ると先行き期待がもてない、そのため作るとしてもかなり高額になりペイしないとの話になり、結局超低床電車についてはヨーロッパ製を導入するしか方法がないとの結論になり話を進めたのでありますが、いざ実際にやって見ると、色々手続きやトラブル対策、また材質や価格、納期についても意志疎通がスムースに行かず色々と面倒なことがあり、国際的な取引というものはなかなか厄介なものだということが判明しました。できれば日本製のLRVでLRT化が進められれば言うことなしなのですが…。

また、平成10年度建設省が路面電車に対する補助制度「路面電車走行空間改善事業（道路整備特別会計）」を創設したことにより、インフラ補助対象交通手段の選択肢がこれまでの地下鉄・モノレール・新交通システムに新たに路面電車が加えられることになったのに伴い、日本においても他の都市でLRTの復活や、新設に向けて検討をしている都市も数多くあり、LRTを都市の装置としてまちづくりの一手法に活用しようという動きが活発になってきました。復活や新設が実現すれば魅力あるLRVの市場が拓けてきて日本の車両メーカーも力が入り、日本製のLRVも夢ではなくなることを期待しています。

（なかお　まさとし）



写真１　本通付近軌道敷内諸車乗入れ禁止状況



写真２　ベビーカー乗り込み状況



写真３　フランス・ストラスブールのLRT



写真４　原爆ドーム前を走るグリーンムーバー

中国支部会員

スケッチブック



布野村立横谷小学校

設　　計　山田保建築設計事務所
施　　工　大宝・加藤JV
所 在 地　広島県双三郡布野村大字横谷字瀬戸774-1
敷地面積　6,936.48㎡
建築面積　1,958.53㎡
延床面積　2,679.84㎡
構造規模　W、一部RC、一部S、2F、1F
工　　期　1995年12月～1996年12月
最 寄 駅　広島バスセンターより郊外線バス



津和野郵便局

設　　計　中国郵政局施設部
施　　工　大畑建設
所 在 地　島根県鹿足郡津和野町大字後田字祇園町口297他
敷地面積　951.51㎡
建築面積　624.85㎡
延床面積　581.31㎡
構造規模　W、2F
工　　期　1998年１月～1998年10月
最 寄 駅　JR山口線津和野駅



広島ステーションビル「ΛSSE」（アッセ）リニューアル

設　　計　安井建築設計事務所・JR西日本コンサルタンツ
施　　工　大林組・フジタJV
所 在 地　広島市南区松原町2-37
敷地面積　15,276㎡
建築面積　8,813㎡
延床面積　36,844㎡
構造規模　SRC、一部S、RC、B2F、7F、P1F
工　　期　1998年７月～1999年３月
最 寄 駅　山陽本線広島駅



倉吉郵便局

設　　計　中国郵政局施設部
施　　工　大鉄工業、共立建設
所 在 地　鳥取県倉吉市昭和町２丁目129
敷地面積　2,831.62㎡
建築面積　1,911.89㎡
延床面積　3,907.38㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1997年９月～1998年10月
最 寄 駅　JR山陰本線倉吉駅



尾道ウォーターフロントビル

設　　計　アール・アイ・エー広島支社
施　　工　大林組、葉名組JV
所 在 地　尾道市東御所町9-1
敷地面積　6,058㎡
建築面積　1,593㎡
延床面積　7,404㎡
構造規模　S、6F
工　　期　1996年12月～1997年11月
最 寄 駅　山陽本線尾道駅



福山大学10号館
増改築

設　　計　学校法人福山大学施設部
施　　工　安藤建設広島支店
所 在 地　広島県福山市東村町字三蔵985
敷地面積　16,434.65㎡
建築面積　　106.218㎡
延床面積　　356.061㎡
構造規模　（既存）RC、3F（増築部）S、3F
工　　期　1998年７月～1998年11月
最 寄 駅　JR山陽本線松永駅



ごちょう眼科

設　　計　村重保則＋現代建築設計事務所
施　　工　松屋産業
所 在 地　岩国市麻里布町3-120-14
敷地面積　526.00㎡
建築面積　244.45㎡
延床面積　447.04㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1998年９月～1999年５月
最 寄 駅　山陽本線岩国駅



ルーテル平和大通ビル

設　　計　沖本初建築設計事務所
施　　工　前田建設工業
所 在 地　広島市中区鶴見町2-19
敷地面積　1,725.11㎡
建築面積　1,414.61㎡
延床面積　11,582.37㎡
構造規模　S、B2F、10F、P1F
工　　期　1993年12月～1996年３月
最 寄 駅　平和大通鶴見橋バス停



早稲田の家

設　　計　CAF垂井俊郎建築設計事務所
施　　工　下岸建設
所 在 地　広島市東区牛田早稲田
敷地面積　95.74㎡
建築面積　56.13㎡
延床面積　112.26㎡
構造規模　W、2F
工　　期　1999年７月～1999年12月
最 寄 駅　広電バス牛田旭バス停



ナタリーマリナタウン
ウエストデッキ

設　　計　フジタ
施　　工　フジタ
所 在 地　広島県廿日市市阿品3-1-2
敷地面積　8,448.38㎡
建築面積　3,406.68㎡
延床面積　19,872.27㎡
構造規模　SRC、一部RC・S、14F、P1F
工　　期　1997年11月～1999年３月
最 寄 駅　JR山陽本線阿品駅



宮中為三邸

設　　計　有信設計
施　　工　大成建設広島支店
所 在 地　広島市西区山手町14-3
敷地面積　257.92㎡
建築面積　143.08㎡
延床面積　373.00㎡
構造規模　RC、4F
工　　期　1998年６月～1999年11月
最 寄 駅　広電バス中広2丁目バス停

「建築と社会」誌

特集一覧●1978〜1999

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1978 Vol. 59	●デザインの動向ー新旧のコントラスト	●水*	●医療施設ー病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画*	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン*	●商業空間*	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建築の終局強度の検討	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築ーまちづくりの歴史と展望	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文ー北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法ー安全な環境をめざして*	●都市住宅ー住まい手からの発想*	●建築物と風ーデザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団ー関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設ー地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観ーまちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西ー魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル*	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展ー*	●建設産業とロボット開発*	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道ー建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホールーそれが生みだす文化ー	●建物の表情ー最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合ー人体と建築にみるー ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間ー都市型集合住宅にみる	●屋根ーその デザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発ーその創造的仕掛けの鍵をもとめてー ●ツイン21	●CADーその応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統ー東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明*	●制振*	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識ー中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化ー設計の多様化をめざしてー*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感ー建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくりーIー	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりーIIー ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念*	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識ー複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木ー構造技術の世界ー ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語ー人がかわる、まちがかわるー	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザインー東海支部ー	●建築家のための設備知識ー集合高層住宅の設備システムー	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創りー住宅・都市整備公団関西支社10周年ー	●木構造を使ってみませんかー集成材による構造ー	●接着ー建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台ー仮設の魅力に学ぶー ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境ー限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生ー構造技術の役割ー ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境ー人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かってー会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美ー建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音ー騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃ーまちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法ー会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 Vol. 77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念	●遠江ーその地域振興と文化	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 Vol. 78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●金沢・能登ー風土・文化とまちなみ・建築	●創立80周年記念／建築と私と社会ー80人の眼ー	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興ー法・制度の運用と新たな展開へー ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法ー会員作品ー	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 Vol. 79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州ー諏訪とその周辺ー	●街並みの演出ー最近の外構材料*	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備ービルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98ー21世紀に向けて	●ゆれをとめるーたえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 Vol. 80	●"らしさ"のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃ー街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法ーまちづくり・すまいづくりへの展開ー	●私の目でみた環境問題	●アーバン・インテリアー都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者

*は欠号

BOOK STATION
ブックステーション

アジアン・スタイル
村松　伸　著
淺川　敏　写真

筑摩書房
1997. 4 . 15刊
A5判　194頁　本体 2, 800円



最近アジアの現代建築がめざましい。どちらかというと、今までアジアの建築は世界の建築界からおいてけぼりにされることが多かった。（日本は例外にして）著者は、観光や研究調査で訪れるアジアの都市の活力や、建築の激変に引き込まれていく。しかし、「なぜアジアの都市に活力があるのか、建築家たちは何を目標としているのか、どんな建築家が何をつくっているのか」についての資料は皆無であることを知る。そこで、自分たちで情報を収集し、17人のアジアの建築家を実際に訪れ、インタビューした記録が本書である。アジアといっても、台湾、韓国、中国からインド、ベトナム、ネパール、マレーシアまでカバーしている。内容は、各建築家の主張と作品のカラー写真で構成されている。その地域の文化の匂いを多少感じさせる作品もあれば、全く文化を越えた作品もあり目をみはる。（写真が小さいのが少し難であるが）最終章に、アジア現代建築の分析が著者によってなされており、その立場を４つに分類して紹介している。　（Y.I）

子供の眼でまちづくり
寺本　潔　著

KTC中央出版
1999.7.30刊
四六判　189頁　本体1,200円



先日、東京都のどこかの区が、児童公園を従来の遊具中心の整備された公園ではなく、草ぼうぼうの壊れた椅子や土管がある「空地」にして提供しているという記事を目にした。今、子供に目を向けた街づくりが始まっている。本書は、地理学を専門とする著者が、次世代の「まちづくり人」である子供たちの目を通してのまちづくりを提案し、調査し、その実践をまとめたものである。確かに、今の街づくりはあまりにも整然としすぎて、きれいだけど愛着がわかない。子供のころに体験した原風景や、子供だけが知っている子供道、お化け屋敷や秘密基地、そんな要素が近代の街からなくなっている。著者は、子供に自分の住んでいる街の地図を書かせたり、好きな場所の写真を撮らせたりして、「場所の感覚の再生」に取り組んでいる。「持続可能な都市づくりを考える上でも、子供たちにも、場所のイメージは伝えていく必要がある」と訴える。私たちも、街づくりの一端を担う者として、心に留めておきたい内容である。　（Y.I）

変わる盛り場
－「私」がつくり遊ぶ街－
サントリー不易流行研究所　編著

学芸出版社
1999.11.10刊
A5判　216頁　本体2,000円



まず編者である研究所の名称がいい。明快で格調高い。そして出版のタイミングがいい。美味しい酒と温もりの恋しくなる晩秋、「盛り場」という単語は何とも華やかで哀愁を帯びた響きがある。もっとも、現代の若者には聞き慣れない言葉かもしれないが。
関西を中心に異なったタイプの現役バリバリの「盛り場」を街の生態、歴史からウォッチング、ヒアリング、アンケートなど様々な調査により分析し、それらの事例から現代の盛り場の、まさに不易と流行を抽出し、今後の新たな盛り場の姿を読むキーワードを提示している。が、調査報告書のような堅苦しさは微塵もない。「盛り場」という言葉すら知らない若い人から、Hanako、サヴィ、ぴあ…なんてガキの雑誌と言う中年諸氏まで街に興味ある人なら誰しもタウン誌感覚で楽しめる。二日酔いで疲れた頭にも昨夜の盛り場を思い出しながらパラパラめくれる読物である。　（Y.O）

人と街を大切にするドイツのまちづくり
春日井道彦　著

学芸出版社
1999.11.25刊
A5変形判　192頁　本体2,300円



ドイツの都市計画と聞いただけで、思わず肩に力が入りそうである。ガチガチの厳しい制度と郊外を突き抜けるアウトバーン。一方で、その制度の厳しさ故に、整然とした美しい街並みが保存、形成されているという印象もある。
本書は、永年ドイツで都市計画の研究と実務に携わる者による、いわゆるまちづくり事例集である。しかし、日独両国の実情に通じた筆者独特の経験と視点から、海外の成功例を列挙した、何となくしっくりこない事例集ではない。プロセスを見せ、失敗例を交えながら、平易な言葉で様々なタイプを紹介することにより、市町村が競って知恵を絞り、まちづくりに真剣に取り組む様子が読み取れる。すなわち、「そっかぁ、ドイツと言えども、こんなにアイディアを出し、紆余曲折にもめげずガンバっているんだぁ」と、当初の力みがやや取れるような内容である。
（Y.O）

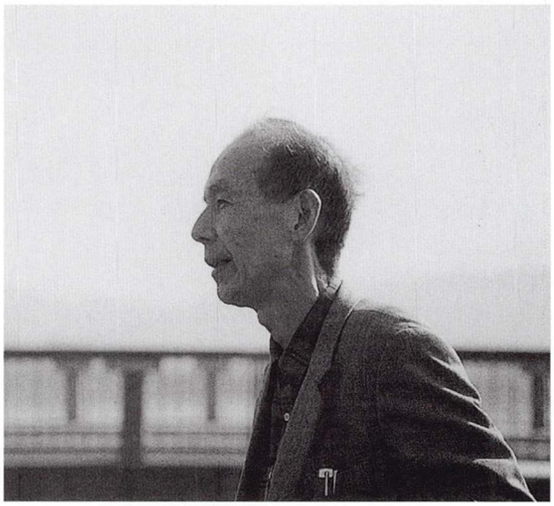
担当：会員企画小委員会／稲木裕子・大谷由紀子

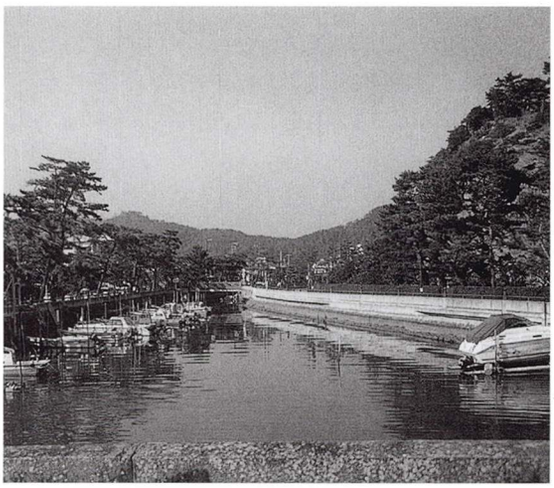
49 多田道夫

being

being

歴史的景観保全運動家





右手が鳳供山とキャラ岩（不老橋より望む）

多田先生とお会いしたのは「不老橋」の上だった。秋の陽が気持ちよく海のうえに輝き、風もない水面はゆったりと和歌の浦を映していた。

初めてお会いする先生は、橋の向こうからやって来られた。向こう岸を、少し前屈みに、数歩先の地面をじっと見ながら歩かれるお姿を拝見したときから、先生のことが少しわかったような気がした。

「不老橋のこと」

歴史的景観保全訴訟の因となり、ご存じの方も多いと思われる不老橋について、「不老橋」という本の、多田先生が書かれた序文をお借りして紹介しよう。「不老橋は、幕末（1851年）に、和歌の浦に架けられた、石の太鼓橋です。この橋は、その形といい、大きさといい、また、その位置といい、まわりの風景とよく調和して、大変優れた出来栄えでしたので、以来、この土地のシンボルとして、長年、多くの人に親しまれて、今日に至りました」。その不老橋の上で小一時間立ち話をし、簡単な和歌の浦の景観説明を、歴史的背景とともにお聞きした。小春日和の一日を和歌の浦でご一緒に過ごすうち、お話を伺った私達6人は歴史的景観保全のサポーターになっていた。

「歴史的景観保全の必要を訴える」多田道夫の誕生

多田道夫は1926年12月和歌山県海草郡和歌浦町（現和歌山市和歌浦中）に呉服屋の長男として生まれた。「和歌の浦」はそこにあり、東照宮と和歌祭り、御手洗池、不老橋、観海閣、奠供山、玉津島神社、すべてが遊び場であり日常だった。和歌山大学でフランス語を教えるようになった多田は、昭和38年36歳、結核の手術の後、療養の身で正月をむかえ、雨上りの和歌（地元の人の土地の呼び名。「和歌の浦」は歌枕としての呼び名）を散歩していた。不老橋の辺りから、雨に濡れた鏡山のキャラ岩を見た時、岩も松もウバメガシも今まで見たことがない美しい色彩に見えた。（ボードレールやプルーストも同様の経験をしている。）それは35年間見続けたモノが、突然生命をもった瞬間であり、多田の言葉によれば「地霊と黙契を交わしたと感じた瞬間」であった。以来、和歌の景色は、多田にとって、ひとつひとつが自分の存在の一部になっていった。そして、自分の原風景と日本文学史の原風景との偶然の一致も手伝って、多田は「景観」とは何かを問い続けることとなる。カントは、美的判断力は悟性や理性と違って概念装置を持たないから、純粋に主観的なものだが、アプリオリな構成的原理を含んでいて、万人にむかって賛同を要求することが出来るといっているが、多田は景観体験についても同じことがいえると考える。

「和歌の浦　歴史と文学抄」

若の浦に潮満ちくれば潟を無み葦辺を指して鶴鳴き渡る

万葉集の中でもとりわけ有名な山部赤人の歌です。聖武天皇は即位された727年に、山部赤人を同道して紀伊の国に行幸された、その時の歌です。聖武天皇は和歌の浦の景色にいたく感動され、その景観を守るべく番人を置くよう差配されました。万葉集は今からおよそ1300年前に編まれた20巻にのぼる歌集で、百姓庶民から天皇まで、あらゆる階層の人の歌が載録されています。和歌の浦を内海のように抱える片男波海岸は、大変美しい松林のある天橋立にそっく



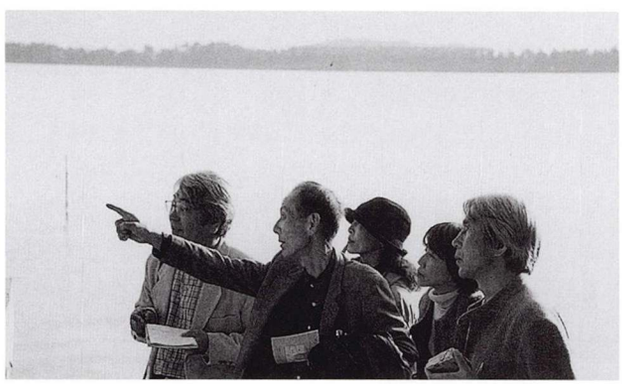
不老橋の上で陽だまりのレクチャー

りの砂州です。この片男波の名は、赤人の歌の“潟を無み”からきているし、和歌山県の「和歌」も同じ歌の“若”からきています。玉津島の名は、現在の妹背山、鏡山、奠供山、霊蓋山、妙見山、船頭山が、古代には海中に連ねた玉のように浮かんで見えたことから生まれました。明治に入り県立公園の指定を受けた和歌の浦は、海水浴場としての人気も博し、市電敷設が取り沙汰された時には、開発か保存かの激しい論争が起こりました。その折、保存が優先される結果になったのは、和歌の浦が古代以来の日本を代表する美景観だったからでしょう。

「よみがえれ和歌の浦」保全運動と今後

1980年代、全国を席巻したリゾート開発ブームは、和歌の浦も襲い、和歌山マリーナシティ計画が1987年発表された。県は和歌の浦を環状に結ぶ道路計画を発表し、片男波の先と対岸の地を結ぶ斜張橋の絵も発表された。幸い反対運動によってこの計画は取り止められたが、片男波海岸への自動車アクセスルートとして、不老橋に並んで計画されたのが新不老橋（あしべ橋と改称、1991年完成）である。これに対し多田は、地元の人々や研究者とともに不老橋からの景観を守るために、その視覚障害となる新不老橋の計画を中止するよう求めて景観保全訴訟を戦った。1989年12月に和歌山地裁に提訴し、17回の口頭弁論に延べ11名の意見陳述、証言がなされたが1994年11月棄却された。自然環境の保全や埋蔵文化財の保護を求める訴訟は他にもあったが、歴史的景観の重要性を論じ、それを住民の権利として争ったのは、これが日本最初であった。敗訴したものの、判決文では、日本においても文化的環境の保護は行政の目標、との一文を引き出したのはせめてもの救いといえよう。文化的環境の中でも景観は一番破壊されやすい。そして一度破壊されたら二度と元には戻らない。現在の経済体制下、法制度下で極めて困難な景観保全こそ、文化度のバロメーター、試金石、21世紀の緊急課題ではなかろうか。

（インタビュー　北村恭一）



和歌の浦と片男波の松林をバックに

多田道夫　「和歌の浦を考える会」代表
〒641−0021　和歌山市和歌浦東1−3−11
TEL. 073−446−0101　FAX. 073−446−1251

参考文献
・よみがえれ和歌の浦（景観保全訴訟記録）
　和歌の浦景観保全訴訟の裁判記録刊行会編　東方出版
・不老橋（写真集）　編集・発行：和歌の浦を考える会
・和歌の浦百景（古写真でみる名勝の歴史）
　藤本清二郎編著　　東方出版
・和歌の浦歴史と文学
　薗田香融監修　藤本清二郎・村瀬憲夫共編　和泉書院
・和歌浦物語　柏原卓編　和泉書院

建築基準法改正と建築物安全安心推進計画

浜野幸雄
京都府土木建築部建築指導課主幹

平成10年の建築基準法改正の特徴の一つは、先の阪神淡路大震災の教訓を踏まえた建築物の安全性の確保であり、これを実現する担保として、行政が独占してきた確認・検査を民間にも開放することにより体制の整備を図ったところにある。

建築基準法の実効性については、従来、建築確認を受けた建築の完了検査率が全国的に極めて低い（３割程度）ことが問題として指摘されてきた。この問題が単なる手続き違反にとどまらず、違法建築や欠陥建築を生む温床になっていることは事実である。

法手続が守られない理由についても、検査に合格しなくても建物を使用することを必ずしも妨げない（強制力が弱い）建築基準法の性格にあるとか、検査を受けない多くの違反建築を摘発、是正してこなかった行政の責任が大きいとか、検査を受けなくても実生活に困らないという仕組みが問題であるとか、様々に言われてきた。

今回の法改正そのものは、建築基準法を守ることについて強制力を付加するものではなく、建築基準法の規定に従って工事監理者を置き、完了検査等の手続を踏むことが建築物の安全を確保する上で重要であることを指摘し、また、建築物の検査履歴情報を提供することでユーザーが判断できるようにお膳立てをしたに過ぎない。したがって、これらの趣旨が、ユーザーである国民に広く理解され、建築士や施工業者、流通や融資、エネルギー供給者など関係者に周知されないと、相変わらず法は守られず、今回の改正は絵に描いた餅に終わりかねないのである。法改正とは別の手立てが必要な理由である。

推進計画の骨子・目標（全国の状況）

推進計画は、平成11年４月６日付け建設省住宅局長の都道府県知事あて通達により、法改正を契機として法律の規制を実効あるものにするため、全国的な規模で展開すべき取り組みとして提起された。

次に、各都道府県の計画の平均像を、各施策ごとに見てみる。

(1) 工事監理業務の適正化とその徹底

資格を持った適正な工事監理者の選任や工事監理契約及び工事監理内容の建築主への書面交付義務などについて、建築主及び建築士事務所への周知徹底を図ることとし、①確認申請時の選任指導、検査時のチェック、②建築士事務所登録・更新時や立ち入り指導による徹底、③工事監理者講習会や建築主向けパンフレットによる普及、④確認済表示板への工事監理者明記の指導などを挙げている。

(2) 中間検査、完了検査の的確な実施

中間検査や完了検査について建築主または工事監理者への検査申請の督促を行うほか、検査マニュアルの作成による検査内容の明確化と周知、県の住宅融資に当たって検査済証を条件づける県がある。

(3) 違反建築物対策の総合的な推進等

違反処理マニュアルの作成、定期的・公開パトロールの実施などによる違反の初期対応や違反処理の徹底及び違反建築に関与した建築士・事務所、建設業者、宅建業者の処分の実施が共通項である。また、業界の自立自浄の確立を誘導するところもある。

(4) 消費者に対する積極的な情報提供、普及啓発

ホームページ、パンフレット、消費者セミナーや消費者行政窓口などを通して、建築手続、工事監理の重要性などの普及啓発を図るものが中心である。さらに、①建築相談、住宅相談会、消費者に助言を行う住宅アドバイザー派遣制度の支援、②閲覧制度を活用し、個々の建築物に関する法第９条の処分概要の閲覧の実施、③建築トラブル事例の分析や紹介、④消費者の理解度調査の実施などがある。

(5) 完了検査率の目標

計画の具体的目標としては、完了検査率の向上としており、平成13年度末の完了検査率を50%～74%に目標設定するところが最も多く、関東や九州等を中心に約半数の23都県、次いで75%～100%の目標を掲げるのが、北海道、東北、中国など約３割の15道県、その他が９府県となっており、かなりバラツキが見られる。

京都府における取り組み

平成11年10月14日に「京都府建築物安全・安心推進会議」が発足し、同時に推進計画が承認され、関係団体からこの取り組みに対して大きな期待をされている。

取り組みの特徴は、①宅建業界や金融機関、消費者団体を含む関係分野から幅広い団体（30団体）が参加した。また、建築手続に直接関係する特定行政庁及び建築士の団体が呼びかけ人となり、運動の中心を担う決意である。②施策のすべてにおいて、参加団体の構成員や顧客向けの機関紙、パンフレット、口コミ等による自発的な普及啓発活動を重視し、その具体化を図る。③建築相談や苦情処理窓口の設置及び充実等により消費者の信頼を確保する業界の努力に期待するとともに、各種の優遇措置の検討、取引や融資の際の規範・基準づくりなど制度化すべきことも視野に入れている。

推進計画の具体化に当たって

21世紀には、建築基準法運用の考え方に大きな転換が必要と思われる。行政が法の番人であることには変わりないにしても、それだけでは不十分である。地域の特性に配慮し、事業やまちづくりと結びついた誘導的役割を果たすこと、ユーザーや関係業界をはじめ広く国民が納得できる公正な運用を心がけることなどの視点が必要であり、推進計画の具体化に当たって次の点に留意すべきである。

①行政と市民、業界とのパートナーシップ

規制する行政とされる市民、業界というパターンは、根本的に改め、相互の信頼と協力関係を確立する。

②建築基準法行政を分かりやすく

国民の理解を増進するためには、行政や建築士は法律の手続や規制内容を分かりやすく説明する義務がある。

③建築規制からまちづくりへ－都市計画との連携－

建築物の安全を推進するには、地価や建築の動向・住み手の意向などにきめ細かく対応した、単なる規制緩和ではない都市計画の策定が必要であり、相互の密接な連携が求められている。

④法を守るメリットの付与

法を守って建築されたものは、一定水準の性能を備えたものとして、税制や融資や火災保険等の何らかの優遇措置を講じて、誘導すべきである。

⑤広域的取り組み

一般に建築活動は広域であるため、特定行政庁や府県の枠を超えた、相互の協力による取り組みが必要である。（平成11年12月末記）

（はまの　ゆきお）

大丸神戸店の復興

金田満実
㈱双星設計設備部

1995年1月17日未明、突如襲ってきた大地震は神戸・淡路島を中心に阪神地方各地に多大な被害をもたらした。大丸神戸店もそのうちの一つである。旧建物は外観上は一つの建物であるが、建設時期の違いから、本館・西館・南館と三つの建物に分かれていた。その本館部分が倒壊し、西館・南館のみはかろうじて倒壊を免れた。全体の2/3を占める本館部分は解体し、残った西館・南館の改修を行い、3カ月後には残り1/3で営業を開始した。

営業を続けながらの建設工事であったが、「神戸元町に復興のシンボルを」と、全員が一つの思いで連なり、わずか25カ月で完成し、大規模商業施設である大丸神戸店は復興し、再オープンした。



大丸神戸店

所在地　神戸市中央区明石町40
用　途　百貨店
竣　工　1927年
改　修　1997年
所有者　株式会社　大丸
●改修設計者
建　築　株式会社日建設計
設　備　株式会社双星設計
●改修施工者
建　築　株式会社大林組　戸田建設株式会社
　　三菱建設株式会社　北野建設株式会社
店舗内装　大丸木工株式会社
電気設備　ダイダン株式会社
機械設備　三機工業株式会社
昇降機　三菱電機株式会社

復興の序章－仮復興と営業再開・残存設備診断－

■電気設備

本館B1F特別高圧受変電設備が、地下水の流入で水没した。仮電気室を設置し、高圧（6kV）を受電した。既存高圧設備は3kV仕様となっているため6kVより3kVに変圧し送電を行う。特高設備は、平成5年にガス封入型の設備に更新され、災害から免れたため、メンテナンスを行い再利用することとした。中央監視設備は約半分が震災を免れたため再利用とし、新たに必要分だけ増強とした。

これらの改修とともに、各階のEPS内のバスダクトやケーブル類の点検を行い、整備改修を行った。また各階天井の改修に伴い、照明器具並びにコンセントの更新整備を行った。

■機械設備

西館B3Fに設置された市水・井水受水槽が、パネル接合部より漏水した。また、西館系統の空調機も破損した。これらの機器の整備改修を行うとともに、各階のPS・DS内のダクト並びに配管の不具合の診断と復旧と、各階天井改修に伴うダクトの改修も行った。

本格的な復興工事－リニューアル計画－

■電気設備

特別高圧受変電設備は店舗レイアウトの関係上、被害を免れた西館B3Fへ再構築することとなり、既存機器が再利用できたこともあって、比較的早く回復できた。高圧受変電設備は、被害を受けた本館B2Fの変電室2カ所を集約してリプレースした。幹線の距離が短くなる電気室分散型も検討したが、地震を考慮して地下階設置とした。キュービクルは設置スペースが少ない薄型を採用し、また、特別高圧設備がダメージを受けたことを考慮し、変圧器は電圧仕様6kV／3kV兼用型を採用している。百貨店の特徴として、店内の照明負荷が大きく、ケーブル敷設に比して大容量の電気を送電できるバスダクト方式を採用している。地震の揺れには、やや不利であるが、エキスパンションを密にすることにより解消している。

半分が震災を免れた中央監視は、新たに必要な分の増設を行い、B1Fの防災センターにメインの監視卓を設置し、サブはB2Fに設置した。監理内容は、電力・動力・照明・各種計量に利用している。

店舗内のベース照明は蛍光灯20W4灯埋め込みパラコンフォートであったものを、今回は高効率を考慮し、ツイン36W4灯用埋め込みパラコンフォートを採用した。売り場の照明器具への電源配線は、短周期で行われるリフレッシュ工事に対応可能なように1スパン×1スパンごとに基本2回路、営業時間外の間引き点灯（50%、25%）用に4回路とし、すべての操作は、防災センターより行われる。

電話交換機室は空中回廊でつながる隣接ビル内にあり、電子交換機は震災を免れた。今回追加設備としてデジタルコードレス端末を導入、災害時の避難誘導を可能にし、併せて日常業務の利便性を得た。

■機械設備

本格的な復興に当たり、設備容量と系統の見直しを行った。表1に空調負荷を、図1に空調配管フロー図を示す。

表1　負荷集計

	夏期	冬期	
	冷房負荷〔kW〕	暖房負荷〔kW〕	冷房負荷〔kW〕
躯体負荷	737	836	
外気負荷	5,385	4,516	
照明負荷	3,086		3,086
人体負荷	2,362		2,362
その他	500		500

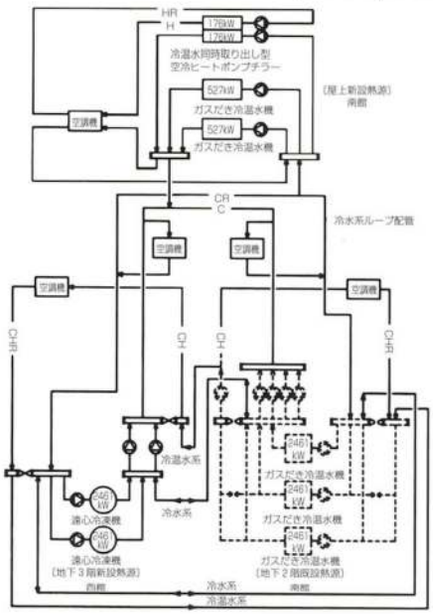


図1
空調配管フロー図

震災を免れた設備機器・配管・ダクトなどすべてを可能な限り再利用することに努めた。各館に分散設置されていた空調設備の熱源は、震災を免れた機器と、不足分を補う新設機器を西館B3Fに集約設置し、メンテナンス性の向上を図った。レストラン・ミュージアムは別系統とし、運転時間帯の違いに対応している。全館の冷水配管をループ状に接続し冷水配管の全館均圧化を図り、空調ダクト系統も、ゾーン分けした系統を複数階ごとにループ状に結び、ゾーンごとの風量不均衡の緩和を図っている。受水槽類も、度重なる増設により複数箇所に分散設置されていたものを1カ所に統合して新設リニューアルとした。

（かねだ　みちみ）

台湾地震の現地調査報告から

大野義照、岸本一蔵
大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻

1999年9月21日午前1時47分、台湾中部の南投県で内陸直下型の大地震（マグニチュード7.7）が発生し、台湾中部を中心に極めて甚大な被害が生じた。この地震による死者は2000人を超え、全壊した建築物は約9900棟にもなる（台湾内政部発表10月3日現在）。1995年兵庫県南部地震と比較して、各地に断層が現れ地面の変化が激しいことと、中高層鉄筋コンクリート造建築物に大きな被害が生じていることが台湾集集地震の特徴である。

地震発生の10日後と1ヵ月半後の二度、被災地に出かけ、震源地の集集から北に南投県（集集鎮、中寮郷、南投市）、台中県（霧峰郷、太平市、大里市、豊原市、東勢鎮）、台中市および台北市における建築物の被害状況を視察してきた（**図1**）。

ここでは、主として鉄筋コンクリート造建築物の被害の特徴などを報告する。

地震動・地盤特性

台湾ではユーラシアプレートとフィリピン海プレートが衝突して、常に西北西－東南東の方向に圧縮応力が働いている。この応力により、浅発内陸型の集集地震が発生した（**図2**）。南北走向をもつ車籠埔断層に沿って、断層線の東側が西側へ乗り上げる逆断層が80 kmにわたって地表に出現している（**図3**）。**写真1**は草屯で現れた断層で、段差1.5m、**写真2**は霧峰郷での断層で段差は2m、**写真3**は豊原市と石岡郷の境に現れた断層で、段差5mの滝が出現している。断層は道路橋を横切り3径間が落ちている。**写真4**は崩壊した石岡ダム（堰）で断層の段差は8から10mと、北に行くほど段差は大きくなっている。

写真5，6に示すように断層直上に建つ構造物の被害は大きいが、少し離れれば写真1の建築物のように被害は軽微であり、断層の近辺の地震動が特に大きいわけではない。多くの地点で加速度波形が観測されている。記録された大半の加速度波形では東西成分が優勢である。**図4**に震源に近い南投市で観測された加速度波形の東西成分を示す。加速度の最大値は1Gを超えている。地震動の継続時間が約40秒間と長かったことも、兵庫県南部地震（継続時間約10秒間）



図1　集集地震の震度分布



図2　台湾周辺のテクトニクス



図3　集集地震で現れた地震断層位置


写真1 草屯の地震断層（段差1.5m、後方の建物は無被害）


写真2　運動場に現れた地震断層（段差2m）（霧峰）


写真3　川に現れた地震断層（段差5m）（豊原）

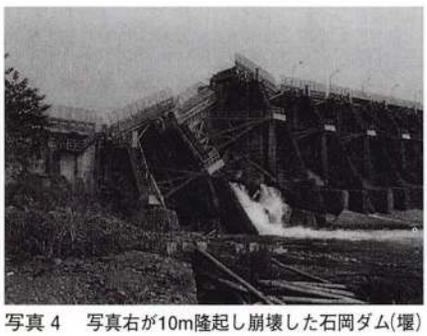

写真4　写真右が10m隆起し崩壊した石岡ダム（堰）


写真5　断層が校舎を横切った国民成功中学校（霧峰）


写真6　5m隆起した断層上の壊れた建築物（卓欄）

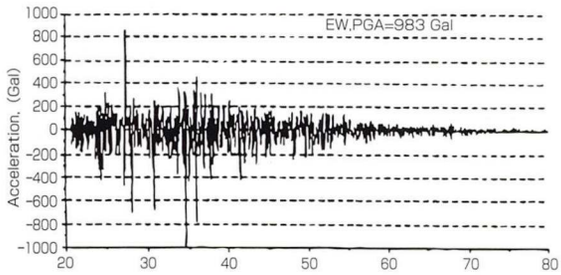


図４　南投県名間郷(震源からの距離10km)で記録した加速度波形
(台湾中央気象局速報より)

との違いの一つである。

地震被害が大きかった台中市、大里市、霧峰、南投市などは、西部山麓帯の丘陵や海岸線に沿う台地に囲まれ、河川の集中した堆積盆地にある。地震断層がこの堆積盆地内を南北に縦走し、小河川が網の目状に流れる盆地中央部の霧峰などでは地震被害が大きかった。

鉄筋コンクリート造建築物に関する被害

台湾における建築物の主たる構造形式は煉瓦造と鉄筋コンクリート造で、前者は民家や歴史的建造物に、後者は学校建築をはじめとする公共建築や低層から高層までのすべての集合住宅に見られる。木造建築は一部の歴史的建造物（**写真７**）や日本の統治時代に建設されたものがわずかに残っている。鉄骨造は最近、軽量鉄骨の倉庫や高層事務所建築などに見られるようになった程度である。したがって今回の地震被害を受けた建物は、煉瓦造の民家と鉄筋コンクリート造建築物が圧倒的に多い。

１）被害建築物の分布

建築物の被害は、出現した断層に沿って広く分布している。前述のように断層の直上に建つ建築物の被害は避けられないが、大きく傾きながらも建築物そのものには損傷のないものもあった。それらは、壁の多い箱のような建築物である（**写真８**）。

市街地を流れる小河川（護岸が一部崩壊している）沿いに建つ建築物で被害を受けているもの（**写真９**）や、地盤の変状により不同沈下している建築物もある（**写真10**）。

２）ピロティ形式の建築物の被害

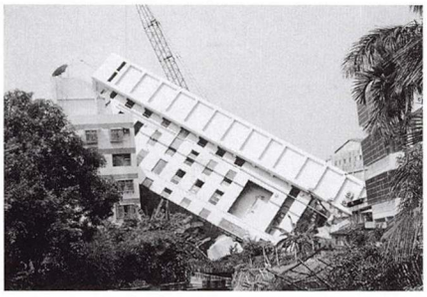
１階が店舗や駐車場で１階の壁が上階に比べて少ない、いわゆるピロティ形式である３～５階建ての建築物で、１層部が完全に落階している被害が目立った(**写真11**)。ピロティ建築物の被害は、兵庫県南部地震での被害と同じである。

３）中高層の建築物の被害

中高層（地上11～20階）集合住宅で、大きな被害を受けているも


写真７　国家二級古蹟林家宅園（霧峰）


写真８　断層上で傾きながらも無被害の建築物（草屯）


写真９　小河川の際に建つ12階建て集合住宅（霧峰）

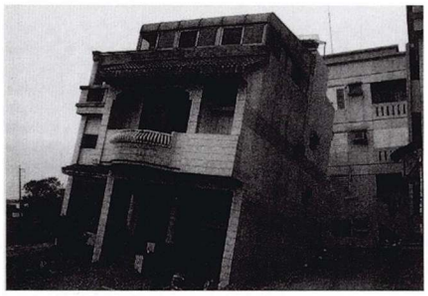

写真10　不同沈下した住宅（霧峰）


写真11　ピロティ建築物の被害

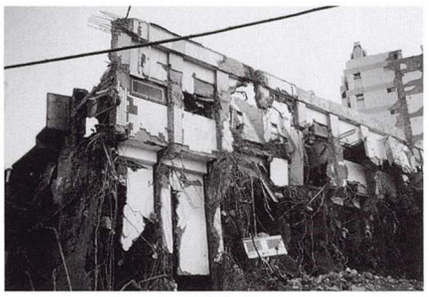

写真12　転倒した12階建て集合住宅（豊原）


写真13　１階が完全に落階した10階建て集合住宅（南投）



写真14　１階の一部が落階した14階建て集合住宅（台中）


▲写真15
地下階の崩壊により傾斜した高層住宅（大里）


写真16▶
全層にわたって被害が生じた21階建て集合住宅（豊原）



写真17　騎楼建物の被害（霧峰）



写真18　梁・柱接合部の損傷(写真16の建築物)

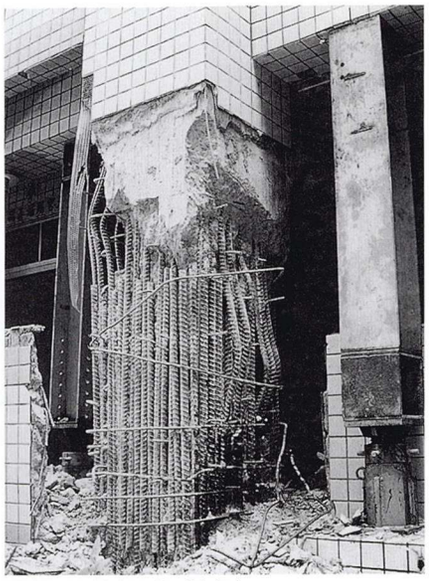


写真19　過密配筋（南投）

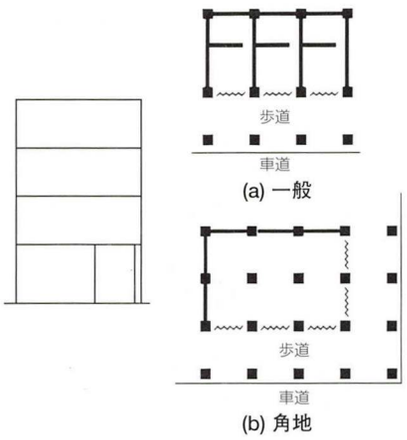


図5　道路に面して建つ建築物



写真20
コンクリート中の
空き缶
(写真14の建築物)

のがある。これらの中高層建築物は、周辺地域に建つ他の建築物に比べ新しい。被害建築物には、ピロティ形式で1階から転倒しているものがいくつかあった(**写真12**)。転倒はしていないが1階が完全に落階しているもの(**写真13**)、建築面積が大きく1階の一部が落階しているもの(**写真14**)、地下階が崩壊し大きく傾斜しているもの(**写真15**)、全層にわたって被害が生じているもの(**写真16**)など、様々な破壊様相を呈している。中高層の集合住宅では、1階は集会所、子供らの遊び場などの共用空間とし壁の少ない構造となっている場合が多い。また、地下2～3階を設け駐車場に供しているが、機能優先で耐震壁がないことが被害を大きくしている。

4）道路に面した建築物の被害

道路に面した建築物、特に角地に建つ建築物の被害が大きい(**写真17**)。台湾では**図5**に示すように建築物の1階の1スパンを歩道に供している(このような建築様式を騎楼という)。片持ち梁で上階を支えているものもある。特に角地に建つ建築物は壁が少なく、偏心も大きく、また剛性のバランスも悪くなる。このような建築様式は亜熱帯特有の強い日射しとスコールから歩行者をまもる上で合理的であるが、構造的には弱点になりやすい。

5）その他の被害

兵庫県南部地震被害で顕著であった、中間階の層崩壊、柱梁接合部(**写真18**)や二次部材(非構造壁)、エキスパンションジョイント部の損傷、渡り廊下の落下、打ち継ぎ部での損傷が散見された。

6）鉄筋の継手

鉄筋の継手は、主に重ね継手が用いられている。中高層建築物では柱が細く、継手部で過密配筋となっている(**写真19**)。兵庫県南部地震で問題とされたガス圧接継手は用いられていない。

7）いくつかの建築物において柱や梁に空き缶(18リッター缶)が埋め込まれていたが、埋設されていた箇所は非構造部であるふかし部分である(**写真20**)。

おわりに

台湾では1997年に耐震規定が改定され、わが国の現行基準とほぼ同じ耐震性が求められるようになった。今回の地震で被害を受けたものはそれ以前の基準で設計されたもので、耐力は現行基準の求める値の1/2前後である。すなわち、わが国における既存不適格の建築物と同水準であり、兵庫県南部地震の教訓である1981年以前に建設された建築物の耐震診断・耐震補強の緊急性が改めて示された。特に1階に壁が少ないピロティ形式の構造の建築物は要注意である。また壁の偏在、剛性のアンバランスなど構造計画が十分でない建築物が被害を受けている。

地震断層による地盤の変状が顕著であったが、わが国においても1891年の濃尾地震では根尾谷を中心に80kmにわたり大断層が生じ、根尾村では段差6m、水平ずれ2mの断層が出現している。活断層の性質を調べ活断層上に建つ既存建築物に対する対策ならびに新築に際しては十分な配慮が必要であることは言うまでもない。

(おおの　よしてる／きしもと　いちぞう)

REPORT

台湾百年大震災―九二一集集烈震の教訓

陳　宗　禮
中華民國台湾・一梅達工程顧問有限公司董事長・内政部建築技術審議委員

地震の島國―台湾の百年記憶

1999年９月21日夜中１時47分の集集烈震に初めて、「天崩地裂」という言葉を実感しました。いつも地震が揺れている台湾に住んでいる私たちはもう慣れていましたが、921大地震は全然違います。地下からの力で突然空に投げ上げられて、また急に地下に沈む、揺れを混じえて「天旋地轉」という感じでした。幸いというか、停電したから眞暗の中に何も見えない。ただ室内の倒れた棚のピアンーピアンーの声が聞こえるだけ。恐怖は感じない。

私は12階建ての集合住宅の10階に住んでいます。このビルは私が自分で設計と施工監督した建物ですから、多分安全だろうと自信を持っているのですが、こんな激烈な地震に倒れるかなあと不安感が脳の中に浮かんだのです。地震を研究してきた私が日本阪神大震災の現場にも３回行って見たその惨状が、急に頭の中に浮き上がりました。「大地震が来た」と確認した後、懐中電筒を照らして本棚と壁際に置いている洋酒がめちゃくちゃに散落した室内が目に入りました。大地震が来たことは知っているが、どこにも逃げられない無力感を感じました。大自然の猛威と人類の力を比べて、「天威無窮、人力有限」を私は体験したのです。

その後約１週間、テレビと新聞が報道するのは悪夢みたいな被害死傷惨状です。今世紀最大とも言われる震度7.3の激震（阪神大地震より５、６倍以上の威力、釋放した總能量は約33個＝廣島原爆彈の威力）を前後20秒間、台湾島はしっかり受けました。

「樂天知命」の台湾人―震災に速く對應

台湾は多元な民主自由の社会、個別差異を持っている社会、初めて見ると矛盾、衝撃がいっぱいある社会ですが、もっと深く見ると活力充沛、適應力超強の社会です。400年の圧史の中に育った靭性の強い樂觀の性格と、天命を知る適應力の相当に強い民族です。平常は無望、残忍、罪悪に満ちた社会に見えるのですが、大災難が来たら人と人の社会力を凝聚でき、「唯我獨尊」の人心が急に覚醒し、一緒に心力集中して天災人禍に全力全心で對應します。「人情味」「愛心」に満ち、行動力も速く、全國軍・民総動員の下で悲傷を考えずに大地震が発生してから１か月間で約30,000棟の倒壊した建物（90%以上）を解体してかたづけ、非情一掃して震災復興の道を歩いています。遅れて来た外國の地震専門家たちは、ほとんど何も見えないぐらいかたづいた街を見たのです。

昔、台湾島は「フロモサー（FORMOSA）」寶島と言われておりましたが、實は自然の災害―地震、颱風、水害、洪水、土石流等―が多い島です。そこで、台湾人の圧史もほとんど自然の災害に対應する圧史であります。その中に育った靭性と強い生命力が今、「樂天知命」の民族性をもたらしているわけです。一切の天災に対して“運命だ”と考えて、家が倒れたら再建する、人が死んだら運命だと考えて、悲しいことを早く忘れて勇氣を出す認命に人生を歩く、災難の現實に面して悲情を離す、一日も早く災後復興の道を實行する、これは台湾921大震災に速く対應できる台湾人の強い生命力です。「天道、地道、人道」宇宙の中に中國人がいつも持っている対應の仕方は「順乎天、應乎人」と「天人合一」の基本人世觀です。

大震災を目指し、被害教訓を学ぶ

大地震後、内政部営建署（建設部と同じ機構）はすぐ「建築師公会（建築士会連合会）」「土木技師公会」「構造技師公会」の全國の技術者に指令し、災區に入り「應急危險度判定」（建物に対して）を１週間内で判定しました。

内政部建築研究所の總計した「災區建築物災害調査報告書」によって、鉄筋コンクリート造建物の倒壊率は52%で、その中の92%は廊下がある、ピロティ形式、２階以上キャンティレバー構造等のため倒壊したのです。倒壊する原因は構造システムの不良、廊下柱が少ない、壁量不足等の不合理、不適當の設計が多く占めています。もちろん施工不良も原因の一つです。全壊と半壊した建物の中の42%は1974年以前に建てた老朽化建物、24%は1975～1982年の耐震技術が未熟であった時代の構造物、古い技術で建設され、老朽化がこれに重なった住宅の被害が最も悲惨であったことは言うまでもありません。また1983～1989年間は14%、1990～1997年間は14%、1997年以後耐震技術が成熟し耐震基準改定後に建設した建物は只６%で、耐震基準を改定してもやはり役に立たない。全壊と補修できず解体の必要がある建物は41%を占めています。局部解体必要と補强補修できる建物は約22%を占め、中度損傷は18%（この部份約



神様たちも地震に不敵。地震の猛威には神様たちも逃げられない　**921烈震の震央・集集の武昌廟**



車籠埔断層隆起（浮き上がり）、建物倒壊



車籠埔断層の隆起―學校の運動場の經過―

40%を占めている、緊急補強補修すれば再使用ができる)。

震災被害調査のうち、被害のあった建物の損壊特性は地域的に現象が異なり、次の通りです。

(1) 彰化、員林、霧峯、南投等川辺に近い砂層の地盤に建てた構造物は、地盤液状化のため多分沈下と傾斜の現象を起こしていますが、この地域の沈下と傾斜している建物はほとんど構造体が損傷していません。本来その基礎設計が地盤の特性に合わないと思いますが、これらの構造物は沈下回復と傾斜修正にして、同時に基礎を改修して（べた基礎あるいは杭基礎）復旧できると思います。

(2) 台中近くは硬い玉石礫層の地盤で、被害のあった建物は10階以上の集合住宅です。これらのビルは大体べた基礎形式なので、烈震が来たとき建物の重心が高く、揺れる程度も大きい。そして外柱に巨大な軸力が作用して、基礎の下の地盤は硬いために反力も大きい（沈下の余裕がない)。そこで外柱の鉄筋コンクリートは巨大な圧縮力を受けて、コンクリートテストピースみたいに圧縮試験と同じように、１階の外柱が爆裂した現象が多い（圧縮剪断力)。同時に水平変位が大きい場合にも、外柱は潰れて、ビルは倒壊しました(特に烈震後の餘震の時)。今度の被害ビルから発見した外柱の潰れ現象は、烈震の巨大な圧縮力以外に、設計によって配筋した梁と柱の接合部に鉄筋が多過ぎることが挙げられます。配筋の隙間が小さいために、コンクリートを打設するとき梁の下の柱端部がジャンカになることが多く、ここに柱の弱点が生じて、烈震の巨大な圧縮力に耐えないで潰れて爆裂したのでしょう。このように、應力計算した理論的な配筋量を与えるだけで、實際現場に施工作業性とコンクリート打設に必要な隙間を持たせることができないのが現状です。今後は注意しなければならない。もう一つの異常は、コンクリートの強度が注目されているが、コンクリートと鉄筋の膠結力が足りず、潰れた柱のコンクリートから見ると、鉄筋の表面はほとんどコンクリートと膠結していない。そのほかに、梁にも剪断罅(ひび)割れが多い（補修するときエポキシ樹脂注入量が多いので内部ひび割れも大きい。コンクリートの膠結力不足と思います)。今までコンクリート品質検査の中で強度が注目されているが、その膠結力は注目されていない。特に生コンを使っている現状では、フライアッシュと高炉アッシュ等の混合材を混入したコンクリートで普通ポルトランドセメント量を減らす（300kg／m³→130kg／m³）これらの生コンは、強度検査は満足できるが、こんなコンクリートと鉄筋とでは膠結力が不足します。しかし今までコンクリートの膠結力の検査と確認はほとんどしていない。コンクリートの膠結力不足のために、打設した鉄筋コンクリートの構造物にクラックが多いことを発見しています。コンクリートの膠結力と耐久性は、ポルトランドセメント量に

よります。今後は強度検査以外に、「最低セメント量」の規定にも注意しなければなりません。

(3) 台北の近く「台北盆地」は、軟弱な沖積と洪積粘土層と砂層の地盤で、今度の地震では震度4で倒壊した高層集合住宅ビルもあります。悲惨な死亡とけがの被害を出したのが3カ所です。そのうち2カ所はピロティ形式の集合住宅ビルで、設計と施工不良が原因で倒れました。台北市内は1カ所「東星大樓」という古いビルです。このビルは設計不良も原因であるのですが、實在倒壊した原因は、1986年12月15日に北部大地震で半壊して損傷していますが、集合住宅ですから、住んでいる戸數が多く、損傷した建物の補強補修には相当な費用がかかります。その費用を誰が出すかで意見が合わない。そこでしっかり補強補修をしていない。ただ簡単に表面仕上げの補修をしただけです。だから今度の震度4ぐらいの地震ですぐ倒れました。死亡者は70名、行方不明は20名以上（倒壊したあと火事を伴う）です。

ここに学ぶことは、被害建物は倒れてないが、もししっかり補強補修をしていないと、次の地震が来たら必ず悲惨な被害を出すことです。また半壊した建物は强制的に期限内でしっかり補強補修しなければなりません。（補強補修復旧の費用分担の法令を考えなければならない）

台北盆地で、高層ビルがいっぱい建っている都会區の中では以上3カ所の倒壊被害の特例以外は、幸いに今度の烈震の被害は少ない。軟弱な沖積層では地震波の伝わる特性が地震動を増幅するが、逆に被害が少ない原因は基礎の設計方式にあると考えます。地盤が軟弱沖積層の台北都会區では、地價が高いので高層ビルを建設しなければなりません。地下層の駐車場の駐車容量も高く要求されています。そこで地下層が深く、軟弱の地盤で深く掘削するには、山止壁は連壁工法しかないのです（台湾では地下本体外壁を利用する）。連壁を深く地盤に入れて（約基礎深さの2倍以上）またべた基礎と連結して「井筒式基礎」形式になっています。もし基礎下地盤の支持力が足りないときは「杭基礎」形式で設計をしています。軟弱沖積層の地盤に対應する基礎形式はコストが高いけれども、仕方がない。今度の烈震では、この周辺を圍んでいる連壁と杭基礎が地震入力に対應して役に立ちました（地盤液狀化・基礎沈下・傾斜の防止）。地盤の缺点は、逆に耐震能力の優点になるということでした（强い基礎を造っているために）。これは、われわれが設計するときに全く思いもかけないことです。軟弱地盤は地震動上下振動力を吸収できるので構造体の被害が少ない。逆に、台北盆地周辺の岩盤で建設した建物の被害は大きい（硬い地盤の上にべた基礎）。

今後はどの基礎形式はどの地盤に最適なのかを良く研究しなければなりません。また、今まで靜的な地心引力の「上から下に」重力理論を考えている設計方式が、地震のときは逆に「下から上に」作用する力にどういうふうに対処するかも研究しなければならないでしょう。

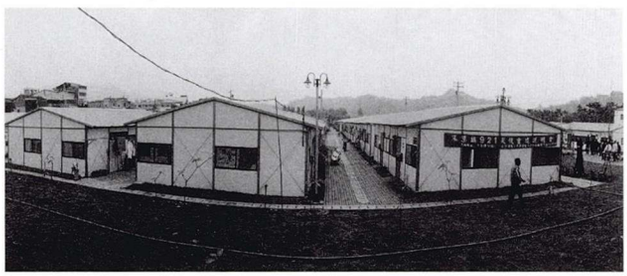
(4) 地震震央の集集、中寮と竹山、東勢の断層に近い地域は、大都会から離れた地方の農村ですから、低層住宅の煉瓦造と土造の建物が多い。今度烈震が発生した車籠埔断層と雙冬断層の縦ずれ逆断層近くのこれらの村は震度7.3の激震でした。もちろんこれらの耐震建築物じゃない建物は倒壊し、被害は言うまでもありません。特に大部份の倒壊建物は2階建ての基礎設計に、自分で3階あるいは4階を加建（増築）しているので、こんな烈震の下で倒壊したのは当たり前のことです。

今度の地震の教訓を忘れることなく、再建するときは必ず耐震建築を考えなければならないでしょう。「震災復興」を主として、新しい農村を再建するのが良いでしょう。

非情を離れ、皆頑張れ震災復興の道へ

地震は地球の地質作用中に失衡中の自我調整で、地球本身の全体生命を促進します。地質作用は非常に緩く、一般的には「Ma」（百萬年）を單位として進行しますが、台湾では例外的に非常に速く、大体に「百年」を單位にしています。20世紀のうちに、1906年梅山地震（7.1）、1935年新竹台中地震（7.1）、今回の集集地震（7.3）、その間隔は100年もなく、烈震と烈震の間には無數の有感地震があります。特に今回の地震は車籠埔断層の活動長さは100kmぐらい、縦ずれ（逆断層）は上下10m近く、水平横ずれも9mぐらい、こんな地震現象は世界中に少見でしょう。台湾島は海中に浮いている「船」みたいな島だと思います。

1999年9月21日の烈震からもう百日が過ぎました。烈震のあと1カ月内に震度6.0以上の强餘震は8回（そのうちに3回6.8を含めている）、10月22日にまた梅山断層の活動で嘉義近くでも烈震がありました。



震災災民安置—仮設住宅— **震央・集集鎮（80％以上倒壊）**

「天威無窮、人力有限」。震災で亡くなった人たちは、瞬間に自然大力に巻き込まれて自然と合わせました。倖存者の人たちはしばらく俗世の價値觀を捨てて、最も深い生命の体験を激し、積極的に頑張ってやる氣持ちを覚悟する、これには、大自然と人類が「生命」の架構中に一緒に出演するでしょう。自然の猛威に対應する道はただ「逃げる」「離れる」「任せる」（避祂、讓祂、由祂）だけ、外の道はない。仕様がない「無力感」の中でも震災後は非情を離れ、いつも「地震に負けるか」という氣持ちで皆頑張って、もう一度震災復興の道へ歩きましょう。

（チン　ソー　レイ）

編集部　注）
日本建築協会会員で台北市在住の陳宗禮氏から1999年年末に、日本語で原稿を受理しました。この原稿を、最小限の修正にとどめて掲載しております。

東部新都心HAT神戸・灘の浜デザインフォーラム

集住体で街をデザインする

小笹光彦
事業委員／ランテック計画事務所

平成11年11月20日（土）午後2時より、「HAT 神戸・灘の浜デザインフォーラム」が現地の兵庫国際プラザ・セミナールームⅠで開催された。

阪神・淡路震災復興計画のシンボル・プロジェクトとして位置づけられている東部新都心の第1期住宅建設事業がほとんどの工事を完了したのを機に、このプロジェクトの総括を行う意味もこめて、現地を見学してもらいつつ、その後に「集住体で街をデザインする」というテーマで、フォーラムを行う形式をとった。

当日のプログラムは「街並みの変化と調和」という視点で遠藤剛生氏（遠藤剛生建築設計事務所）に、「ランドスケープデザイン」という観点から佐々木葉二氏（鳳コンサルタント・環境デザイン研究所）に、「都市スケールのデザインと街並み」という側面から中嶋龍彦氏（中島龍彦建築設計事務所）にと、3人のパネリストに講演をお願いし、最後にディスカッションタイムをとり議論を展開させるという構成をとった。

フォーラムの内容が大変盛りだくさんであったため、十分には報告しきれないが、以下この概要を記すこととする。

「HAT 神戸・灘の浜」の概要

最初に、司会の川村眞次氏（関西都市整備センター）より、このプロジェクトの概要説明があった。

神戸の東部新都心地区はいわゆる大阪湾ベイエリア地域の開発の一環であり、プロジェクトの計画が進行中に阪神・淡路大震災に見舞われた。その後、この事業は神戸復興計画のシンボル・プロジェクトとしても位置づけられ、このたび、その第1期事業として「HAT 神戸・灘の浜（第1期）」がほぼ完了した。

このプロジェクトに採用されたデザインの手法としては、西側の「脇の浜」が安藤忠雄先生の誘導するマスターアーキテクト方式を採用したのに対し、本プロジェクトはデザイン調整会議制により、デザイン、設計を進めた特殊な事例である。

本来ならば、このような大規模プロジェクトは時間をかけて、基礎調査、基本計画等を行いながら設計に移行するのが普通であるが、短期間に大量の復興住宅を供給しなければならないという時間制約の大きいなかで行われたものであった。しかし、このようなハンディーをのり越えて、13人もの多くの設計者が参画し、精力的に作業が進められた。

設計趣旨の説明からわずか2週間で全員が1／200の模型を制作して持ち寄り、デザインを検討・調整していくという超過密スケジュールであった。

多数のデザイナーが互いに話し合い、協調しながら設計を進めるというこの手法は、これからの街づくりを進めるうえでの、一つの新しいモデル的スタイルとして大きな希望が持てるのではなかろうか。

このプロジェクトの計画、設計にあたっては、六甲山と神戸港という「海と山の眺望」「この地区の歴史の継承」「コミュニティーの再生」というキーワードをいかに織りこむかという課題が大きかった。

また、設計コンセプトは「新しい都心居住の創造」「高齢者等弱者にやさしい街の創造」であった。

なお、このプロジェクトの計画諸元は、面積約6.2ha、用途地域は第1種住居地域、容積率260％、計画戸数約1900戸であり、事業者は兵庫県、神戸市、住宅・都市整備公団である。

街並みの変化と調和－遠藤剛生氏－

街並み景観の典型的な事例として、京都をとり挙げて楽しい解説があった。

清水寺界隈の産寧坂付近は、文字通りの門前町であり、地形の変化をうまく利用し、土産物、陶器類等の店舗が立ち並ぶ歴史がそのまま生かされた街並みを形成している。

西陣の街並みは今、町家保存等で多くの議論が続出しているが、町家のなかにマンション、洋風住宅、ガレージ等が混在し、街の様子が大きく変わりつつある。これは界隈そのものの産業構造の変革により、街並みの変貌が余儀なくされる典型的な事例である。

三条通界隈は明治、大正期の洋風建物が多く残っている。これらの建物の雰囲気をうまく利用し、ブティック、手工芸品等の店舗に生まれ変わり、うまく街づくりを進めている好事例であろう。

これに対して、京都のメインストリートともいうべき御池通は企業や個人が全く自由に建物をつくっている感じで、都市景観がバラバラである。個々の単体建物を自分の思いだけで好きなようにデザインして良いものかどうか疑問が残る。

都市の景観というものは過去からの遺産を受け継ぎながら、これを次代に送っていくことから生まれるのであろう。街並みとは連続性あるいは一体性こそ、そのエネルギーの源泉であり、周辺環境や歴史性が極めて重要な要素である。

今回のプロジェクトでは、いわゆるデザインコードを定めず、基本的な考え方のみを共有しようとしたものである。確かに「べからず集」を守れば一定の水準は守れるだろうが、周辺の街、神戸の街からは遊離したものになる可能性が大きい。都市景観の創出は、内部的な統一もさることながら、それ以上に周辺との調和がより大切であるとの指摘であった。

ランドスケープデザイン－佐々木葉二氏－

東部新都心を対象とするランドスケープデザインは、震災直後の神戸市内の各公園などで避難所生活が展開されていた1995年の初夏から始まった。私たちは震災の調査結果から、「緑や水などのオープンスペースは重要な都市インフラである」ことを改めて思い知ったことと、今一つは「復興の街づくりは生活支援型である」ということを再認識したことであった。

今回の作業は、このような教訓を生かしたものである。計画対象地はもともと主として工場地帯であり、住環境としての歴史的な蓄積が少ないため、ランドスケープデザインは都市の基盤づくりと一体的に進められた。デザインをする前にプランニングがあったわけだが、灘の浜が最初のケースで、戦場のなかに設計者13人がほうりこまれたような状態であったらしい。

防災的な観点からは、神戸市全域と東部新都心を重ね合わせて検討を進める必要があった。広域的には王子公園を空の拠点に、東部新都心内に海の拠点・水際公園を配置することにした。灘の浜地区内においては、東端と西端の小学校、中学校を結ぶ横の東西軸線を



確保し、これを中心にスクリーンゾーンとして防災生活圏を構成した。

オープンスペースの空間構成としては、街区型住棟配置を生かしたものとし、街路（みち）型オープンスペースとインナーコモン（中庭）型オープンスペースをつなぎ、住棟と連続した生活の場、地域コミュニティーの場を形成した。ここでいうインナーコモンとはプライベートとパブリックの間のスペースで、これにより住棟と公共のガーデンモール（道の軸）を連続させることとした。

また、入居者の60％以上が高齢者であろうという予測をたて、特に「癒しとバリアフリーの街づくり」には力を注いだ。例えば、大地に降りてきてコミュニケーションができるよう、あるいは子供たちと交流できる場の創出などには特に工夫を凝らしたつもりである。

この成果がインナーコモンであり、ガーデンモールであり、四季の移ろいの風景の演出であるとのことであった。

都市スケールのデザインと街並み－中嶋龍彦氏－

都市とは、様々な人々が住むため、働くために集まったところであり、柳田國男の言葉で言えば「流民」の集う所である。いろいろな言葉が飛び交うところが都市であるとも言える。建築も全くこれと同じで、建築的、都市計画的あるいはデザイン的な言葉を使って行う、創作的な作業が伴うものである。

今回の作業はこのような言葉を使って、13人の設計者が一つの建築的な群をつくりあげたとも言える。この作業では、デザインコードを決めるのではなく、一つのルールをつくって、すなわち言葉を定めて、おのおのが自分の感性でその言葉を理解し、デザイン化していった。このとき、この言葉を標準語にすれば、均一的、画一的になってしまう。ここでいう標準語とは結局、デザインコードということになろうか。

神戸という都市は、東西に細長く延びた帯状の地形であり、その地形が六甲山系から次第に等高線沿いに段丘状に海の方へ下りてゆく、独特の環境条件にある。この特質は重視すべき点であり、他の都市とは全く異なった特徴である。例えば、大阪は海を埋めたてながらつくられた干拓の都市であるし、東京は森や丘を切り開いて造成された開墾の都市とも言える。

このような眼で本計画地をみた場合、日本の幹線国土軸が東西に走り、山と海を分断している。このような状況のなかで、建築、群をつくるということはどういうことかを考える必要がある。

今回の場合は、賃貸であり、震災対策の一環であり、高齢者が多く入居するだろうという条件があり、一般の団地とは異なる特殊性があるようだ。このような条件の下に、地域的な過去からのつながりを持ってこれるのだろうか。

また、3万人という都市スケールを捜しあてるのも、今回の大きな設計課題の一つであった。国土軸が走る東西方向に対しては、スピードに対応するスケールが必要であり、このほかに時間のスケールとともに住宅スケール、空間スケールを決める必要があった。

結局、おのおのの空間をつくり、それを東西につないでいき、全体を一つの建築群とみなし、それをさらにつないで、最後には、東部新都心を一つの空間とみなすことが求められるのだろう。

漫画の世界では、昔から「犬の目、人の目、鳥の目」という鉄則があるそうな。これは、どう見るか、どう見せるかということであり、灘の浜にあてはめるならば、この群をどう見せるかということであろう。

東西方向に対しては、かなりのスピードで見せることになり、塊りのなかに入った場合には、3万人の目、母親の目、子供の目を意識しなければならない。大きく言えば、これが、全体の外観デザインからディテールデザインにまで関係してくることとなろう。

☆

当日のフォーラムには、本プロジェクトに参画された
奥井正造（コープラン）
清水忠義（南建築事務所）
北川フラム（アート・フロント・ギャラリー）
杉立利彦（市浦都市開発建築コンサルタンツ）
新美文孝（新美建築設計事務所）
堀江達（環総合設計事務所）
橋本健治（坂倉建築研究所）
山田喜朗（山田建築工房）
山田正司（山設計工房）
山本一晃（リブ建築設計事務所）
の各氏にもご参加いただき、貴重なご意見を頂戴しました。お蔭様で、大変有意義なフォーラムにすることができました。

ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

（おざさ　みつひこ）

と　き　1999年11月20日（土）14：00～16：45
ところ　兵庫国際プラザ・セミナールーム
（HAT 神戸・灘の浜内）
参加者　47人

技術書はイラスト・写真に特徴をだす

山田　修
修　建築事務所

1）苦しさを楽しさに変える工夫がいる

写1は，拙著「やさしい建築の構造力学，1996年刊，オーム社」の事例である．

出版社側より「初心者向きに，やさしく楽しく読める新しい形式の本を作りたい．見開き頁で主要項目が理解できること．そのためには左頁に理論，右頁に話題と例題を入れる」というむずかしい注文がつけられた．

いままで，この種の本は何冊も書いてきた．が，厳しい注文はなかった．この厳しさにあえてチャレンジしてみよう，という気がムラムラと起こった．この気が生じないと，本を書く気力と観察眼は光ってこない．

仕事は，まず力学関係の写真の選択から始まった．これには時間がかかった．わたしは写真の整理が苦手である．写真とネガは箱に積みっぱなしだから，本に適した写真はそうたやすく出てこない．写真もへたくそだから，人に見せられるものを見つけ出さねばならぬ．写真探しは忍耐と根気へのチャレンジだった．

「やさしく楽しく読める本」は出版社側（読者側といいかえてもよい）の要求である．執筆者側は，それに反比例して「むずかしく苦しい作業」がつきまとう．この反比例現象を克服しないと，いい本はできない．本作りは，苦しさを楽しさに変える工夫がいる．仕事はほんらい楽しくないと長続きはしないものだ．しかし，文章は楽しいだけではダメだ，とさいきん思うようになった．文章は目から訴えるものゆえ，キラッと光る短的な表現力・文章のデザイン力（漢字とひら仮名のバランスと調和）がいる，と痛感している．

2）「やさしい建築の構造力学」のはしがきを写す

はしがきは，序文である．読者に訴える最初の書き出しである．が，読者の興味を示さないところでもある．あるいは，本の内容とは無関係な「著者のつぶやき」の頁である．

わたしは，はしがきも技術書の冒頭文と考えた．最近の拙本は，読者と最初の出会い頁が「はしがき」と考え，いちばん力を入れている．長い口上は不要だ．ここに，**写1**の本のはしがきの一部を写してみた．

『建築構造設計のなかの建築構造力学は，見るからにむずかしく感じる学問です．漢字が6文字も連なるからでしょうか．それもありますが，本によっては内容がむずかしく書かれているからです．

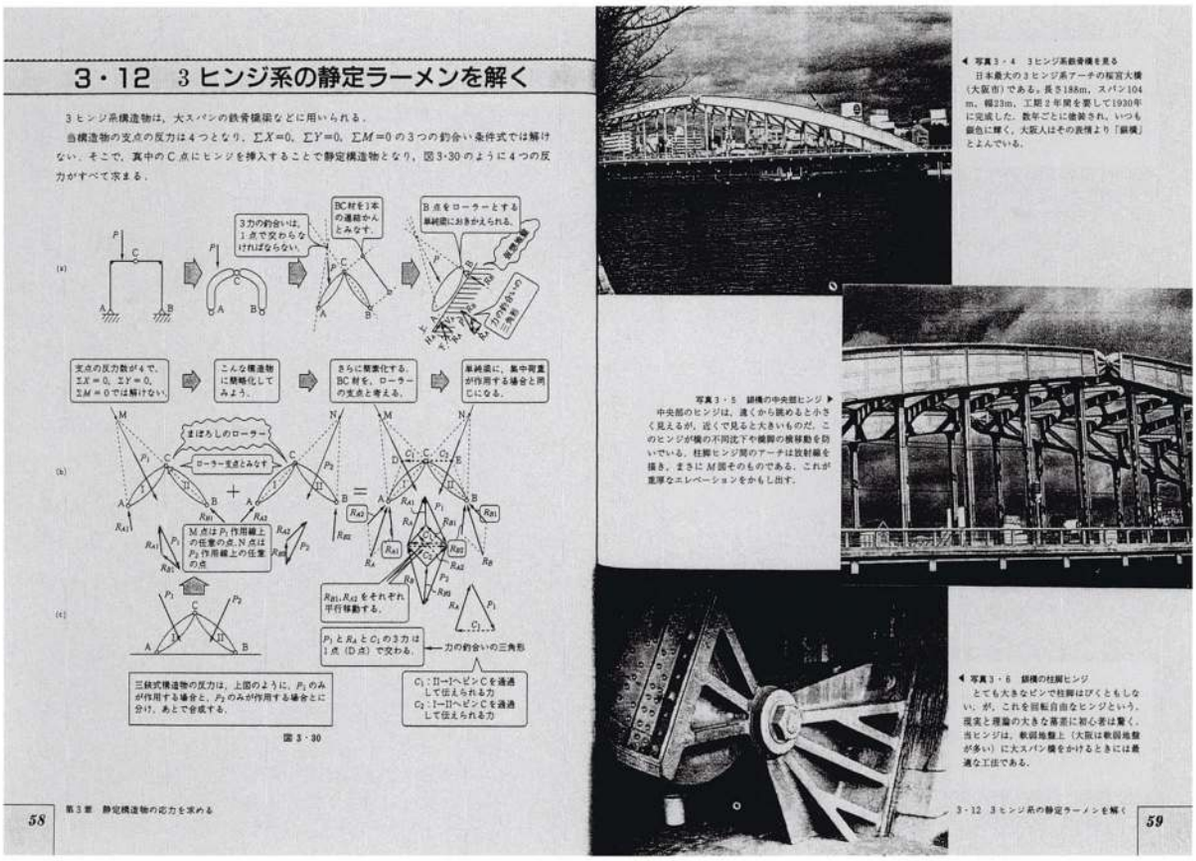
これでは初心者が見向きもしません．パッと本を開けば，どのページにもイラストや図・写真が散らばり，おもしろい話がないと，初心者は「勉強しようかなァ」という気が起こりません．技術書には，イラストや図・写真は欠かせないものです．

むずかしい知識をむずかしく書く技術はやさしいですが，むずかしい知識をやさしく書く技術はむずかしいです．

「むずかしい技術をやさしく，やさしいことを深く，深いことをおもしろく書く」は，初級技術者向きの著者の鉄則です．

わたしは，このことをずっと自分にいい聞かせながら，読者の立場に立って執筆を続けてきました．当本の話があったとき「これは自分がしなければならない仕事だ」と感じ，興味をもって初心に返り，全力を集中しました．（後略）』

技術書を「やさしくおもしろくしたい」と悩んでいる筆者の気持ちを，何とか汲みとっていただければ幸いである．（やまだ　おさむ）



写1

厨房用自動消火装置

由上雅章
ヤマトプロテック㈱

厨房用自動消火装置（一般建築物）

■厨房用自動消火装置はどういう部分に必要か

消防法施行令第13条第１項の６に設置義務が規定されてます。

厨房用自動消火装置は、フード・ダクトやレンジ、フライヤーなどで発生する火災をセンサーで感知し、消火薬剤を自動的に噴射して消火するものです。

■厨房等における特殊消火設備の設置

多量の火気を使用する部分で床面積200㎡以上のものには、特殊消火設備の設置が義務づけられています。「多量の火気を使用する部分」とは、毎時30万キロカロリー以上の火気を使用する場所のことで、厨房設備のほかに金属溶解設備、給湯設備、温風暖房設備などが設置されているところを指します。

■火災予防条例

消防法で定めている設置義務の範囲に入らない場合でも、厨房等の火気が多く使われているところでは、各都市において火災予防条例が出され、火災を防止する装置として自動消火装置の設置が義務づけられていますので、ご確認下さい。

■設置基準

（油脂を含む蒸気を発生させるおそれのある厨房設備に付属する排気ダクトに設置のこと）

◀大阪市火災予防条例

- 高さ31mを超える建築物に設ける排気ダクト等
- 地下街及び準地下街に設ける排気ダクト等
- 特定防火対象物で、延べ面積が3000㎡以上のものに設ける排気ダクト等

◀神戸市火災予防条例

- 特定防火対象物で、延べ床面積が1000㎡以上のものに設ける排気ダクト等

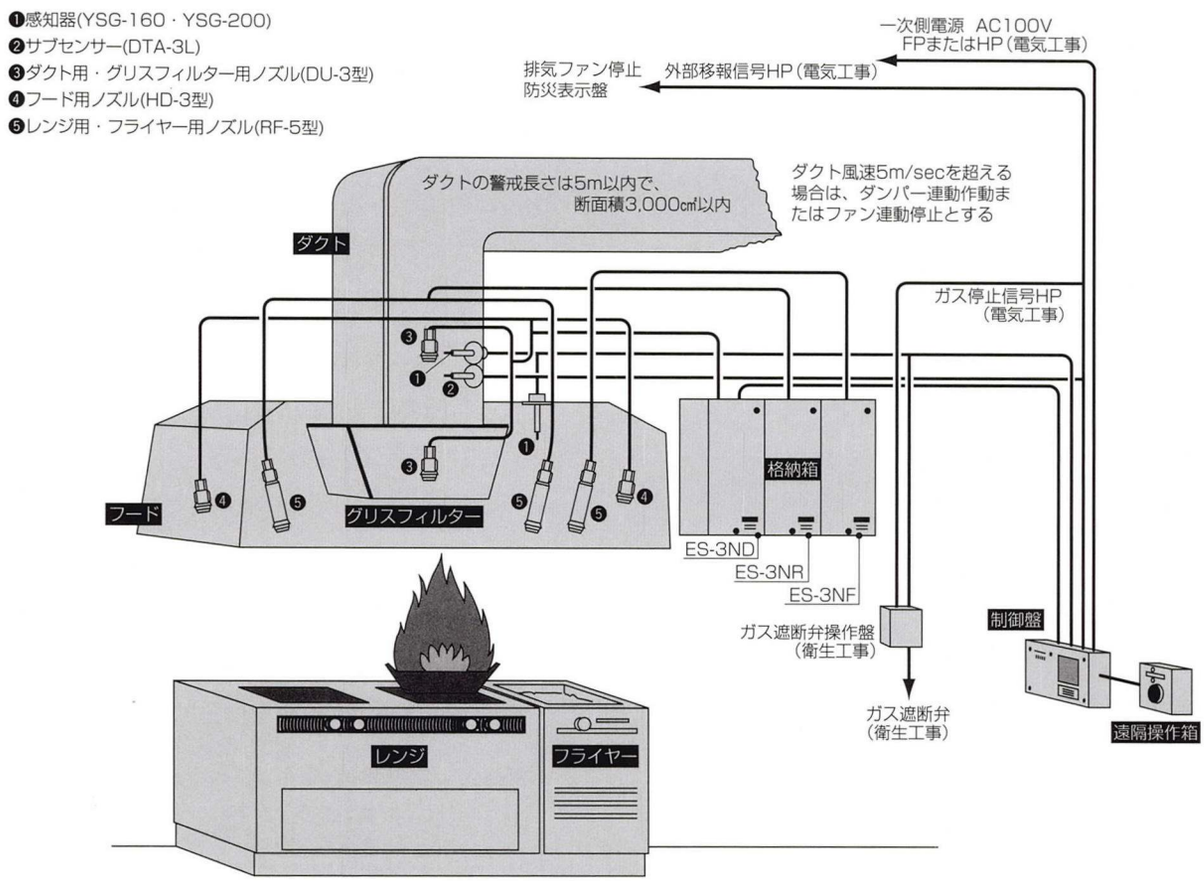
◀東京都火災予防条例

- 特定防火対象物の地階に設ける厨房設備で、当該厨房設備の入力と同一厨房室内に設ける他の厨房設備の入力の合計が30万キロカロリー毎時以上のもの。その他、高さ31mを超える建築物に設ける厨房設備で、当該厨房設備の入力と同一厨房内に設ける他の厨房設備の入力の合計が30万キロカロリー毎時以上のもの。（なお、平成11年10月1日から施行「30万キロカロリー毎時」を「350キロワット」に改める）

■システム系統図

厨房用自動消火装置のシステムを下記に示します。

（ゆかみ　まさあき）



厨房用自動消火装置システム系統図

4フッ化系フッ素塗料用樹脂 ゼッフルGK

ダイキン工業株式会社化学事業部
〒530-8323 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル
TEL:06-6373-7287(ダイヤルイン)
FAX:06-6373-4390
E-mail:rtagami@notes.che.daikin.co.jp

はじめに

フッ素塗料は高耐久性を発揮する高機能塗料として建築用、特に超高層ビルや公共性の高い大型建築物に使用されている。近年、メンテナンス（塗り替え、洗浄）時期の延長によるコストの低減、天然資源の保存が重視され、①更なる耐久性の向上、②建物の美観を維持する低汚染性の２点が求められてきた。今回弊社は市場ニーズに応えるべく従来のフッ素塗料の主流であった３フッ化塩化エチレン（以下３フッ化）を原料としたタイプに代え、よりフッ素含有量の多い４フッ化エチレン（以下４フッ化）を原料としたフッ素塗料用樹脂「ゼッフルGK」を本格展開する。また、耐候性は優れているが低汚染性との両立が困難であるとされてきたフッ素樹脂の汚染性を解決する為に高効率、高レベルにフッ素塗膜を汚れにくくする低汚染化剤（表面移行性親水化剤）も開発した。これにより、超耐久性と超低汚染性を両立させたフッ素塗料の実現が可能となった。

「ゼッフルGK」の構造と超耐久性

これまで建築用フッ素塗料は塗料化のしやすさや塗料作業性の容易さから３フッ化系が主流となっていた。しかし、樹脂の化学的（熱、紫外線、薬品）安定性では３フッ化に比べて塩素をなくしフッ素を多くした４フッ化系の方がさらに優れている（表１）。実際、４フッ化系樹脂であるPTFEはずば抜けた耐久性を有しており、すべてのフッ素樹脂の中で最も需要が大きい。ところが、PTFEは溶剤に溶けない、。高温焼付けが必要、他素材とのなじみが悪いことから今まで常温型塗料へは展開出来なかった。そこで弊社はフッ素樹脂共重合技術を駆使して、PTFEを図１のように化学的に変性した「ゼッフルGK」を開発した。これにより世界で初めて常温および焼付け型塗料用の４フッ化系フッ素樹脂が工業レベルで供給可能となった。「ゼッフルGK」は従来の耐久性塗料に比べてフッ素含有量の増大、塩素フリーを実現した事により、過酷な条件下でも耐えうる塗膜を提供する。過酷条件下での高耐久性の一例として図２に金属板（SUS）に塗装したクリア（透明）塗膜の暴露結果を示す。紫外線量の多い宮古島での長期暴露という過酷な条件のため、従来耐久性が高いとされてきた３フッ化系でさえ塗膜が黄変し、基材に著しいさびが発生、塗膜からは樹脂分解により離脱した塩素およびフッ素イオンが溶出している（=塗膜が劣化）。一方、「ゼッフルGK」塗膜は外観および塗膜劣化において異常が認められず、４フッ化の極めて優れた耐久性が証明されている。

超低汚染

建物の垂直面に発生する雨筋状の汚れは建築物の外観を非常に醜いものにする。特にフッ素樹脂は汚れやすいのではないかとの疑問があった。この雨だれ汚染を防ぐには塗膜表面を親水化（水に濡れる）し汚れが雨で自然に洗い流されるようにすれば有効であり（図

表１　４フッ化系樹脂と３フッ化系樹脂

	4フッ化系	3フッ化1塩化系
フッ素の主構造	4F	3FCl
フッ素含有量	35%	25～28%
結合力	C-F 485.6kJ	C-Cl 326.5kJ

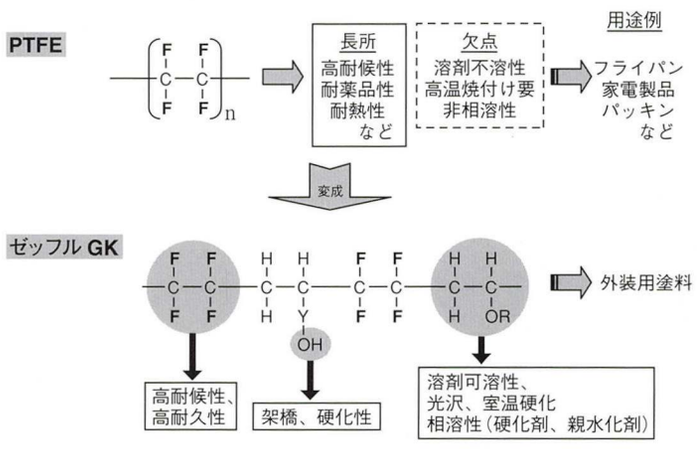
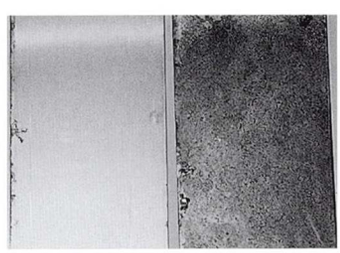


図１　ゼッフルGKの開発

ゼッフルGK　３フッ化系



塗膜からのイオン溶出量(=塗膜の劣化度)
（ppm）

	ゼッフルGK	3フッ化系	
	Fイオン	塩素イオン	Fイオン
初期	0	0	0
暴露後	trace	1210	790

図２　ゼッフルGKと３フッ化系の耐久性比較
（クリア１コート、宮古島実曝露４年）

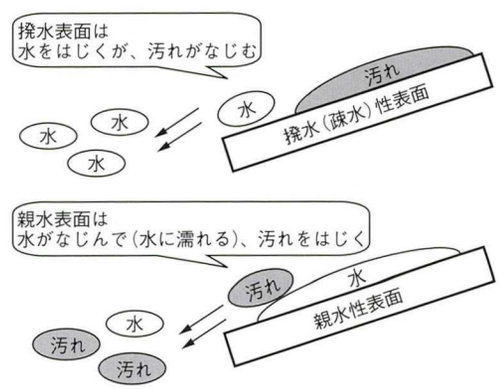


図３　低汚染塗膜のメカニズム

3)、フッ素樹脂用の親水化剤が開発されてきた。しかし、従来の親水化剤は低汚染のニーズを満足できるものではなかった。そこで弊社は独自のフッ素技術および表面改質技術を駆使し表面移行性親水化剤を開発した。この表面移行性親水化剤はフッ素塗料に添加すると塗膜の表面に短時間に濃縮される為、表面を効率良く親水化出来る（**図4**）。従来の低汚染塗料では親水化が半年から1年かかっているため初期段階で汚れてしまうが、表面移行性親水化剤を採用した塗料は1週間程度で親水化するため極めて雨筋の付きにくい塗膜となる。(**図5**)。**写真1**、**2**に超低汚染品と他塗料の雨筋発生度の違いを示す。**写真1**の折り曲げ実曝試験では4フッ化系超汚染塗料と他塗料とでは明らかに雨筋の発生度が違っている。また、**写真2**では雨筋汚れが発生しやすい球形タンク下部で雨筋発生度を比較している。従来塗料を塗っている左側には雨筋がかなり発生しているのに対して右側の4フッ化系超低汚染型塗料では雨筋は発生しておらず超低汚染塗料の効果は明らかである。

4フッ化系樹脂のコストパフォーマンス性

4フッ化系は**図6**のように他素材と比較して耐久性・低汚染性の塗膜性能で圧倒的に優れており、トータルとしてのコストパフォーマンスは高い。

適応用途

現場塗装（コンクリート、金属）、コンクリート打ち放し、アルミ建材（パネル、サッシ）、コンクリートパネルなど幅広い外装塗装用途に適応できる。

今後の展開

4フッ化系フッ素塗料用樹脂「ゼッフルGK」は日本ペイント㈱殿により、これまでの業界にない超耐久性と超低汚染性を実現した4フッ化系フッ素樹脂塗料「デュフロン4Fフレッシュ」「デュフロン4Fスーパーフレッシュ」（以上現場塗装用、平成12年1月発売予定)、「デュフロンK300」「デュフロンK300SC」(以上工場塗装用、170℃焼付)として商品化された。これにより工場塗装用から現場塗装用、一般品から超低汚染品まで建築全般を網羅できる「4フッ化フッ素塗料」体系が完成した。今後は、この4フッ化フッ素樹脂塗料こそ「フッ素樹脂のグローバルスタンダード」になりうるものと考え、建築業界全体への提案活動を展開する。さらに、日本国内だけでなくアジア・欧米などに向けても積極的に発信し、グローバル規模でのフッ素塗料市場の飛躍的拡大を目指していく予定である。

また環境問題対応として、塗料の非溶剤化は不可欠と考え現在開発を進めている。今後もフッ素塗料市場拡大に貢献できるよう優れた技術、商品を提供しつづけていきたいと考えている。

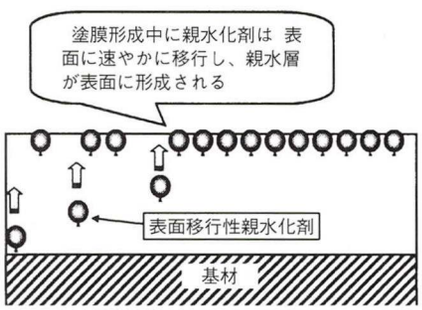


図4　塗膜形成のイメージ図

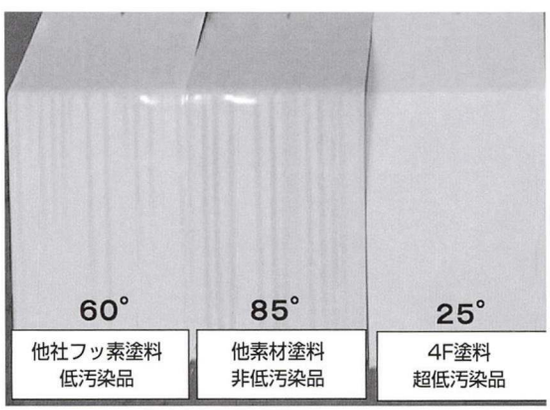


写真1　対水接触角と雨筋の付き方（折り曲げ暴露試験／大阪6ヶ月）

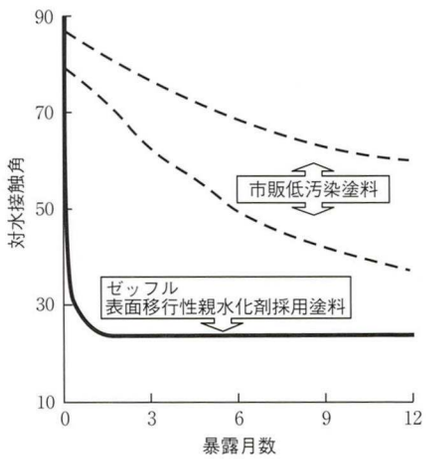


図5　低汚染塗料の表面親水化性能（暴露地／大阪）

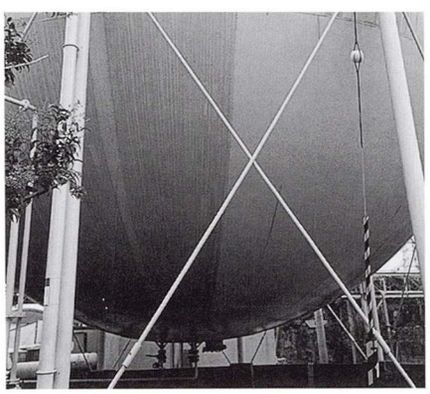


写真2　ゼッフル超低汚染塗料の性能
（球形タンク　施行後3年）
右側：ゼッフル超低汚染塗料塗布部
左側：非低汚染塗料塗布部

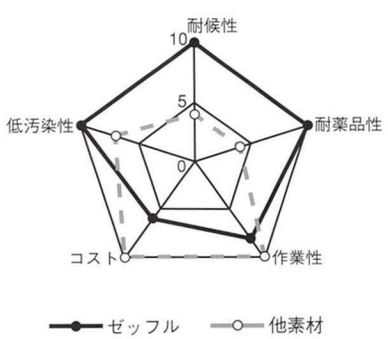


図6　ゼッフルのコストパフォーマンス

大坂の町家が蘇る－町家復元工事見学会－

平成13年春、日本初の住まいのミュージアム（仮称）を大阪市立住まい情報センターの８階、９階に開館する予定で、工事が進められている。

江戸時代の大坂の町並みを再現する９階では、伝統的な大工技術を使い、当時のままに町家復元が行われており、この建築工事の過程が３月に公開される。参加無料。

●町家復元工事見学会

「江戸時代の大坂の町並みが蘇る！」

日時　2000年３月12日（日）
　　各グループ約１時間
　　第①グループ9：30～②11：00～③12：30～
　　④14：00～⑤15：30～

場所　大阪市立住まい情報センター
　　大阪市北区天神橋6-4-20（大阪市営地下鉄「天神橋筋６丁目」３号出口直結）
　　５階研修室で解説のあと、現場見学へ。

募集　2000年２月１日～２月21日必着

定員　100名（抽選）

申込　往復ハガキに氏名・住所・電話番号・年齢と見学希望時間（第１希望・第２希望）を記入し、住情報プラザ「町家復元工事見学会」係
　　（〒530-0041大阪市北区天神橋6-4-20住まい情報センター４F、TEL06-6242-1160）へ。
　　なお、ハガキ１通で、２名まで連記して応募可能。

講座《黄金の17世紀オランダ美術》

日蘭交流400周年の2000年に合わせて、京都造形芸術大学通信教育部芸術学研究室が学生を対象に企画した『黄金の17世紀オランダ美術』講座。その公開講座が３月の東京を皮切りに、京都（４月１日）、大阪（４月15日）でシリーズ開催される。

今回の東京開催では、４月に大阪市立美術館で展観されるオランダの画家ヨハネス・フェルメールとその作品、さらに17世紀の「風俗画」をとりあげ、17世紀オランダの社会と価値観について考える。参加費無料。

なお、京都、大阪開催を含め、本公開講座の詳細問い合わせは京都造形芸術大学東京連絡所広報（TEL/FAX 03-5368-4816）へ。

■公開講座《黄金の17世紀オランダ美術》東京開催

日時　2000年３月11日（土）14：00～17：00

会場　麻布セミナー／地下鉄『広尾』駅より徒歩３分

内容　●第１部『恋のゆくえ…フェルメールの《ラヴレター》をめぐって』／幸福　輝氏（国立西洋美術館学芸課長）
　　……アムステルダム国立美術館蔵のフェルメールの作品《ラヴレター》にある手紙のモティーフを手がかりに、オランダ風俗画の「主題と無主題」に話を展開していく。
　　●第２部『市民社会の「ハレ」と「ケ」』／高橋達史氏（青山学院大学教授）
　　……風俗描写といえば「ケ」ではなく「ハレ」。長らく非日常の光景を扱うのが通例であったが、オランダでは家庭生活の描写が中心を占めるに至った。この17世紀オランダの社会と価値観を！

企画　蜷川順子（近畿大学）
　　京都造形芸術大学芸術学研究室

定員　100名余（定員超過の場合は抽選）

申込　ハガキに住所、氏名（ふりがな）、年齢、職業、電話番号を書き、２月29日（消印有効）までに京都造形芸術大学東京連絡所〈〒160-0012東京都新宿区南元町13-7、日本文化藝術財団内〉へ。

ATC関西学生卒業作品展Vol.5

企画段階から学生が参加し展覧会をつくるATC関西学生卒業作品展は、学校や学科を超えた学生同士のコミュニケーションの場ともなっており、昨年は15大学３専門学校の参加のもとに開催された。

今年も、関西の建築、デザイン系の学生の卒業作品を集め作品展を開く。記念シンポジウムも開催の予定。

会場　ATC・ITM棟12階　ATCデザインセンター
　　大阪市住之江区南港北2-1-10

会期　2000年３月17日（金）～26日（日）

主催　アジア太平洋トレードセンター㈱

後援　大阪府、大阪市、㈳日本建築協会ほか

問い合わせは、大阪デザイン振興プラザ（TEL 06-6615-5510）へ。

HASS218制定に向けて

㈳空気調和・衛生工学会は、「集合住宅排水システム小委員会」と「集合住宅排水立て管システムの能力試験法作成小委員会」を設置し、連携してHASS（空気調和・衛生工学会規格）の策定を行い、近々HASS218として制定する予定をしているが、これらの活動の成果が、シンポジウムの形で発表される。司会は鎌田元康氏（東京大学）。

■集合住宅排水システムの排水能力と設計法

日　時　2000年２月29日（火）13：30～17：30

会　場　工学院大学高層棟３階0312教室
　　東京都新宿区西新宿1-24-1

定　員　100名（先着順）

参加費　4000円（消費税、テキスト代含む）
　　当日支払い

申込先　参加者氏名・勤務先・所属・住所・TEL／FAXを記入して、FAXで㈳空気調和・衛生工学会（FAX 03-3363-8266）へ。

テーマ　集合住宅排水立て管システムの能力試験法
　　集合住宅排水立て管システムの管内圧力予測法
　　排水能力試験法と設計法

福祉住環境コーディネーター講座

大阪ガスインテリアデザインスクールは、「福祉住環境コーディネーター講座」を３月に開講する。この講座では建築だけでなく、福祉器具や高齢者や障害者の特性なども講義し、住環境をトータルに学べる内容となっている。定員は30名。講師は交渉中。

●スケジュール　全５回毎週水曜日／18：45～21：05

①３月15日（水）福祉住環境整備の意義と役割
　　福祉の考え方

②３月22日（水）高齢者・障害者の特性
　　介護と住環境の問題点

③３月29日（水）高齢者・障害者に対する諸関連施策とサービス、介護保険について

④４月５日（水）福祉住環境整備の基礎知識
　　福祉住環境整備の進め方

⑤４月12日（水）福祉住環境整備の基本技術
　　部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方

⑥４月19日（水）福祉用具の活用
　　福祉住環境整備の疾患
　　障害者別応用技術

⑦５月10日（水）模擬試験と解説

●場　所　備後町オークビル６階／大阪市中央区備後町3-6-14

●授業料　45000円（税込み）※テキスト代別

●申　込　大阪ガスインテリアデザインスクール事務局
　　（TEL 06-6262-4089　FAX 06-6262-7202）

この講座は、「福祉住環境コーディネーター検定３級」認定試験に対応して新規に開設されたもので、東京商工会議所では昨年２回認定試験を実施している。

セメント系固化材セミナー

㈳セメント協会はセミナー「セメント系固化材を用いた地盤・土質改良の新技術」を、３月に仙台（２日／仙台国際センター）と東京（10日／経団連ホール）で開催する。

地盤・土質改良材としてのセメント系固化材の魅力をあらゆる角度から紹介しようという企画で、受講料はテキスト代込み12000円。

本セミナーに関する問い合わせは、㈳セメント協会事業部普及課（TEL 03-3561-8634）へ。

●講演（10：00～16：20）ー東京会場ー

（１）地盤改良とセメント系固化材
　　㈳セメント協会　金城徳一氏

（２）最近の土工技術と固化材の活用
　　中央大学名誉教授　久野悟郎氏

（３）港湾における最近の固化処理技術
　　運輸省港湾技術研究所　北詰昌樹氏

（４）地盤・土質改良ーさまざまな取り組みー
　　大成建設㈱技術研究所　檜垣貫司氏

（５）建築物敷地地盤の改良とその評価基準
　　建設省建築研究所　二木幹夫氏

第2回国際デザイン史フォーラム「日英デザイン交流史」

■デザイン史フォーラム2000と懇親会
と　き　2000年3月23日(木)9：20～懇親会20：00～
ところ　大阪大学（豊中キャンパス）基礎工学部
　　シグマホール（豊中市待兼山町1-5）
定　員　フォーラム180名、懇親会60名（先着順）
会　費　フォーラム2000無料、懇親会4000円
　　（支払いはシグマホール受付にて）
・芸術論における日英交流／神林恒道（大阪大学）
・建築における日英交流、武田五一を中心に／足立裕司（神戸大学）
・イギリスの芸術植物学と日本／塚田耕一（杉野女子大学）
・C・R・マッキントッシュにとっての日本／木村博昭（神戸芸術工科大学）
・ラスキン、モリスと日本／多田稔（大谷大学）
・ジャポニズム：ヴィクトリアン・デザインの触媒／ライオネル・ランボーン（前ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館）
・浮世絵とイギリス／タイモン・スクリーチ（ロンドン大学アジア・アフリカ研究院）
■プレ・フォーラム「水の都」大阪ツアー（定員60名）
と　き　2000年3月22日(水)14：00～
見学先　泉布観→（水上バス）→東洋陶磁美術館
集　合　泉布観（大阪市北区天満・造幣局北側）前
費　用　水上バス1380円、美術館入館料400円
講　演　明治初年のイギリス建築／藤田治彦(大阪大学)
■ポスト・フォーラム京都ツアー（定員50名）
と　き　2000年3月24日(金)10：00～15：00
見学先　藤井有鄰館（中国美術工芸の美術館、建物設計／武田五一→平安仏所（江里）工房（切金の専門工房）→白沙村荘（日本画家・橋本関雪の旧邸）　…10時に藤井有鄰館に集合…
費　用　入館料と京会席料で約11400円
いずれも2月20日までに往復ハガキに下記事項を明記し、国際デザイン史フォーラム事務局（〒560-8532豊中市待兼山町1-5　大阪大学大学院文学研究科美学研究室内、TEL 06-6850-6111）へ。先着順に受け付け。
葉書「往信」－①参加希望日②参加希望懇親会、昼食会③氏名とそのローマ字表記④所属等とその英語名⑤連絡先住所⑥連絡先TEL／FAX／E-mail⑦他
葉書「返信」－①参加希望日②参加希望懇親会、昼食会③氏名　〈参加票として当日持参〉

宅地擁壁技術講習会開催

（1）性能、品質に関する最近の話題と擁壁／建設省建築研究所・二木幹夫氏
（2）宅地防災行政／建設省建設経済局・神野忠広氏
（3）建設基準法施行令の改正／建設省住宅局・北村重治氏
（4）都市基盤整備公団における宅地造成の変遷／都市基盤整備公団技術監理部・杉浦省吾氏
（5）最近のコンクリート技術ーコンクリートの硬化時間の調整技術ー／太平洋セメント㈱・富田六郎氏

●

日時　2000年3月6日（月）10：30～16：30
会場　虎ノ門パストラル（東京都港区虎ノ門4-1-1）
定員　350名
会費　10000円（テキスト代含む、テキスト当日配布）
申込　主催者・(社）全国宅地擁壁技術協会（TEL 03-5294-1481、FAX 03-5294-1483、銀行口座：第一勧業銀行神田駅前支店／普通預金口座No.1674378／名義（社）全国宅地擁壁技術協会）へ、2月25日までに申し込みと同時に会費送金。

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

（2000年2月号）

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品
　よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事
　よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

送付先：
(社)日本建築協会
「建築と社会」
FAX 06-6348-0634

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

勤務先＿＿＿＿＿＿＿＿　TEL＿＿＿＿＿＿＿＿

日本建築協会

月間の動き

【平成11年11月分】

正・副会長会議

8日　12時～2時・於本会会議室
出席者　市川会長ほか5名
議　事（1）平成12年度の役員人事について
（2）協会の今後の運営方針について

常設委員会委員長、副委員長会議

15日　3時30分～5時・於本会会議室
出席者　市川会長ほか12名
議　事　今後の協会の事業運営について

理事会

第4回常任理事会
17日　4時～4時50分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか16名
議　事（1）平成12年度の評議員定数の件
（2）入退会者承認の件
（3）経過事業報告
（4）第5回日本建築協会賞の応募状況について
第5回会勢理事会
17日　3時～4時・於本会会議室
出席者　岡本副会長ほか4名
オブザーバー／市川会長　三品副会長
議　事（1）入退会状況（報告事項）
（2）今後の取り組みについて
第1回編集理事会
26日　4時～5時30分・於本会会議室
出席者　金多副会長ほか6名
議　事（1）「建築と社会」の編集内容について
（2）「読者と選ぶ『建築と社会賞』」実施について
（3）「建築と社会」の収支状況について

編集委員会

第8回編集委員会
8日　6時～8時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか10名
議　事（1）11年12月号「第46回青年技術者」特集経過報告
（2）1月号「21世紀のデザインの動向」「安井建築設計事務所創業75周年」特集経過報告
（3）2月号「こころを癒す環境デザイン」「中国支部ーしまなみ海道と中国地方の街づくり」特集・特別企画「九州作品集」経過報告
（4）3月号「東海支部会員作品」「東海支部ー富山・地域文化の形成と施設づくり」特集経過報告
（5）シリーズ頁経過報告
（6）平成12年表紙デザイン案検討
（7）平成12年度特集の分担
（8）「建築と社会」作品顕彰の検討
（9）収支状況報告
第7回広告企画小委員会
8日　5時～6時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか7名
議　事（1）12月号広告経過報告
（2）1月号「安井建築設計事務所」特集広告経過報告
（3）2月号「中国支部」特集「九州作品集」広告経過報告
（4）3月号「東海支部会員作品」「東海支部ー富山・地域文化の形成と施設づくり」特集広告経過報告
（5）作品作風関係報告
（6）独自特集経過報告
（7）収支状況報告
（8）「建築と社会」作品顕彰について
第8回構造分科会
5日　6時～8時・於本会会議室
出席者　大氏幹事ほか5名
議　事（1）台湾地震の現地調査報告
（2）「木とともに」特集の反響
（3）「構造の頁」の企画
第8回「素材と技術が生み出すデザイン」幹事会
18日　6時30分～9時・於あまべ
出席者　本多幹事ほか9名
議　事（1）11月号「水／故事を読む」
（2）12月号「総括」
第5回計画系ーインテリア・住宅ー分科会
24日　7時～9時・於本会会議室
出席者　石川幹事ほか6名
議　事　6月号「スケルトン＆インフィル」の企画
第8回施工材料分科会
25日　4時～6時・於本会会議室
出席者　小椎八重幹事ほか4名
議　事（1）平成12年5月号施工材料特集について
（2）「施工材料の頁」の企画
第8回作品作風小委員会
25日　7時～9時15分・於本会会議室
出席者　前川副委員長ほか7名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）「Sketch Book 欄」の掲載予定
（5）11月号会員作品特集号について
第6回法令分科会
30日　2時～4時15分・於本会会議室
出席者　浜野幹事ほか3名
議　事（1）「法令コーナー」の企画
（2）7月号法令特集の件

事業委員会

第7回若い会員の集い小委員会
2日　7時～9時30分・於本会会議室
出席者　米井幹事ほか1名
議　事（1）実施報告
（2）「30's EYE出版」について
第5回情報小委員会
9日　6時～8時・於本会会議室
出席者　川村副委員長ほか8名
議　事（1）前回事業委員会の報告
（2）実施報告
（3）今後の予定について
第5回見学会小委員会
11日　6時～8時30分・於本会会議室
出席者　福島副委員長ほか13名
議　事（1）前回事業委員会の報告
（2）今後の予定について
（3）今後の見学会の候補について検討
第5回事業委員会
16日　5時～6時30分・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか7名
議　事　各小委員会からの報告と検討

出版委員会

第7回出版委員会
18日　5時30分～7時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか7名
議　事（1）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定
（3）第21回〈プロのノウハウ〉講座実施報告並びに第22回の講座企画
第9回「（仮称）汚れにくい建物を目指して」小委員会
26日　6時～8時・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか6名
議　事（1）原稿の検討及び確認
（2）「編集」に関する事項及び「今後の作業」に関しての確認

教育委員会

第45回工高生デザインコンクール表彰式
13日　2時～4時・於本会会議室
出席者　石川審査委員長　山本・吉村両審査委員
片倉教育委員長ほか教育委員5名
入選者10名及び引率者8名
議　事　入選者の表彰及び茶話会
第1回講習会小委員会
25日　6時～7時30分・於本会会議室
出席者　金澤・仲村・高熊各講師
藤井副委員長ほか6名
議　事（1）前年度建築工事実務講習会の実施報告
（2）本年度建築工事実務講習会の開催について

見学会

近代建築見学会（第10回）旧平賀邸を訪ねる
13日　2時～4時30分・参加者20名
まちなみ見学会（第3回）大津市坂本
27日　10時30分～4時30分・参加者33名

パネルディスカッション

東部新都心HAT神戸・灘の浜デザインフォーラム
20日　2時～4時45分・参加者75名
講師　遠藤剛生／遠藤剛生建築設計事務所
佐々木葉二／鳳コンサルタント・環境デザイン研究所
中嶋龍彦／中島龍彦建築設計事務所

建築クラブ

第331回朝食会

9日　8時30分～10時・於大阪空日空ホテル
演題　「21世紀の女性たち」
講師　津村明子氏(大阪府生活協同組合連合会会長理事)
参加者　40名

入会者(敬称略)

［個人会員26名］

小倉　良友（日建設計）	具志　勉（鹿島建設）	肥田　正俊（東陶機器）
小谷陽次郎（日建設計）	福原　和則（鹿島建設）	安田　清美（東畑建築事務所）
小西　厚夫（日建設計）	水口　浩一（大成建設）	大倉　克仁（環境開発研究所）
辻　昭憲（安井建築設計事務所）	泉　智憲（熊谷組）	柿田　芳久（鴻池組）
藤森　久司（昭和設計）	岡持　博久（藤木工務店）	椿本　照夫（椿本興業）
井下　仁史（佐藤総合計画）	柴山　直子（柴山建築研究所）	小林　泰樹（小林泰樹アトリエ）
渡辺　猛（佐藤総合計画）	加藤　武範（西日本電信電話）	長江　隆平（ケーエスジー）
居内　章夫（徳岡昌克建築設計事務所）	石井　幹子（JC興産）	川口　英樹（藤木工務店）
荒井　康昭（鹿島建設）	今野　直史（東畑建築事務所）	

■訂正

当会「会員名簿(1999－2000年版)」営業案内欄(p249)の営業種目に誤りがありましたので、下記のように訂正してお詫びいたします。

三晃金属工業株式会社
防水防湿(p249)→屋根工事(p250)

『知られざる建築家 光安義光』限定頒布の予約受け付け

昨年4月11日に亡くなった建築家・光安義光氏の全貌を知人や弟子たちの手でまとめた『知られざる建築家 光安義光』が今年4月末に発行される予定で、限定出版のため、購入予約を受け付けている。

故光安義光氏は兵庫県営繕課長として兵庫県庁舎など数多くの公共建築を手がけ、退職後は建築事務所を開設するかたわら大学で後進の指導に当たった。この書は、モダニズムという切り口で氏の建築思想や生き方を後世に伝えるものとなっている。

申込先　『建築家・光安義光』出版委員会（兵庫県建築設計監理協会内　〒650-0011神戸市中央区下山手通5-5-16　TEL 078-371-0833、FAX 078-351-3166）

振込先　さくら銀行兵庫県庁出張所、普通預金口座番号3222097、建築家・光安義光出版委員会

体　裁　A5判192頁（カラー16頁含む）

定　価　2200円（消費税込み、送料別）
ただし今回の予約に限り、2000円（税込み）の特別価格で頒布する。

●目次

レクイエム	清家　清
はじめに	井上充夫
建築家としての顔	
・モダニズムの建築家として	竹山清明
・光安義光とその時代背景	北島道生
・民族学的建築家・光安さんのこと	堯天義久
・アブストラクトの建築家	川島智生
公務員としての顔	
・公共建築と兵庫県営繕	石田潤一郎
・兵庫県営繕と光安義光	志方敬育
・座談会「営繕時代を語る」	兵庫県関係者
・光安通りの建築	武田則明
教育者としての顔	
・教育者としての光安義光	三宗司郎
指揮者としての顔	
・光安義光とアトリエ	光安義博
・リーダーシップ	森崎輝行
年譜	
あとがき	沢田　伸

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営 業 所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出 張 所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話06-6364-6661（代表）
本　　社　〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話03-3311-8511（代表）

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06—6466—2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電 0720—49—2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

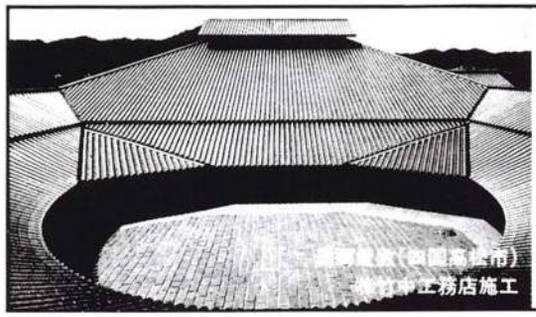
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312—7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 六五六一—七四五四
ファックス 六五六一—七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理
● 電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
● 空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
● プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
● 情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
● 電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電

あかと青があふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電話 06（6205）3671（代）
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03（3666）1478（代）
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
三宝電機株式会社
SANPO
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL.06(6364)1471・FAX06(6364)5533
東京支社 〒105-0003 東京都港区西新橋3-9-3(ランディック第3ビル) TEL.03(5472)3311・FAX03(5472)0085
名古屋支店 〒462-0847 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店 〒657-0035 神戸市灘区友田町3-6-11K・Tビル TEL.078(842)6411・FAX078(842)6416
堺研究所 〒590-0906 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長 伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(6202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3—4—5
TEL06(6792)5858 FAX06(6792)2810

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

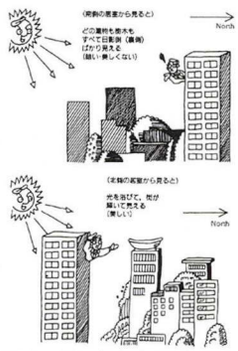
●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10 TEL.06-6352-7502 FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19 TEL.06-6352-0943 FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15 TEL./FAX.06-6352-1551

〈初年度版〉
ISBN4-7615-2196-1
企画／日本建築協会

徹底解説 大改正 建築基準法

初年度版





本書「住宅の居室の日照規定の削除」の項より

民間建築主事
住宅の居室の日照規定の削除
身分証明証の携帯・提示
準防火地域内における、
木造３階建共同住宅の解禁
連担建築物設計制度
性能規定化
などをポイント解説

その中身はどう変わったか
どう対処していけばいいのか
大好評「読みこなすコツ」
シリーズの著者が
わかりやすく、具体的に、
改正法のねらいを徹底解説

高木任之著
A5・208頁・2000円＋税

学芸出版社
京都市下京区木津屋橋通
西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

［プロのノウハウ］

高木任之◀著　日本建築協会◀企画

都市計画法を読みこなすコツ

▶目次
1 法律でいう「都市計画」とは何か
2 都市計画では何を決めるか（都市計画の内容）
3 都市計画を決定する・都市計画を実施する（その手続き）
4 市街化調整区域内の市街化を抑制する
5 市街化区域内の整備を進める
6 都市計画事業を進めやすくする
7 事業を実施して都市計画を実現する（市街地開発事業）
8 街づくりを誘導するシステム（地区計画等）

四六判■２８８頁
定価■2472円

平成８年施行の新用途地域と
阪神大震災後の最新条項を
盛り込んだ
都計法のハンドブック

建築関連法規を読みこなすコツ

▶目次
1 道路・下水道と建築基準法
2 水・ガス・電気と建築基準法
3 特殊建築物と建築基準法
4 文化財保護法と建築基準法
5 消防法と建築基準法（その１）
6 消防法と建築基準法（その2）
7 都市計画法と建築基準法（地域・地区）
8 区画整理・再開発法制と建築基準法
9 建築士法・建設業法と建築基準法

四六判■２８８頁
定価■2472円

関係法令を建築関係者のために
とりあげた待望の解説書

▶姉妹書「新版 建築基準法を読みこなすコツ」
「建築物の消防法を読みこなすコツ」

学芸出版社　〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL075-343-0811　FAX075-343-0810

木造住宅監理の話

企画・日本建築協会

Osamu Yamada
●山田 修 著

四六・176頁・1800円＋税
ISBN4-7615-1163-X

設計者の意図を理解し、個性豊かな職人と渡りあいながら、建築主の技術的責任者として、高品質の住宅を完成させる現場監理のコツを経験豊かな著者がわかりやすく説く。基礎工事～木工事～屋根工事～左官工事～塗装工事の具体例を写真で追いながら、体験にもとづく臨場感あふれるエピソードをまじえて、味わい深い文章で語る。

学芸出版社
京都市下京区
木津屋橋通西洞院東入
〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

著者紹介

神戸工業専門学校（現神戸大学）卒。修（しゅう）建築事務所長。大阪市立大学・梅花短期大学講師。韓国古文化研究会主宰。日本建築学会・日本建築協会・大阪府建築士会の役員・委員。日本建築士会連合会長賞・韓国観光公社賞・釜山建築士会功労牌を受賞

もくじ

第１章　仮設工事と土工事・基礎工事
第２章　木工事
第３章　屋根工事
第４章　左官工事
第５章　塗装工事
第６章　既設住宅の改装工事
第７章　雑工事
第８章　竣工時の監理者点検表

環境と共生する建築
25のキーワード
環境の世紀へ　いま建築に出来ること

地球が直面する課題、環境建築の手法、環境共生の技術を25のキーワードにピックアップして最新情報をまじえてコンパクトに解説

A5判／224頁／並製　大西正宜 著
ISBN4-7615-2214-4　（今宮工業高校教諭）
定価2500円＋税　企画・日本建築協会

学芸出版社
京都市下京区
木津屋橋通西洞院東入
〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

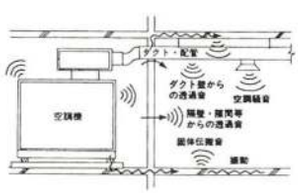
■内容紹介■

環境の世紀へ向けて、地球と人類が直面する課題、環境建築の手法、環境共生の技術を、それぞれ２５のキーワードでコンパクトに解説した。環境ホルモンから雨水利用まで、最新情報をまじえながら、環境と建築の関わりをトータルに概観。参考文献、索引も充実して資料としても使える。いま建築にできることは何なのか、技術者こそ必読。

■主要目次■

第１章　環境建築の視点
地球環境の破壊、ヒートアイランド、都市の水環境、ダイオキシン類、環境ホルモン、シックハウス症候群、建設廃棄物とリサイクル、省エネルギーの基準、健康性と快適性
第２章　環境建築の手法
建築物の保温と結露防止、太陽熱のパッシブ利用、高機能ガラス、ブリーズ・ソレイユ、屋上緑化と壁面緑化、地中の利用、シックハウスを防ぐ材料と工法
第３章　環境共生の技術
蓄熱式ヒートポンプと地域冷暖房、コージェネレーション、太陽エネルギーと風力エネルギー、新エネルギーの開発、未利用エネルギーの利用、雨水利用、排水の再利用、雨水の地下浸透、水辺の近自然工法

((プロのノウハウ))



建築と音のトラブル

第一線の
技術研究者が
わかりやすく
鋭く解説

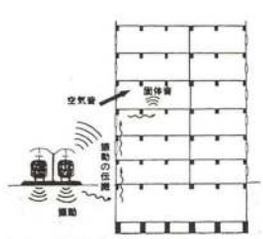


企画・日本建築協会

田野正典、中川清、縄岡好人、平松友孝著
（鹿島建設）　（清水建設）　（大林組）　（大成建設）

四六・224頁（2色刷）・2300円＋税　ISBN 4-7615-2197-X

生活騒音、建物の構造や配置プランによる騒音、設備機器からの騒音振動、配管の伝搬経路の騒音など、建物に関わる様々な音のトラブルの解決方法をゼネコンの第一線の技術研究者が解説。約50の重要事例について具体的な内容→原因→対策→解説→ヒントとして整理し、建築設計や施工監理の実務担当者に役立つよう構成した。



学芸出版社
京都市下京区木津屋橋通
西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

Vol.81通巻935号 2000年2月1日発行 毎月1回1日発行 昭和24年3月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182



西島団地（その2）（民開）建設工事　　写真：伸和
設計・監理■住宅・都市整備公団、鴻池・佐藤・錢高JV
施　　工■鴻池・佐藤・錢高JV

株式会社　マ ル シ ン

〒556-0016 大阪市浪速区元町2-13-2
TEL.(06)6647-5411 FAX.(06)6647-5448

旭硝子建材株式会社
□旭シポレックス
〒550-0012 大阪市西区立売堀1-3-13第三富士ビル
TEL.(06)6538-0523 FAX.(06)6538-0526

ツルガスパンクリート株式会社
□穴あきPC版「スパンクリート」
〒530-0013 大阪市北区茶屋町18-21豊崎ビル
TEL.(06)6374-1245 FAX.(06)6371-3823

株式会社ノザワ関西支店
□押出成形板 アスロック
〒650-0035 神戸市中央区浪花町15番地
TEL.(078)391-1651 FAX.(078)333-4143

社団法人 日本建築協会 〒530-0014 大阪市北区梅田1-9-9 第3ビル 電話大阪06(6348)0655 FAX06(6348)0654 振替口座00210-9-11514
定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収